

有価証券報告書

(平成21年度)

自平成21年4月1日

至平成22年3月31日

三菱重工業株式会社

平成21年度（自平成21年4月1日 至平成22年3月31日）

有価証券報告書

- 本書は金融商品取引法第24条第1項に基づく有価証券報告書を、同法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用して、平成22年6月24日に提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 本書には、上記の方法により提出した有価証券報告書の添付書類は含まれておりませんが、監査報告書は末尾に綴じ込んでおります。

三菱重工業株式会社

目 次

表 紙	1
第一部 企業情報	2
第1 企業の概況	2
1 主要な経営指標等の推移	2
2 沿革	4
3 事業の内容	6
4 関係会社の状況	9
5 従業員の状況	18
第2 事業の状況	19
1 業績等の概要	19
2 生産、受注及び販売の状況	22
3 対処すべき課題	24
4 事業等のリスク	25
5 経営上の重要な契約等	27
6 研究開発活動	29
7 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	31
第3 設備の状況	35
1 設備投資等の概要	35
2 主要な設備の状況	36
3 設備の新設、除却等の計画	40
第4 提出会社の状況	41
1 株式等の状況	41
(1) 株式の総数等	41
(2) 新株予約権等の状況	41
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	48
(4) ライツプランの内容	48
(5) 発行済株式総数、資本金等の推移	48
(6) 所有者別状況	48
(7) 大株主の状況	49
(8) 議決権の状況	50
(9) ストックオプション制度の内容	52
2 自己株式の取得等の状況	54
3 配当政策	55
4 株価の推移	55
5 役員の状況	56
6 コーポレート・ガバナンスの状況等	62
第5 経理の状況	69
1 連結財務諸表等	70
(1) 連結財務諸表	70
(2) その他	121
2 財務諸表等	122
(1) 財務諸表	122
(2) 主な資産及び負債の内容	147
(3) その他	151
第6 提出会社の株式事務の概要	152
第7 提出会社の参考情報	153
1 提出会社の親会社等の情報	153
2 その他の参考情報	153
第二部 提出会社の保証会社等の情報	154
[監査報告書]	巻末

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成22年6月24日
【事業年度】	平成21年度（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）
【会社名】	三菱重工業株式会社
【英訳名】	Mitsubishi Heavy Industries, Ltd.
【代表者の役職氏名】	取締役社長 大宮 英明
【本店の所在の場所】	東京都港区港南二丁目16番5号
【電話番号】	(03) 6716-3111（大代表）
【事務連絡者氏名】	法務部グループ長（国内法務グループ） 小 椋 和 朗
【最寄りの連絡場所】	上記の〔本店の所在の場所〕に同じ。
【電話番号】	上記の〔電話番号〕に同じ。
【事務連絡者氏名】	上記の〔事務連絡者氏名〕に同じ。
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 株式会社大阪証券取引所 （大阪市中央区北浜一丁目8番16号） 株式会社名古屋証券取引所 （名古屋市中区栄三丁目8番20号） 証券会員制法人福岡証券取引所 （福岡市中央区天神二丁目14番2号） 証券会員制法人札幌証券取引所 （札幌市中央区南一条西五丁目14番地の1）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 最近5連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移

回次	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
決算年月	平成18年3月	平成19年3月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月
売上高 (百万円)	2,792,108	3,068,504	3,203,085	3,375,674	2,940,887
経常利益 (百万円)	50,365	83,048	109,504	75,306	24,009
当期純利益 (百万円)	29,816	48,839	61,332	24,217	14,163
純資産額 (百万円)	1,376,289	1,446,436	1,440,429	1,283,251	1,328,772
総資産額 (百万円)	4,047,122	4,391,864	4,517,148	4,526,213	4,262,859
1株当たり純資産額 (円)	410.15	425.54	423.17	369.94	380.80
1株当たり当期純利益金額 (円)	8.85	14.56	18.28	7.22	4.22
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額 (円)	8.83	14.55	18.27	7.21	—
自己資本比率 (%)	34.01	32.52	31.44	27.43	29.98
自己資本利益率 (%)	2.22	3.48	4.31	1.82	1.12
株価収益率 (倍)	63.28	52.34	23.30	41.27	91.71
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	73,928	158,721	161,823	79,533	117,977
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△104,065	△158,653	△193,055	△156,593	△180,704
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	7,974	48,730	71,228	262,002	△105,291
現金及び現金同等物の 期末残高 (百万円)	176,274	227,584	262,852	425,913	261,373
従業員数 (人)	62,212	62,940	64,103	67,416	67,669
〔外, 平均臨時雇用者数〕	〔7,124〕	〔8,812〕	〔9,708〕	〔10,136〕	〔11,881〕

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれていない。

2. 純資産額の算定にあたり、平成18年度から、「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準」（企業会計基準第5号）及び「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準等の適用指針」（企業会計基準適用指針第8号）を適用している。

3. 平成21年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載していない。

(2) 提出会社の最近5事業年度に係る主要な経営指標等の推移

回次		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
決算年月		平成18年3月	平成19年3月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月
売上高	(百万円)	2,206,778	2,426,623	2,471,101	2,647,266	2,327,783
経常利益	(百万円)	32,416	57,465	68,279	46,828	20,047
当期純利益	(百万円)	26,197	39,599	34,421	44,825	18,411
資本金	(百万円)	265,608	265,608	265,608	265,608	265,608
発行済株式総数	(千株)	3,373,647	3,373,647	3,373,647	3,373,647	3,373,647
純資産額	(百万円)	1,307,092	1,273,056	1,240,415	1,125,039	1,142,484
総資産額	(百万円)	3,587,707	3,743,249	3,839,792	3,898,785	3,695,608
1株当たり純資産額	(円)	389.52	379.27	369.43	334.94	340.04
1株当たり配当額 (うち1株当たり 中間配当額)	(円)	4.00 (0.00)	6.00 (3.00)	6.00 (3.00)	6.00 (3.00)	4.00 (2.00)
1株当たり当期純利益金額	(円)	7.77	11.80	10.26	13.36	5.49
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額	(円)	—	—	10.25	13.35	5.48
自己資本比率	(%)	36.43	34.00	32.29	28.83	30.88
自己資本利益率	(%)	2.13	3.07	2.74	3.79	1.63
株価収益率	(倍)	72.07	64.58	41.52	22.31	70.49
配当性向	(%)	51.4	50.8	58.5	44.9	72.9
従業員数 〔外、平均臨時雇用者数〕	(人)	32,627	32,552	33,089	33,614	34,139 〔3,551〕

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれていない。

2. 純資産額の算定にあたり、平成18年度から、「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準」(企業会計基準第5号)及び「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準等の適用指針」(企業会計基準適用指針第8号)を適用している。

3. 平成17年度及び平成18年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載していない。

2【沿革】

三菱の創業者岩崎彌太郎は、明治17年7月7日、工部省から長崎造船局を借り受け、長崎造船所と命名して造船事業に本格的に乗り出した。当社は、この日をもって創立日としている。

その後、造船事業は明治26年12月に設立の三菱合資会社に引き継がれたが、これ以降の沿革は以下に記載のとおりである。

年月		沿革			
(旧) 三菱重工業(株)					
大正6年10月 昭和9年4月	三菱合資会社から同社造船部所属業務の一切を引き継ぎ三菱造船(株)を設立 商号を三菱重工業(株)に変更				
昭和25年1月	過度経済力集中排除法により、3社に分割され、それぞれ中日本重工業(株)、東日本重工業(株)、西日本重工業(株)の商号をもって新発足				
新三菱重工業(株)		三菱日本重工業(株)		三菱造船(株)	
昭和25年1月	中日本重工業(株)の商号をもって本社を神戸市に置き発足	昭和25年1月	東日本重工業(株)の商号をもって本社を東京都中央区に置き発足	昭和25年1月	西日本重工業(株)の商号をもって本社を東京都中央区に置き発足
25年5月	東京、大阪各証券取引所に株式を上場	25年5月	東京、大阪各証券取引所に株式を上場	25年5月	東京、大阪各証券取引所に株式を上場
25年6月	札幌証券取引所に株式を上場	25年6月	札幌証券取引所に株式を上場	25年6月	福岡、札幌各証券取引所に株式を上場
25年8月	名古屋証券取引所に株式を上場	25年8月	名古屋証券取引所に株式を上場	25年8月	名古屋証券取引所に株式を上場
27年1月	福岡証券取引所に株式を上場	27年3月	福岡証券取引所に株式を上場	26年11月	本社を東京都港区に移転
27年5月	商号を新三菱重工業(株)に変更	27年6月	商号を三菱日本重工業(株)に変更	27年5月	商号を三菱造船(株)に変更
33年4月	本社を東京都千代田区に移転	31年7月	本社を東京都千代田区に移転	31年7月	本社を東京都千代田区に移転
昭和39年6月	新三菱重工業(株)、三菱日本重工業(株)及び三菱造船(株)が合併し、三菱重工業(株)の商号をもって長崎造船所、神戸造船所、下関造船所、横浜造船所、広島造船所、高砂製作所、東京製作所、名古屋機器製作所、三原製作所、京都製作所、広島精機製作所、福岡製作所、名古屋自動車製作所、川崎自動車製作所、水島自動車製作所、名古屋航空機製作所を傘下におさめ、本社を東京都千代田区に置き発足				
昭和39年12月	福岡製作所を長崎造船所に併合				
同 44年7月	(株)菱重印刷センター(現(株)リョーイン)を設立				
同 45年6月	自動車部門の営業を三菱自動車工業(株)へ譲渡 これに伴い同社に京都製作所の一部、名古屋自動車製作所、川崎自動車製作所、水島自動車製作所を移管				
	京都製作所を京都精機製作所と改称				
同 46年8月	神戸造船所の建設機械部門を分離して明石製作所を新設				
同 47年10月	三菱重工工事(株)(現三菱重工鉄構エンジニアリング(株))を設立				
同 48年4月	東京製作所を相模原製作所と改称				
同 51年2月	重工環境サービス(株)(現三菱重工環境・化学エンジニアリング(株))を設立				
同 51年6月	広島精機製作所を広島造船所に併合				
同 54年7月	米国三菱重工業(株)を設立				
同 55年2月	佐藤造機(株)が三菱機器販売(株)と合併し、三菱農機(株)に商号を変更				
同 57年10月	広島造船所の工作機械部門を分離して広島工場を新設 名古屋機器製作所の冷熱部門を分離して名古屋冷熱工場を新設				
同 58年4月	横浜造船所を横浜製作所と改称				
同 61年4月	広島造船所の船舶・海洋部門の一部を分離して広島海洋機器工場を新設 広島造船所を広島製作所と改称				
同 61年10月	油圧ショベル関係の営業をエム・エイチ・アイ建機(株)へ譲渡 これに伴い同社に明石製作所を移管				
同 62年4月	オランダにMHI Equipment Europe B.V.を設立				

年月	沿革
昭和62年6月	名古屋冷熱工場をエアコン製作所と改称
同 62年7月	キャタピラー三菱㈱がエム・エイチ・アイ建機㈱と合併し、新キャタピラー三菱㈱に商号を変更
同 63年9月	タイにMitsubishi Heavy Industries - Mahajak Air Conditioners Co., Ltd. を設立
平成元年3月	広島海洋機器工場を廃止
同 元年7月	名古屋航空機製作所を名古屋航空宇宙システム製作所及び名古屋誘導推進システム製作所に分割
同 4年7月	米国にMitsubishi Caterpillar Forklift America, Inc., オランダにMitsubishi Caterpillar Forklift Europe B.V., シンガポールにMitsubishi Caterpillar Forklift Asia Pte. Ltd. を設立
同 7年1月	三菱原子力工業㈱を合併
同 10年10月	印刷機械等中量製品の販売子会社11社を三菱重工東日本販売㈱, 三菱重工中部販売㈱, 三菱重工近畿販売㈱及び三菱重工中国四国販売㈱に再編・統合
同 12年1月	京都精機製作所と広島工機工場を統合し、工作機械製作所と改称
同 12年4月	産業機械事業本部, 汎用機事業本部, 冷熱事業本部並びに相模原製作所, 名古屋機器製作所, 三原製作所, 工作機械製作所, エアコン製作所を再編・統合し, 汎用機・特車事業本部, 冷熱事業本部, 産業機器事業部, 紙・印刷機械事業部, 工作機械事業部及び三原機械・交通システム工場を新設
同 12年10月	㈱日立製作所と共同でエムエイチアイ日立製鉄機械㈱(現三菱日立製鉄機械㈱)を設立
同 13年4月	米国にMitsubishi Power Systems, Inc. (現Mitsubishi Power Systems Americas, Inc.) を設立
同 14年4月	海外戦略本部を新設
同 15年4月	機械事業本部において, プラント事業センターと三原機械・交通システム工場を統合し, プラント・交通システム事業センターを新設
同 15年5月	本社を東京都港区に移転
同 16年4月	中量製品の地域別総合販売子会社6社を三菱重工フォークリフト販売㈱, 三菱重工エンジン発電システム㈱, 三菱重工エンジン販売㈱, 三菱重工空調システム㈱, 三菱重工産業機器販売㈱, 三菱重工印刷紙工機械販売㈱及び三菱重工工作機械販売㈱に再編
同 17年4月	産業機器事業部を廃止
同 17年12月	株式取得により三菱自動車工業㈱を持分法適用関連会社化
同 18年5月	鉄構建設事業本部と機械事業本部を統合し, 機械・鉄構事業本部を新設
同 19年3月	オランダにMHI International Investment B.V. を設立
同 19年6月	増資引受により日本輸送機㈱を持分法適用関連会社化
同 20年3月	エムジェット㈱を設立
同 20年4月	エムジェット㈱が三菱航空機㈱に商号を変更
同 20年8月	新キャタピラー三菱㈱がキャタピラーージャパン㈱に商号を変更
同 21年10月	広島製作所及びプラント・交通システム事業センターを廃止し, 機械・鉄構事業本部に環境・化学プラント事業部, 交通・先端機器事業部及び機械事業部を新設 三菱重工環境エンジニアリング㈱が菱和エンジニアリング㈱と合併し, 三菱重工環境・化学エンジニアリング㈱に商号を変更

3【事業の内容】

当社グループ（当社、連結子会社及び持分法適用会社）が営んでいる事業は、多くの製品に関して当社が製造、販売を行っている。当社グループの主な事業内容と当社又は関係会社（323社）の当該事業における位置付け及び事業の種類別セグメントとの関連は次のとおりである。

なお、次の6部門は「第5 経理の状況 1（1）連結財務諸表」に掲げる事業の種類別セグメント情報の区分と同一である。

（船舶・海洋）

当部門においては、油送船・コンテナ船・客船・カーフェリー・LPG船・LNG船・自動車運搬船等各種船舶、艦艇、海洋構造物等の設計、製造、販売、サービス及び据付を行っている。

〔主な関係会社〕

長菱船舶工事㈱、エムエイチアイマリンエンジニアリング㈱、エムエイチアイマリテック㈱、関門ドックサービス㈱

（原動機）

当部門においては、ボイラ、タービン、ガスタービン、ディーゼルエンジン、水車、風車、原子力装置、原子力周辺装置、排煙脱硝装置、船用機械、海水淡水化装置、ポンプ等の設計、製造、販売、サービス及び据付を行っている。

〔主な関係会社〕

三菱重工精密铸造㈱、ニュークリア・デベロップメント㈱、三菱重工プラント建設㈱、長菱設計㈱、三菱FBRシステムズ㈱、MHIエネルギー&サービス㈱、Mitsubishi Power Systems Americas, Inc.（米国）、CBC Industrias Pesadas S.A.（ブラジル）、Mitsubishi Power Systems Europe, Ltd.（英国）、Mitsubishi Heavy Industries Dongfang Gas Turbine (Guangzhou) Co., Ltd.（三菱重工東方ガスタービン（広州）有限公司）（中国）、Mitsubishi Nuclear Energy Systems Inc.（米国）

（機械・鉄構）

当部門においては、廃棄物処理・排煙脱硫・排ガス処理装置等各種環境装置、交通システム、輸送用機器、石油化学等各種化学プラント、石油・ガス生産関連プラント、製鉄機械、コンプレッサ、橋梁、クレーン、煙突、立体駐車場、タンク、文化・スポーツ・レジャー関連施設等の設計、製造、販売、サービス及び据付を行っている。

〔主な関係会社〕

三菱重工鉄構エンジニアリング㈱、三菱日立製鉄機械㈱、三菱重工環境・化学エンジニアリング㈱、三菱重工メカトロシステムズ㈱、三菱重工パーキング㈱

（航空・宇宙）

当部門においては、戦闘機・ヘリコプタ・民間輸送機等各種航空機、航空機機体部分品、航空機用エンジン、誘導飛しょう体、魚雷、航空機用油圧機器、宇宙機器等の設計、製造、販売、サービス及び据付を行っている。

〔主な関係会社〕

三菱航空機㈱、MHIエアロエンジンサービス㈱、㈱エムエイチアイロジテック、MHIエアロスペースシステムズ㈱、エムエイチアイオーシャニクス㈱、MHI Aerospace Vietnam Co., Ltd.（ベトナム）

(中量産品)

当部門においては、フォークリフト、建設機械、中小型エンジン、ターボチャージャ、農業用機械、トラクタ、特殊車両、住宅用・業務用・車両用エアコン等各種空調機器、冷凍機、プラスチック機械、食品・包装機械、動力伝導装置、印刷機械、紙工機械、工作機械等の設計、製造、販売、サービス及び据付を行っている。

[主な関係会社]

三菱農機㈱、三菱重工エンジンシステム㈱等汎用機・特車関連国内販売・サービス会社2社、Mitsubishi Turbocharger Asia Co., Ltd. (タイ)、Mitsubishi Caterpillar Forklift America Inc. (米国)等海外フォークリフト3社、MHI Equipment Europe B.V. (オランダ)、三菱重工空調システム㈱等冷熱関連国内販売・サービス会社4社、Mitsubishi Heavy Industries Climate Control, Inc. (米国)、Mitsubishi Heavy Industries-Jinling Air-Conditioners Co., Ltd. (三菱重工金鈴空調器有限公司) (中国)等海外住宅用エアコン5社、三菱重工印刷紙工機械販売㈱、三菱重工食品包装機械㈱、三菱重工プラスチックテクノロジー㈱、三菱重工工作機械販売㈱、キャタピラーージャパン㈱(関連会社)、日本輸送機㈱(関連会社)、㈱東洋製作所(関連会社)

(その他)

当部門においては、不動産の売買、印刷、情報サービス及びリース業、海外における当社製品の販売、サービス、市場調査等を行っている。

[主な関係会社]

㈱田町ビル、菱重エステート㈱、近畿菱重興産㈱等菱重興産6社、㈱リョーイン、エム・エイチ・アイファイナンス㈱、菱日エンジニアリング㈱等エンジニアリング会社、Mitsubishi Heavy Industries America, Inc. (米国)、Mitsubishi Heavy Industries Europe, Ltd. (英国)、三菱自動車工業㈱(関連会社)

[事業系統図]

以上述べた事項を事業系統図によって示すと次のとおりである。

	設計	製造	販売	サービス	据付
	三菱重工業㈱				
船舶・海洋	エムエイチアイマリテック㈱	三菱造船㈱	エムエイチアイマリンエンジニアリング㈱	関門ドックサービス㈱	
	ニュークリア・デベロップメント㈱	三菱重工精密鑄造㈱		MHIエネルギー&サービス㈱	
原動機	三菱設計㈱	Mitsubishi Power Systems Americas, Inc., Mitsubishi Power Systems Europe, Ltd.			
		CBC Industrias Pesadas S.A.			三菱重工プラント建設㈱
	三菱FBRシステムズ㈱	Mitsubishi Heavy Industries Dongfang Gas Turbine (Guangzhou) Co., Ltd.			
			Mitsubishi Nuclear Energy Systems Inc.		
機械・鉄構		三菱重工鉄構エンジニアリング㈱			
		三菱日立製鉄機械㈱			
		三菱重工環境・化学エンジニアリング㈱			
		三菱重工メカトロシステムズ㈱			
		三菱重工パーキング㈱			
航空・宇宙	三菱航空機㈱		三菱航空機㈱		
	MHIエアロスペースシステムズ㈱	MHI Aerospace Vietnam Co., Ltd.		㈱エムエイチアイロジテック	
	エムエイチアイオーシャニクス㈱			MHIエアロエンジンサービス㈱	
中量産品		三菱農機㈱			
			三菱重工エンジンシステム㈱等国内販売・サービス会社2社		
		Mitsubishi Turbocharger Asia Co., Ltd.			
		Mitsubishi Caterpillar Forklift America Inc.等海外フォークリフト3社			
		MHI Equipment Europe B.V.			
		Mitsubishi Heavy Industries Climate Control, Inc.			
			三菱重工空調システム㈱等国内販売・サービス会社4社		
		Mitsubishi Heavy Industries-Jinling Air-Conditioners Co., Ltd.等海外住宅用エアコン5社			
			三菱重工印刷紙工機械販売㈱		
		三菱重工食品包装機械㈱, 三菱重工プラスチックテクノロジー㈱			
			三菱重工工作機械販売㈱		
		キャタピラー・ジャパン㈱ (関連会社)			
		日本輸送機㈱ (関連会社)			
	㈱東洋製作所 (関連会社)				
その他	菱日エンジニアリング㈱等エンジニアリング会社		㈱田町ビル, 菱重エステート㈱及び近畿菱重興産㈱等菱重興産6社		
		㈱リョーイン			
		エム・エイチ・アイファイナンス㈱			
		Mitsubishi Heavy Industries America, Inc., Mitsubishi Heavy Industries Europe, Ltd.			
	三菱自動車工業㈱ (関連会社)				

4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の所有割合(%)	関係内容
(連結子会社) 長菱船舶工務㈱	長崎市	百万円 80	船舶・海洋	100	当社船舶建造に関する役務提供及び資材納入。 なお、当社所有の建物・機械装置を賃借している。 役員の兼任等…有
エムエイチアイ マリンエンジニアリング㈱	東京都 港区	百万円 30	〃	100	当社製品の販売・サービス。 なお、当社所有の建物を賃借している。 役員の兼任等…有
エムエイチアイマリテック㈱	長崎市	百万円 30	〃	100	当社製品の設計・調整・試験。 なお、当社所有の建物を賃借している。 役員の兼任等…有
光和興業㈱	長崎市	百万円 30	〃	71.7	当社建造の船舶に関する曳船作業等。 なお、当社所有の土地・建物を賃借している。 役員の兼任等…有
関門ドックサービス㈱	山口県 下関市	百万円 20	〃	100	当社製品の製造、設備保全に関する役務提供。 なお、当社所有の土地・建物・構築物・機械装置を賃借している。 役員の兼任等…有
㈱三神テック	神戸市 兵庫区	百万円 15	〃	69.4	当社製品の一部製造請負及び修理・改造。 当社設備の製作請負・保守及び工場メンテナンス。 なお、当社所有の建物を賃借している。 役員の兼任等…有
三菱重工精密鋳造㈱	宇都宮市	百万円 450	原動機	100	当社製品の製造。 なお、当社所有の土地を賃借している。 役員の兼任等…有
ニュークリア・ デベロップメント㈱	茨城県 那珂郡	百万円 400	〃	100	当社製品の研究・開発・試験。 役員の兼任等…有
三菱重工プラント建設㈱	広島市 西区	百万円 300	〃	100	当社製品の据付・工事請負・アフターサービス。 なお、当社所有の土地・建物を賃借している。 役員の兼任等…有
㈱原子力発電訓練センター	福井県 敦賀市	百万円 300	〃	66.7	当社製品の利用による原子力運転技術員の教育・訓練。 役員の兼任等…有
長菱設計㈱	長崎市	百万円 100	〃	100 (31.8)	当社製品の設計、コンピュータソフト開発。 なお、当社所有の建物を賃借している。 役員の兼任等…有
三菱FBRシステムズ㈱	東京都 渋谷区	百万円 100	〃	90.0	当社製品の研究・開発・設計・解析。 役員の兼任等…有
ダイヤシュタイン㈱ * 2	福岡県 直方市	百万円 100	〃	50.0	当社製品の製造・販売。 役員の兼任等…有
MHIエネルギー&サービス㈱	横浜市 金沢区	百万円 90	〃	100	当社製品のアフターサービス。自家発電した電力の当社への販売。 なお、当社所有の土地・建物を賃借している。 役員の兼任等…有
MHI 原子力エンジニアリング㈱	横浜市 西区	百万円 90	〃	100	当社製品の設計・解析。 なお、当社所有の建物を賃借している。 役員の兼任等…有
原子力サービス エンジニアリング㈱	神戸市 兵庫区	百万円 80	〃	100	当社製品の保守・点検。 なお、当社所有の建物を賃借している。 役員の兼任等…有
長菱検査㈱	長崎市	百万円 50	〃	100	当社製品の検査。 なお、当社所有の土地・建物・機械装置を賃借している。 役員の兼任等…有
長菱制御システム㈱	長崎市	百万円 40	〃	100	当社製品の設計・製作。 なお、当社所有の建物を賃借している。 役員の兼任等…有

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の所有割合 (%)	関係内容
六ヶ所再処理メンテナンスサービス㈱	青森県 上北郡	百万円 30	原動機	100	当社製品のアフターサービス。 なお、当社所有の建物を賃借している。 役員の兼任等…有
エム・エイチ・アイ・ディーゼルサービス㈱	神戸市 兵庫区	百万円 25	〃	100	当社製品のアフターサービス。 なお、当社所有の建物を賃借している。 役員の兼任等…有
㈱エム・ディ・エス	横浜市 西区	百万円 20	〃	100	当社製品の設計・製作・調整・アフターサービス。 なお、当社所有の建物を賃借している。 役員の兼任等…有
高菱検査サービス㈱	兵庫県 高砂市	百万円 20	〃	100	当社製品の検査。 なお、当社所有の建物・機械装置を賃借している。 役員の兼任等…有
Mitsubishi Power Systems Americas, Inc.	Florida, U. S. A.	百万米ドル 180.0	〃	100 (100)	当社製品の製造・販売・サービス。 役員の兼任等…有
CBC Industrias Pesadas S. A.	Sao Paulo, Brazil	百万レアル 165.1	〃	100	当社製品の設計・組立・据付・アフターサービス。 役員の兼任等…有
Mitsubishi Power Systems Europe, Ltd.	London, U. K.	百万英ポンド 33.6	〃	100 (100)	当社製品の製造・販売・サービス。 役員の兼任等…有
Mitsubishi Heavy Industries Dongfang Gas Turbine (Guangzhou) Co., Ltd. (三菱重工東方ガスタービン(広州)有限公司)	中国 広東省	百万円 2,700	〃	51.0	当社製品の製造・販売・補修・サービス。 役員の兼任等…有
Mitsubishi Nuclear Energy Systems Inc.	Virginia, U. S. A.	百万米ドル 4.0	〃	100	当社製品の許認可取得・販売・アフターサービス。 役員の兼任等…有
MHI Technical Services Corporation	Manila, Philippines	百万フィリピンペソ 100.0	〃	100	当社製品の設計・製図。 役員の兼任等…有
Mitsubishi Heavy Industries BFG Gas Turbine Service (Nanjing) Co., Ltd. (三菱重工煤気燃機服務(南京)有限公司)	中国 江蘇省	百万人民元 17.4	〃	100 (10)	当社製品のアフターサービス。 役員の兼任等…有
MHI Shenyang Pump Engineering Co., Ltd. (瀋陽菱重ポンプ工程有限公司)	中国 遼寧省	百万人民元 10.0	〃	60.0	当社製品の設計・製造。 役員の兼任等…有
Mitsubishi Power Systems (Asia Pacific) Pte. Ltd.	Singapore	百万シンガポールドル 1.8	〃	100 (100)	当社製品の販売・サービス。 役員の兼任等…有
Mitsubishi Power Systems (Thailand) Ltd. * 2	Bangkok, Thailand	百万タイバーツ 16.0	〃	49.0 (48.0)	当社製品の販売・サービス。 役員の兼任等…有
MCNF S. A. S	Marseille, France	百万ユーロ 0.1	〃	51.0	当社製品の販売。 役員の兼任等…有
三菱重工 鉄構エンジニアリング㈱	広島市 中区	百万円 5,000	機械・鉄構	100	当社から承継した橋梁・煙突・ガスホルダ・ビールタンク事業の運営及び当社製品の架設・アフターサービス。 なお、当社所有の土地・建物を賃借している。 役員の兼任等…有
三菱日立製鉄機械㈱	東京都 港区	百万円 3,500	〃	65.7	当社が同社製品である製鉄機械の一部の製造を請負。 なお、当社所有の土地・建物・機械装置を賃借している。 役員の兼任等…有
三菱重工 環境・化学エンジニアリング ㈱	横浜市 西区	百万円 1,000	〃	100	当社から承継した廃棄物処理装置事業及び石油・化学プラント並びにそれらの関連装置のコンサルティング・設計・製作・据付・アフターサービス。 なお、当社所有の建物を賃借している。 役員の兼任等…有

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の所有割合 (%)	関係内容
Lumiotec(株)	山形県 米沢市	百万円 700	機械・鉄構	51.0	当社製の製造装置を使用した照明用有機ELサン プルパネルの製造・販売。 役員の兼任等…有
三菱重工メカトロシステムズ (株)	神戸市 兵庫区	百万円 500	〃	100	当社製品の設計・製作・据付・アフターサービ ス。 なお、当社所有の建物・機械装置を賃借してい る。 役員の兼任等…有
湘南モノレール(株)	神奈川県 鎌倉市	百万円 400	〃	55.2	当社製品を使用したモノレールの運営。 役員の兼任等…有
三菱重工パーキング(株)	横浜市 西区	百万円 350	〃	100	当社から承継した立体駐車場事業を運営。 なお、当社所有の建物を賃借している。 役員の兼任等…有
三菱重工交通機器 エンジニアリング(株)	広島県 三原市	百万円 300	〃	100	当社製品の設計・製作・運転・保守、基盤・制 御盤の製作等。 なお、当社所有の建物・機械装置を賃借してい る。 役員の兼任等…有
(株)リョーセンエンジニアズ	広島市 西区	百万円 100	〃	100	当社製品の設計・製図。 なお、当社所有の建物を賃借している。 役員の兼任等…有
MHI メディカルシステムズ(株) * 2	東京都 港区	百万円 96	〃	50.0	当社製品（医療機器）のマーケティング・販 売・サービス。 役員の兼任等…有
エム イー シー エンジニアリ ングサービス(株)	広島市 中区	百万円 80	〃	100	当社製品の設計・製作・据付・アフターサービ ス。 なお、当社所有の土地・建物を賃借している。 役員の兼任等…有
エム・エイチ・アイ・ ターボテクノ(株)	東京都 港区	百万円 40	〃	100	当社製品のアフターサービス。 なお、当社所有の建物を賃借している。 役員の兼任等…有
広島菱重エンジニアリング(株)	広島市 西区	百万円 30	〃	100	当社製品の設計・製造。 なお、当社所有の土地・建物・機械装置を賃借 している。 役員の兼任等…有
東京環境オペレーション(株)	東京都 港区	百万円 30	〃	100 (40.0)	当社製品を使用したPCB処理施設の運営。 役員の兼任等…有
Crystal Mover Services, Inc.	Florida, U. S. A.	百万米ドル 4.0	〃	60.0 (60.0)	当社製品を使用した空港内APMシステムの運営 及び保守。 役員の兼任等…有
常熟菱重機械有限公司	中国 江蘇省	百万米ドル 3.5	〃	100 (100)	当社製品の組立・製作・販売・アフターサービ ス。 役員の兼任等…有
三菱航空機(株) * 1	名古屋市 港区	百万円 50,000	航空・宇宙	64.6	当社所有の技術を使用した民間航空機（MRJ） の開発、販売及びアフターサービス並びに当社 への航空機の製造委託。 なお、当社所有の建物を賃借している。 役員の兼任等…有
MHIエアロエンジンサービス(株)	愛知県 小牧市	百万円 100	〃	100	当社製品の修理。 なお、当社所有の建物・機械装置を賃借してい る。 役員の兼任等…有
(株)エムエイチアイロジテック	愛知県 小牧市	百万円 60	〃	100	当社製品のアフターサービス。 なお、当社所有の土地・建物を賃借している。 役員の兼任等…有
MHIエアロスペースシステムズ (株)	名古屋市 港区	百万円 50	〃	100	当社製品の設計・コンピュータソフト開発。 なお、当社所有の建物を賃借している。 役員の兼任等…有
エムエイチアイオーシャニクス (株)	長崎市	百万円 30	〃	100	当社製品の設計・製造・試験。 なお、当社所有の建物を賃借している。 役員の兼任等…有

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の所有割合(%)	関係内容
(株)MHIエアロスペース・プロダクションテクノロジー	名古屋市港区	百万円 20	航空・宇宙	100	当社製品の製造。 なお、当社所有の建物・機械装置を賃借している。 役員の兼任等…有
ダイヤモンドエアサービス(株)	愛知県西春日井郡	百万円 20	〃	100	当社製品の修理・サービス。 なお、当社所有の土地・建物を賃借している。 役員の兼任等…有
MHIエアロスペースロジテム(株)	名古屋市中区	百万円 10	〃	100	当社製品の物流・契約支援業務。 なお、当社所有の建物・機械装置を賃借している。 役員の兼任等…有
MHI Aerospace Vietnam Co., Ltd.	Hanoi, Vietnam	百万ベトナムドン 112,000	〃	100	当社製品の製造。 役員の兼任等…有
Intercontinental Jet Service Corporation	Oklahoma, U. S. A.	百万米ドル 4.0	〃	100 (100)	当社製品のサービス。 役員の兼任等…有
MHI Canada Aerospace, Inc.	Ontario, Canada	百万カナダドル 1.1	〃	100	当社製品の製造。 役員の兼任等…有
三菱農機(株) * 3	島根県八束郡	百万円 3,000	中量産品 (汎用機・特車)	86.2	当社製品を仕入れ。 なお、当社所有の土地・建物を賃借している。 役員の兼任等…有
三菱重工エンジンシステム(株)	東京都品川区	百万円 450	〃	100	当社製品の販売・サービス。 なお、当社所有の土地・建物を賃借している。 役員の兼任等…有
(株)常磐製作所	神奈川県伊勢原市	百万円 50	〃	99.7	当社製品の製造。 なお、当社所有の土地・建物・設備を賃借している。 役員の兼任等…有
エム・エイチ・アイさがみハイテック(株)	神奈川県相模原市	百万円 30	〃	100	当社製品の設計・製造・販売。 なお、当社所有の建物を賃借している。 役員の兼任等…有
菱重特殊車両サービス(株)	東京都新宿区	百万円 30	〃	100	当社製品の販売・アフターサービス。 なお、当社所有の土地・建物・機械装置を賃借している。 役員の兼任等…有
さがみ物流サービス(株)	神奈川県相模原市	百万円 10	〃	100	当社製品・部品の運搬・出荷等の物流サービス。 なお、当社所有の土地・建物を賃借している。 役員の兼任等…有
Mitsubishi Turbocharger Asia Co., Ltd.	Chonburi, Thailand	百万タイバーツ 4,448.1	〃	100	当社製品の組立・販売・部品供給。 役員の兼任等…有
Mitsubishi Caterpillar Forklift America Inc.	Texas, U. S. A.	百万米ドル 65.0	〃	88.5	当社製品の製造・販売・サービス。 役員の兼任等…有
MHI Equipment Europe B.V.	Almere, The Netherlands	百万ユーロ 38.3	〃	100	当社製品の組立・販売・アフターサービス。 役員の兼任等…有
Mitsubishi Heavy Industries Forklift(Dalian) Co., Ltd. (三菱重工叉车(大连)有限公司)	中国遼寧省	百万米ドル 37.0	〃	100 (71.5)	当社製品の製造・販売。 役員の兼任等…有
Mitsubishi Caterpillar Forklift Europe B.V.	Almere, The Netherlands	百万ユーロ 18.2	〃	70.0	当社製品の製造・販売・サービス。 役員の兼任等…有
Mitsubishi Engine North America, Inc.	Illinois, U. S. A.	百万米ドル 8.5	〃	100 (100)	当社製品の販売・サービス・部品供給。 役員の兼任等…有
MHI-VST Diesel Engines Private Ltd.	Mysore, India	百万インドルピー 415.0	〃	90.0	当社製品の組立・運転・販売。 役員の兼任等…有
MHI Engine System Asia Pte. Ltd.	Singapore	百万シンガポールドル 12.2	〃	100	当社製品の組立・運転・販売。 役員の兼任等…有
MHI-Pornchai Machinery Co., Ltd.	Chonburi, Thailand	百万タイバーツ 170.0	〃	86.2	当社製品の組立・運転・部品供給。 役員の兼任等…有

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の所有割合 (%)	関係内容
Mitsubishi Caterpillar Forklift Asia Pte. Ltd.	Singapore	百万円 385	中量産品 (汎用機・特車)	70.0	当社製品の販売・サービス。 役員の兼任等…有
菱重増圧器科技(上海)有限公司	中国 上海市	百万米ドル 0.4	〃	100	当社製品の設計・製図。 役員の兼任等…有
三菱重工空調システム㈱	東京都 品川区	百万円 400	中量産品 (冷熱)	100	当社製品の販売・サービス。 なお、当社所有の土地・建物を賃借している。 役員の兼任等…有
菱重コールドチェーン㈱	東京都 千代田区	百万円 200	〃	100	当社製品の販売・サービス。 なお、当社所有の土地・建物を賃借している。 役員の兼任等…有
三菱重工冷熱システム㈱	東京都 中央区	百万円 180	〃	100	当社製品の販売・サービス。 なお、当社所有の土地・建物を賃借している。 役員の兼任等…有
クサカベ㈱	東京都 荒川区	百万円 100	〃	100	当社製品の販売。 役員の兼任等…有
Mitsubishi Heavy Industries Climate Control, Inc.	Indiana, U. S. A.	百万米ドル 100.0	〃	100	当社製品の製造・販売。 役員の兼任等…有
Mitsubishi Heavy Industries-Jinling Air-Conditioners Co., Ltd. (三菱重工金鈴空調器有限公司)	中国 広東省	百万米ドル 30.0	〃	75.5	当社製品の製造・販売。 役員の兼任等…有
Mitsubishi Heavy Industries-Haier (Qingdao) Air-Conditioners Co., Ltd. (三菱重工海爾(青島)空調機有限公司)	中国 山東省	百万円 2,300	〃	55.0	当社製品の製造・販売・アフターサービス。 役員の兼任等…有
Thai Compressor Manufacturing Co., Ltd.	Chachoengsao, Thailand	百万タイバツ 490.3	〃	58.0	当社製品の製造・販売。 役員の兼任等…有
Mitsubishi Heavy Industries-Mahajak Air Conditioners Co., Ltd.	Bangkok, Thailand	百万タイバツ 324.7	〃	81.9	当社製品の製造・販売。 役員の兼任等…有
Mitsubishi Heavy Industries Air-conditioners Australia, Pty. Ltd.	Sydney, Australia	百万豪ドル 4.5	〃	100	当社製品の組立・販売・アフターサービス。 役員の兼任等…有
Mitsubishi Heavy Industries Automotive Climate Control (Shanghai) Co., Ltd. (三菱重工汽車空調系統(上海)有限公司)	中国 上海市	百万米ドル 2.0	〃	100	当社製品の製造・販売。 役員の兼任等…有
三菱重工印刷紙工機械販売㈱	東京都 大田区	百万円 500	中量産品 (産業機械)	100	当社製品の販売・サービス。 なお、当社所有の土地・建物・機械装置を賃借、当社に建物賃貸。 役員の兼任等…有
三菱重工食品包装機械㈱	名古屋市 中村区	百万円 450	〃	100	当社から承継した食品包装機械事業を運営。 なお、当社所有の土地・建物を賃借している。 役員の兼任等…有
三菱重工プラスチックテクノロジー㈱	名古屋市 中村区	百万円 450	〃	100	当社から承継した射出成形機事業を運営。 なお、当社所有の土地・建物を賃借している。 役員の兼任等…有
MHI産器サービス㈱	名古屋市 中村区	百万円 350	〃	100	当社製品のアフターサービス。 なお、当社所有の土地・建物を賃借している。 役員の兼任等…有
三菱重工工作機械販売㈱	滋賀県 栗東市	百万円 300	〃	100	当社製品の販売・サービス。 なお、当社所有の建物を賃借している。 役員の兼任等…有

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の所有割合(%)	関係内容
エム・エイチ・アイ 工作機械エンジニアリング㈱	滋賀県 栗東市	百万円 200	中量産品 (産業機械)	100	当社製品の設計・製造。 なお、当社所有の建物・機械装置を賃借している。 役員の兼任等…有
三原菱重エンジニアリング㈱	広島県 三原市	百万円 100	〃	100	当社製品の設計・製図。基板・制御盤の製作。 なお、当社所有の建物・機械装置を賃借している。 役員の兼任等…有
三原菱重機工㈱	広島県 三原市	百万円 50	〃	100	当社製品の製造。 なお、当社所有の土地・建物・機械装置を賃借している。 役員の兼任等…有
MLP U. S. A., Inc.	Illinois, U. S. A.	百万米ドル 23.0	〃	92.4 (92.4)	当社製品の販売・アフターサービス。 役員の兼任等…有
Shenyang Aerospace Xinguang Mitsubishi Heavy Industries Engine Valves Co., Ltd. (瀋陽航空新光三菱重工気門有 限公司)	中国 遼寧省	百万人民元 82.0	〃	65.0 (32.5)	当社製品の製造・販売。 役員の兼任等…有
Beijing Mitsubishi Heavy Industries Beiren Printing Machinery Co., Ltd. (北京三菱重工北人印刷機械有 限公司)	中国 北京市	百万人民元 46.0	〃	51.0	当社製品の製造・販売。 役員の兼任等…有
MLP Canada Ltd.	Ontario, Canada	百万カナダドル 1.6	〃	65.0	当社製品の販売・アフターサービス。 役員の兼任等…有
Mitsubishi Heavy Industries India Precision Tools, Ltd.	Ranipet, India	百万インドルピー 69.7	〃	96.5	当社製品の製造・販売。 役員の兼任等…有
MHI Machine Tool (H.K.) Limited	香港	百万香港ドル 12.0	〃	100 (100)	当社製品の販売・サービス。 役員の兼任等…有
MLP Hong Kong Ltd.	香港	百万香港ドル 2.0	〃	56.3 (12.5)	当社製品の販売・アフターサービス。 役員の兼任等…有
㈱田町ビル	東京都 港区	百万円 3,000	その他	100	当社所有の建物の運営管理業務受託。 なお、当社所有の建物賃借、当社及び関係会社 に建物賃貸。 役員の兼任等…有
㈱リョーイン	東京都 荒川区	百万円 1,000	〃	100	当社及び関係会社の印刷・複写・情報通信業務 の請負。 なお、当社所有の土地・建物賃借、当社に工具 器具備品賃貸。 役員の兼任等…有
菱重エステート㈱	東京都 港区	百万円 250	〃	100	当社及び関係会社が使用する厚生施設の管理、 土木建築等の業務受託。 なお、当社所有の土地・建物賃借、当社に建物 賃貸。 役員の兼任等…有
エム・エイチ・アイ ファイナンス㈱	東京都 港区	百万円 200	〃	100	当社及び関係会社の製品の割賦・リース、当社 及び関係会社向けリース、当社関係会社に対す るグループファイナンス。 なお、当社所有の建物賃借、当社に機械装置・ 工具器具備品賃貸。 役員の兼任等…有
菱日エンジニアリング㈱	横浜市 金沢区	百万円 200	〃	100	当社製品の設計・製図。 なお、当社所有の建物を賃借している。 役員の兼任等…有
近畿菱重興産㈱	神戸市 兵庫区	百万円 200	〃	100	当社及び関係会社が使用する厚生施設の管理、 土木建築等の業務受託。 なお、当社所有の土地・建物賃借、当社に建物 賃貸。 役員の兼任等…有

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の所有割合(%)	関係内容
東中国菱重興産(株)	広島県三原市	百万円 100	その他	100	当社及び関係会社が使用する厚生施設の管理、土木建築等の業務受託。 なお、当社所有の土地・建物賃借、当社に建物賃貸。 役員の兼任等…有
西日本菱重興産(株)	長崎市	百万円 100	〃	100	当社及び関係会社が使用する厚生施設の管理、土木建築等の業務受託。 なお、当社所有の土地・建物賃借、当社に建物賃貸。 役員の兼任等…有
広島菱重興産(株)	広島市西区	百万円 100	〃	100	当社及び関係会社が使用する厚生施設の管理、土木建築等の業務受託。 なお、当社所有の土地・建物賃借、当社に土地・建物賃貸。 役員の兼任等…有
名古屋菱重興産(株)	名古屋市港区	百万円 100	〃	100	当社及び関係会社が使用する厚生施設の管理、土木建築等の業務受託。 なお、当社所有の土地・建物・構築物・機械装置賃借、当社に建物・構築物賃貸。 役員の兼任等…有
西菱エンジニアリング(株)	神戸市兵庫区	百万円 100	〃	100	当社製品の設計・製図。 なお、当社所有の建物を賃借している。 役員の兼任等…有
高菱エンジニアリング(株)	兵庫県高砂市	百万円 100	〃	100	当社製品の設計・製図。 なお、当社所有の建物を賃借している。 役員の兼任等…有
中菱エンジニアリング(株)	名古屋市中村区	百万円 100	〃	100	当社製品の設計・製図。 なお、当社所有の建物を賃借している。 役員の兼任等…有
MHIソリューションテクノロジーズ(株)	広島市西区	百万円 100	〃	100	当社製品・技術の研究開発及び設計・試運転に関する役務提供。 なお、当社所有の建物・機械装置を賃借している。 役員の兼任等…有
MHIジェネラルサービス(株)	神戸市兵庫区	百万円 100	〃	100 (35.0)	当社工場の保安・警備・用役業務及び当社工場電気設備の保守点検業務受託。 なお、当社所有の建物を賃借している。 役員の兼任等…有
MHIアカウンティングサービス(株)	東京都港区	百万円 60	〃	100	当社及び関係会社の経理業務受託。 なお、当社所有の建物を賃借している。 役員の兼任等…有
千代田リース(株)	長崎市	百万円 50	〃	100	当社及び関係会社の製品の販売、当社及び関係会社向けリース。 なお、当社所有の建物を賃借している。 役員の兼任等…有
(株)春秋社	東京都港区	百万円 50	〃	100	当社及び関係会社の各種損害保険の取扱い。 なお、当社所有の建物を賃借している。 役員の兼任等…有
長菱ソフトウェア(株)	長崎市	百万円 40	〃	100	当社及び関係会社が使用するコンピュータソフトウェアの開発、コンピュータ機器類の販売・保守。 なお、当社所有の建物を賃借している。 役員の兼任等…有
下関菱重興産(株)	山口県下関市	百万円 30	〃	100	当社及び関係会社が使用する厚生施設の管理、土木建築等の業務受託。 なお、当社所有の建物賃借、当社に土地・建物賃貸。 役員の兼任等…有
MHIパーソネルスタッフ(株)	東京都港区	百万円 30	〃	100	当社の勤怠・給与計算、旅費、通勤交通費、退職金、福利厚生関連業務を受託。 なお、当社所有の建物を賃借している。 役員の兼任等…有

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の所有割合 (%)	関係内容
長菱エンジニアリング㈱	長崎市	百万円 30	その他	100 (65.0)	当社製品・技術の研究開発及び試運転に関する役務提供。 なお、当社所有の建物を賃借している。 役員の兼任等…有
㈱検査研究所	横浜市 金沢区	百万円 20	”	100	当社製品の検査・計測業務。 なお、当社所有の建物・機械装置を賃借している。 役員の兼任等…有
下関菱重エンジニアリング㈱	山口県 下関市	百万円 20	”	100	当社製品の設計・製図・情報通信業務の請負。 なお、当社所有の建物を賃借している。 役員の兼任等…有
広島ダイヤシステム㈱	広島市 西区	百万円 20	”	90.3	当社及び関係会社のコンピュータソフト開発。 なお、当社所有の建物を賃借している。 役員の兼任等…有
MHI International Investment B.V. * 1	Amsterdam, The Netherlands	百万ユーロ 245.0	”	100	当社の各種事業展開のための持株会社。 役員の兼任等…有
Mitsubishi Heavy Industries America, Inc. * 1	New York, U. S. A.	百万米ドル 256.0	”	100	当社製品の組立・販売・据付・アフターサービス。当社への市場調査等の役務提供。 役員の兼任等…有
Mitsubishi Heavy Industries Europe, Ltd.	London, U. K.	百万英ポンド 38.1	”	100	当社製品の組立・販売・据付・アフターサービス。当社への市場調査等の役務提供。 役員の兼任等…有
Mitsubishi Heavy Industries (China) Co., Ltd. (三菱重工業(中国)有限公司)	中国 北京市	百万米ドル 35.5	”	100	当社及び関係会社の中国における事業展開の支援。 役員の兼任等…有
Mitsubishi Heavy Industries, (Hong Kong) Ltd.	香港	百万香港ドル 34.0	”	100	当社製品の販売・アフターサービス。当社への市場調査等の役務提供。 役員の兼任等…有
Mitsubishi Heavy Industries Philippines, Inc.	Manila, Philippines	百万フィリピンペソ 93.6	”	100	当社製品の販売・アフターサービス。当社への市場調査等の役務提供。 役員の兼任等…有
Mitsubishi Heavy Industries Singapore Private Ltd.	Singapore	百万シンガポールドル 3.8	”	100	当社製品の販売・アフターサービス。当社への市場調査等の役務提供。 役員の兼任等…有
Mitsubishi Heavy Industries de Mexico, S.A. de C.V.	Mexico D.F., Mexico	百万メキシコペソ 10.0	”	100 (1.0)	当社製品の販売・アフターサービス。当社への市場調査等の役務提供。 役員の兼任等…有
Mitsubishi Heavy Industries India Private Ltd.	New Delhi, India	百万インドルピー 37.0	”	100 (0.7)	当社製品の販売・アフターサービス。当社への市場調査等の役務提供。 役員の兼任等…有
Mitsubishi Heavy Industries (Thailand) Ltd.	Samutprakarn, Thailand	百万タイバーツ 25.0	”	100 (5.1)	当社製品の販売・据付・アフターサービス。当社への市場調査等の役務提供。 役員の兼任等…有
Mitsubishi Heavy Industries Korea, Ltd.	Seoul, Korea	百万ウォン 750.0	”	100	当社製品の販売・据付・アフターサービス。当社への市場調査等の役務提供。 役員の兼任等…有
Mitsubishi Heavy Industries (Shanghai) Co., Ltd. (三菱重工業(上海)有限公司)	中国 上海市	百万米ドル 0.6	”	100	当社製品の販売・アフターサービス。当社への市場調査等の役務提供。 役員の兼任等…有
Mitsubishi Industrias Pesadas do Brasil Ltda.	Sao Paulo, Brazil	百万リアル 0.5	”	100 (1.0)	当社製品の販売・アフターサービス。当社への市場調査等の役務提供。 役員の兼任等…有
Mitsubishi Heavy Industries Australia, Pty. Ltd.	Melbourne, Australia	百万豪ドル 0.3	”	100	当社製品の販売・アフターサービス。当社への市場調査等の役務提供。 役員の兼任等…有
その他	95社				

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の所有割合(%)	関係内容
(持分法適用関連会社) キャタピラーージャパン(株)	東京都 世田谷区	百万円 23,100	中量産品 (汎用機・ 特車)	33.3	当社製品を仕入れ。 役員の兼任等…有
日本輸送機(株) * 3	京都府 長岡京市	百万円 4,890	〃	20.1	フォークリフト等物流機器に関する当社との全 般的事業提携。 役員の兼任等…有
(株)東洋製作所 * 3	東京都 品川区	百万円 2,334	中量産品 (冷熱)	37.3	当社製品のアフターサービス。 なお、当社所有の建物を賃借している。 役員の兼任等…有
三菱自動車工業(株) * 3	東京都 港区	百万円 657,355	その他	15.7 (0.5)	当社製品を仕入れ。 役員の兼任等…有
その他	30社				

- (注) 1. 主要な事業の内容欄には、事業の種類別セグメントの名称を記載している。
2. *1：特定子会社に該当する。
3. *2：持分は100分の50以下であるが、実質的に支配しているため子会社としている。
4. *3：有価証券報告書を提出している。
5. 議決権の所有割合の()内は、間接所有割合で内数である。
6. 上記のほか、非連結子会社及び持分法を適用しない関連会社が合わせて52社ある。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成22年3月31日現在

事業の種類別セグメントの名称	従業員数（人）
船舶・海洋	4,969 [573]
原動機	18,633 [1,668]
機械・鉄構	7,570 [1,084]
航空・宇宙	9,679 [1,956]
中量産品	17,777 [2,132]
その他・全社（共通）	9,041 [4,468]
合計	67,669 [11,881]

- (注) 1. 従業員数は、グループ外から当社グループ（当社及び連結子会社）への出向者を含み、当社グループからグループ外への出向者を含まない。また、臨時従業員数は〔 〕内に年間の平均人員を外数で記載している。
2. 臨時従業員には、定年退職後の再雇用社員、嘱託契約の従業員及びパートタイマー等を含み、派遣社員等は含まない。

(2) 提出会社の状況

平成22年3月31日現在

従業員数（人）	平均年齢（歳）	平均勤続年数（年）	平均年間給与（円）
34,139 [3,551]	39.4	17.4	7,267,210

- (注) 1. 従業員数は、社外から当社への出向者を含み、当社から社外への出向者を含まない。また、臨時従業員数は〔 〕内に年間の平均人員を外数で記載している。
2. 臨時従業員には、定年退職後の再雇用社員、嘱託契約の従業員及びパートタイマー等を含み、派遣社員等は含まない。
3. 平均年間給与は、平成21年4月から平成22年3月までの税込金額で、基準外賃金及び賞与を含みその他の臨時給与を含まない。

(3) 労働組合の状況

当社の労働組合は、三菱重工労働組合と称し、組合員数は平成22年3月31日現在33,315人である。また、同組合は、日本基幹産業労働組合連合会を通じて、日本労働組合総連合会に加盟しており、当社との労使関係は極めて安定している。

なお、前記労働組合のほかに、当社には、ごく少数の従業員で組織する労働組合があり、これらの組合は、全日本造船機械労働組合、全国一般労働組合等に加盟している。

当社の連結子会社の労働組合の状況については、特記すべき事項はない。

第2【事業の状況】

1【業績等の概要】

(1) 業績

当連結会計年度における世界経済は、内需拡大に向けた各国政府の強力な景気対策により中国・インドをはじめとする新興国で回復基調に転じたものの、先進国では消費の冷え込み、金融不安、厳しい雇用・所得環境が続き、総じて緩やかな回復にとどまった。我が国経済も、政府の景気対策により個人消費が持ち直し、また新興国向けの輸出が上向くなど、一部に回復の兆しが見られたが、設備投資の低迷、円高とデフレの進行、雇用・所得環境の悪化等、厳しい経済情勢が続いた。

このような状況の下、当社グループ（当社及び連結子会社）は、懸命な受注活動を展開したが、中量産品事業の需要回復の遅れ、前連結会計年度から続いている受注品事業での商談の中止・延期、新興国などにおける受注競争の激化等により、当連結会計年度における受注高は、すべての部門で大きく減少し、前連結会計年度を7,924億78百万円（△24.2%）下回る2兆4,762億73百万円となった。

売上高も、前連結会計年度に比べ中量産品部門が大幅に減少したほか、火力発電プラントや風車を中心に原動機部門が減少したため、前連結会計年度を4,347億87百万円（△12.9%）下回る2兆9,408億87百万円となった。

利益面では、世界的な景気後退を受けて全社緊急対策「チャレンジ09」を発動し、各種施策を強力に推進して採算の改善に成果を挙げたものの、売上の減少や円高等により、営業利益は前連結会計年度を401億98百万円

（△38.0%）下回る656億60百万円、経常利益は前連結会計年度を512億97百万円（△68.1%）下回る240億9百万円となった。

また、固定資産売却益、投資有価証券売却益、退職給付制度改定益を特別利益に201億円計上する一方で、事業構造改善費用を特別損失に159億72百万円計上した。この結果、当期純利益は前連結会計年度を100億53百万円

（△41.5%）下回る141億63百万円となった。

事業の種類別セグメントの業績は、次のとおりである。

(ア) 船舶・海洋

世界の新造船需要が低迷を続ける中、得意とする高付加価値船を中心に受注活動を展開したが、海上保安庁向け巡視船7隻、防衛省向け艦艇2隻等合計13隻を受注するにとどまった。この結果、受注高は、前連結会計年度を1,204億23百万円（△44.4%）下回る1,508億88百万円、年度末の新造船契約残は59隻、約283万総トンとなった。

当連結会計年度では、自動車運搬船11隻、LPG船5隻等合計20隻を引き渡したものの、売上高は、前連結会計年度を94億85百万円（△3.9%）下回る2,306億92百万円となった。営業利益は、採算改善が進捗したことや前連結会計年度に引き当てた受注工事損失を見直したことなどにより、前連結会計年度を129億3百万円（+786.2%）上回る145億44百万円となった。

(イ) 原動機

国内では、大型火力発電プラントを受注したほか、原子力発電プラントの改良・改造・修理工事の受注も堅調に推移した。一方、海外では、火力発電プラントでインドネシア向け大型案件等を成約したが、電力需要の伸び悩みにより商談数が減少したため、受注は落ち込んだ。以上の結果、部門全体の受注高は、前連結会計年度を1,665億77百万円（△14.5%）下回る9,822億97百万円となった。

売上高は、火力発電プラントや風車等が減少したため、前連結会計年度を1,430億22百万円（△11.8%）下回る1兆661億28百万円となった。営業利益は、売上の減少や円高の進行があったが、採算改善が進み、前連結会計年度を26億1百万円（+3.3%）上回る826億3百万円となった。

(ウ) 機械・鉄構

国内では、民間の新規設備投資需要が縮小する中で、官公庁向け案件や改造・アフターサービス案件の営業活動に注力した結果、運搬機械や料金機械等の受注が増加した。海外では、大型案件を中心に積極的な受注活動に取り組んだが、顧客の設備投資計画の見直しに伴う案件の繰延べなどにより、化学プラントや製鉄機械の受注が減少した。以上の結果、部門全体の受注高は前連結会計年度を2,040億81百万円（△38.7%）下回る3,238億円となった。

売上高は、前連結会計年度を1億42百万円（△0.0%）下回る5,420億61百万円となり、営業利益は、前連結会計年度を14億57百万円（△4.6%）下回る301億48百万円となった。

(エ) 航空・宇宙

宇宙関係は、H-IIAロケットによる打上げ輸送サービスの受注が増加したため、前連結会計年度を上回った。一方、防衛関係は、誘導飛しょう体の受注が減少したことなどにより、前連結会計年度を下回った。また、民間機関係も、世界的景気後退の影響を受けた航空機需要の低迷を背景に、B787（主翼）やB777（後部胴体等）を中心とした民間輸送機のほか、民間航空機用エンジン部品の受注が減少したため、前連結会計年度を下回った。以上の結果、部門全体の受注高は、前連結会計年度を753億11百万円（△14.7%）下回る4,355億43百万円となった。

売上高は、民間機関係、宇宙関係が増加したが、防衛関係が減少したため、前連結会計年度を120億85百万円（△2.4%）下回る5,002億70百万円となった。営業損益は、民間航空機の採算改善等があったが、研究開発費が増加したことなどにより、前連結会計年度より39億15百万円改善したものの、64億24百万円の損失となった。

(オ) 中量産品

汎用機・特殊車両関係は、タイ・中国において生産拠点を立ち上げるなどの施策を展開したが、フォークリフト、中小型エンジン等で需要の低迷が続いたことにより、受注高は前連結会計年度を下回った。

冷熱関係は、海外では、景気回復が遅れている欧州を中心にパッケージエアコンやルームエアコンの受注が減少し、国内でも、顧客の減産の影響等によりカーエアコンの受注が減少したため、受注高は前連結会計年度を下回った。

産業機械関係は、金融危機以降の信用収縮で顧客の設備投資意欲が低調だった枚葉機の受注が大きく減少したほか、自動車関連産業向けを中心に工作機械も減少したため、受注高は前連結会計年度を下回った。

以上の結果、部門全体の受注高は、前連結会計年度を2,256億99百万円（△29.4%）下回る5,413億16百万円となった。

売上高は、受注高の減少に伴い前連結会計年度を2,610億78百万円（△32.4%）下回る5,443億24百万円となった。営業損益は、受注・売上規模の大幅な縮小を受け、全社的な緊急対策を実施し、固定費削減等の採算改善効果があったものの、減産に伴う固定費の回収不足や円高の進行等で、前連結会計年度より555億93百万円悪化し、626億23百万円の損失となった。

(カ) その他

受注高は、前連結会計年度を169億13百万円（△17.1%）下回る821億43百万円となった。

売上高は、前連結会計年度を109億54百万円（△9.0%）下回る1,101億93百万円となり、営業利益は、前連結会計年度を25億69百万円（△25.7%）下回る74億13百万円となった。

所在地別セグメントの業績は、次のとおりである。

(ア) 日本

売上高は、中量産品部門、原動機部門を中心に減少し、前連結会計年度を3,540億89百万円（△11.3%）下回る2兆7,665億25百万円となった。営業利益は、売上の減少や円高の進行等により、前連結会計年度を223億19百万円（△24.5%）下回る688億83百万円となった。

(イ) 北米

売上高は、フォークリフトや印刷機械が北米市場の需要低迷により減少したことなどにより、前連結会計年度を719億29百万円（△24.2%）下回る2,254億65百万円となった。営業損益は、売上の減少に伴う減益等で、前連結会計年度より97億74百万円悪化し、31億27百万円の損失となった。

(ウ) アジア

売上高は、パッケージエアコンやルームエアコンの販売が世界的な景気悪化の影響を受けて減少したことなどにより、前連結会計年度を267億31百万円（△22.2%）下回る936億13百万円となった。営業利益は、前連結会計年度を14億75百万円（△59.7%）下回る9億95百万円となった。

(エ) 欧州

売上高は、フォークリフトやターボチャージャが欧州市場の需要低迷で減少したことなどにより、前連結会計年度を584億42百万円（△35.0%）下回る1,084億65百万円となった。営業損益は、売上の減少に伴う減益等で、前連結会計年度より81億26百万円悪化し、53億5百万円の損失となった。

(オ) その他

売上高は、前連結会計年度を103億18百万円（△26.4%）下回る288億36百万円となり、営業利益は、前連結会計年度を14億98百万円（+55.2%）上回る42億14百万円となった。

(2) キャッシュ・フロー

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ1,645億39百万円（△38.6%）減少し、2,613億73百万円となった。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度における営業活動によるキャッシュ・フローは1,179億77百万円の資金の増加となり、前連結会計年度に比べ384億44百万円（+48.3%）増加した。これは、売上債権、たな卸資産及び法人税等の支払額が減少したことなどによるものである。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度における投資活動によるキャッシュ・フローは1,807億4百万円の資金の減少となり、前連結会計年度に比べ241億11百万円支出が増加した。これは、投資有価証券の売却による収入が減少したことなどによるものである。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度における財務活動によるキャッシュ・フローは1,052億91百万円の資金の減少となり、前連結会計年度に比べ3,672億93百万円支出が増加した。これは、短期借入金及びコマーシャル・ペーパーが減少したことなどによるものである。

2【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

事業の種類別セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	
	金額(百万円)	前連結会計年度比(%)
船舶・海洋	272,541	△1.4
原動機	919,179	△13.7
機械・鉄構	514,414	△0.6
航空・宇宙	497,336	△2.7
中量産品	490,470	△38.5
その他	101,208	△9.1
合計	2,795,148	△14.8

- (注) 1. 上記金額は、大型製品については契約金額に工事進捗度を乗じて算出計上し、その他の製品については完成数量に販売金額を乗じて算出計上している。
2. セグメント間の取引については、各セグメントの金額から消去している。
3. 上記金額には、消費税等は含まれていない。

(2) 受注状況

事業の種類別セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)			
	受注高(百万円)	前連結会計年度比(%)	受注残高(百万円)	前連結会計年度比(%)
船舶・海洋	150,888	△44.4	574,893	△11.7
原動機	982,297	△14.5	1,747,440	△3.2
機械・鉄構	323,800	△38.7	545,741	△26.6
航空・宇宙	435,543	△14.7	795,904	△8.2
中量産品	541,316	△29.4	132,547	△2.9
その他	82,143	△17.1	9,758	△0.2
消去	△39,716	—	—	—
合計	2,476,273	△24.2	3,806,285	△9.7

- (注) 1. 受注高については、「船舶・海洋」、「原動機」、「機械・鉄構」、「航空・宇宙」、「中量産品」及び「その他」にはセグメント間の取引を含んでおり、「消去」でセグメント間の取引を一括して消去している。
2. 受注残高については、セグメント間の取引を各セグメントの金額から消去している。
3. 上記金額には、消費税等は含まれていない。

(3) 販売実績

事業の種類別セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	
	金額 (百万円)	前連結会計年度比 (%)
船舶・海洋	230,692	△3.9
原動機	1,066,128	△11.8
機械・鉄構	542,061	△0.0
航空・宇宙	500,270	△2.4
中量産品	544,324	△32.4
その他	110,193	△9.0
消去	△52,782	—
合計	2,940,887	△12.9

(注) 1. 「船舶・海洋」, 「原動機」, 「機械・鉄構」, 「航空・宇宙」, 「中量産品」及び「その他」にはセグメント間の取引を含んでおり, 「消去」でセグメント間の取引を一括して消去している。

2. 最近2連結会計年度の主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりである。

相手先	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	
	金額 (百万円)	割合 (%)	金額 (百万円)	割合 (%)
防衛省	371,476	11.0	348,300	11.8

3. 上記金額には, 消費税等は含まれていない。

3 【対処すべき課題】

今後の世界経済は、厳しい雇用・所得環境の続く先進国では当面の間低迷が見込まれるが、経済成長の著しい中国を中心とする新興国が牽引役となり、総じて回復基調が強まるものと予想される。一方、我が国経済は、新興国向けの輸出は回復傾向をたどるものの、設備投資や雇用・所得環境は低調に推移し、厳しい状況からはしばらく脱しないものと思われる。

このような経済情勢を背景に、当社グループが扱う製品の市場の中心は、停滞する先進国から成長する新興国へと急速に移行しつつある。これらの市場を巡って、世界の有力企業に加え、台頭著しい新興国企業も交えた激しい競争が展開されている。また、当社が成長事業と位置づけているエネルギー・環境分野でも、各国政府が民間企業を主導して大規模インフラ開発案件の受注活動に力を入れている。これに為替の円高傾向も加わり、当社グループは、これまで以上に厳しい競争環境の下にある。

こうした中で、当社グループが熾烈な競争に勝ち残り、将来にわたって成長・発展していくためには、激変する世界市場に迅速に対応でき、かつ、安定的に収益を上げられる体質の構築が喫緊の課題である。

以上の認識に基づき、当社グループは、市場変化に対応した改革の推進とグローバルな成長の実現を目指し、次の5か年に向けた中期経営計画である「2010事業計画」を策定した。

本計画では、「激烈な競争に勝ち抜くための製品競争力と収益力の強化」、「新成長分野（エネルギー・環境、新興国等）でのグローバルな成長」、そして「グローバルな事業活動を通じた社会貢献」の三点を基本方針に掲げた。

まず、「製品競争力と収益力の強化」については、円高と新興国ビジネスに対応した競争力強化のため、米国・中国・インド等における海外生産の拡大、製品の標準化・共通化の更なる推進によるコストダウン、グローバル調達網の拡大を含めたバリューチェーン全体の改革を推し進める。また、柔軟で機動的な事業運営体制の構築のため、景気の影響を受けやすい中量産品事業では、需要変動に対応できる生産体制の整備を進め、受注品事業では、戦略的な事業運営を目指した組織改革を加速する。

次に、「新成長分野でのグローバルな成長」に関しては、エネルギー・環境関連事業への取組みや、新興国市場における展開を加速する。具体的には、高効率・低環境負荷製品群の商品化や拡販を進めるとともに、当社グループが有する多様な技術を複合的に利用した事業の拡大を図る。また、キーコンポーネントの供給やプラントの運転・保守サービスなど、製品単体の提供にとどまらない上流・下流の事業分野への取組みを拡大する。加えて、新興国での総合的なインフラ整備等にも積極的に参画するなど、新たなビジネスモデルの構築・拡大に向けた取組みも強力に進めていく。このために、戦略的アライアンスも強化・拡張していく。

これら二つの基本方針の実現に向けて、製品事業を支える全社横断的な基盤機能も強化する。まず、グループ全体の戦略機能の強化と間接業務の効率化を行うほか、ソリューション事業の展開や製品安全・品質の向上に向けた体制の更なる充実も図る。また、事業領域の拡大に伴い、多様化するリスクの管理や知的財産戦略の強化にも取り組んでいく。さらに、こうした改革の推進とグローバルな成長に向けた各種施策を実現するための原動力となる人材の育成にも、より一層注力する。

当社グループは、社業を通じた社会貢献という経営理念を第一に掲げている。「2010事業計画」では、世界規模でCSR活動を一層強化することも基本方針の一つとしており、真のグローバル企業の実現に向けて取組みを続けていく。また、内部統制機能の充実とコンプライアンスの徹底を通じて、公正で誠実な事業活動を推進し、経営品質の向上に努めていく。

4【事業等のリスク】

当社グループ（当社及び連結子会社）を取り巻くリスク要因には、為替変動・金利等の経済リスク、貿易制限・カントリーリスク等の政治リスク、製造物責任等の法務リスク、自然災害・事故等の災害リスク、株価変動・投資等の市場リスクをはじめ様々なものがあるが、有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがある。

なお、記載事項のうち将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものである。

(1) 経済情勢

当社グループの経営成績は、日本及び世界各国・地域の経済情勢変動の影響を受ける可能性がある。日本では民間設備投資等の推移、海外では米国・欧州や中国・インド等新興国の経済情勢の変動が挙げられるが、複雑化する今日の世界経済の下では、必ずしも当社グループが事業を展開している当該国又は地域経済の情勢のみの影響を受けるとは限らない。

(2) 為替レートの変動

当社グループの輸出・海外事業の取引は、主に米ドルやユーロ等の外貨建てで行われており、為替レートの変動が当社グループの競争力に影響を与える可能性がある。また、国内事業においても為替レートの変動による海外競合企業のコスト競争力の変化により、当社グループの競争力に影響が生じる可能性がある。さらに、国内競合企業と当社グループの為替レート変動に対する影響度合いが異なる場合は、国内外における当該企業との競争力にも影響が生じる可能性がある。当社グループは外貨建て取引にあたり、資材の海外調達拡大による外貨建て債務の増加及び為替予約等によりリスクヘッジに努めているが、為替レートの変動は当社グループの経営成績に影響を与える可能性がある。

(3) 資金調達

当社グループの当連結会計年度末の有利子負債残高は1兆4,953億25百万円である。当社グループは、将来見通しも含めた金利動向を勘案して資金調達を実施しており、低利・安定資金の確保に努めているが、金利の大幅な変動をはじめとする金融市場の状況変化は、将来における当社グループの経営成績に影響を与える可能性がある。

(4) 輸出・海外事業

当社グループは、世界各国・地域における輸出・海外事業の拡大を図っているが、部品の現地調達や現地工事に伴う予期しないトラブル、納期遅延や性能未達による契約相手方からの請求、契約相手方のデフォルト等の要因が、当社グループの経営成績に影響を与える可能性がある。さらに、当社グループは、新興国での総合的なインフラ整備等に積極的に参画するなど、新たなビジネスモデルの構築・拡大に取り組んでいるが、各国政府が民間企業を主導して大規模インフラ開発案件の受注活動に力を入れるなど、激しい競争に必ず勝ち残るといった保証はない。

(5) 業務提携

当社グループは、国内外において多くの製品事業について、他社と業務提携、合弁事業等の関係を持っている。また、新興国等での総合的なインフラ整備への参画のために、より戦略的なアライアンスの強化・拡大を図っているが、市場環境の変化、事業競争力の低下、他社における経営戦略の見直し等を理由としてこれらの業務提携等が解消又は変更された場合、あるいはアライアンスが目論見どおり実現できない場合、当社グループの事業に影響を与える可能性がある。

(6) 資材調達

当社グループの事業活動には、原材料、部品、機器及びサービスが第三者から適時・適切に、かつ十分な品質及び量をもって供給されることが必要である。このうち一部の原材料、部品等については、その特殊性から調達先が限定されているものや調達先の切替の困難なものがあり、これら原材料、部品等の品質上の問題、供給不足及び納入遅延等の発生は、当社グループの事業に影響を与える可能性がある。また、需給環境の変化による原材料、部品等の供給価格の高騰は、当社グループの業績に影響を与える可能性がある。

(7) 製品競争力

当社グループは、性能・信頼性・価格面で常に顧客から高い評価を得るよう、更には市場の動きを先取りした新たな機能を提案できるよう、研究開発や設備投資を中心とした製品競争力の強化を進めているが、国内外の競合企業において当社グループのそれを上回る製品競争力の強化が行われるなどした場合には、当社グループの事業に影響を与える可能性がある。

(8) 製品の品質等

当社グループは、製品の品質や信頼性の向上に常に努力を払っているが、製品の性能、納期上の問題や製品に起因する安全上の問題について契約相手方やその他の第三者から国内外で請求を受け、また訴訟等を提起される可能性がある。また、当社グループが最終的に支払うべき賠償額が製造物責任賠償保険等でカバーされるという保証はない。

(9) 法令・規制

当社グループは、国内外で各種の法令・規制（租税法規、環境法規、労働・安全衛生法規、独占禁止法・ダンピング法等の経済法規、貿易・為替法規、建設業法等の事業関連法規、証券取引所の上場規程等）に服しており、当社をはじめ、グループ各社で法令遵守の徹底を図っている（「第4 提出会社の状況」の「6 コーポレート・ガバナンスの状況等」に当社の状況を記載）。法令・規制に関しては、当局等から過料、更正、決定、課徴金納付、営業停止等の行政処分若しくはその他の措置を受け、また当局やその他の利害関係者から損害賠償請求訴訟等を提起される可能性がある。

(10) 知的財産

当社グループは、研究開発の成果である知的財産を重要な経営資源のひとつと位置づけ、この経営資源を特許権等により適切に保全するとともに、第三者への技術供与や第三者からの技術導入を行っている。しかしながら、必要な技術導入を第三者から必ず受けられる（又は有利な条件で受けられる）という保証はない。また、知的財産の利用に関して競合企業等から訴訟等を提起され敗訴した場合、特定の技術を利用できなくなり、また損害賠償責任を負い、事業活動に支障をきたすおそれがある。従業員若しくは元従業員から、職務発明の対価に関する訴訟が提起されないという保証はない。

(11) 環境規制

当社グループは、大気汚染、水質汚濁、土壌・地下水汚染、廃棄物処理、有害物質の使用、省エネルギー及び地球温暖化対策等に関し、国内外において各種の環境規制に服している。これらの規制が将来厳格化された場合や、過去、現在及び将来の当社グループの事業活動に関係し、法的責任に基づき賠償責任を負うこととなった場合、また社会的責任の観点から任意に有害物質の除去等の対策費用を負担するなどした場合は、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を与える可能性がある。

(12) 人材の確保

当社グループの競争力は、研究開発、設計、調達、製造、建設等の各職種における優れた専門的知識や技能を持った従業員により支えられている。当社グループは、グローバルな事業活動を一層進める中で優秀な人材を多数確保するため、国内に加え海外でも積極的な採用活動を行っているが、必ずしも十分に確保できる保証はない。また、技術・技能伝承の強化等、人材の育成にも努めているが、十分な効果が出るという保証はない。

(13) 関係会社

当社グループは、当連結会計年度末において、連結子会社237社、持分法適用非連結子会社3社、持分法適用関連会社34社を有している。これら関係会社は、当社と相互協力体制を確立している一方、自主的な経営を行っているため、これら関係会社の事業や業績の動向が、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を与える可能性がある。

(14) 災害

当社グループは、暴風、地震、落雷、洪水、火災、感染症の世界的流行（パンデミック）等の各種災害に対して損害の発生及び発生時の損害の拡大を最小限におさえるべく、点検・訓練の実施、連絡体制・事業継続計画（BCP）の整備に努めているが、このような災害による物的・人的被害により当社グループの活動（特に工場等における生産活動）が影響を受ける可能性がある。また、これによる損害が損害保険等で十分にカバーされるという保証はない。

(15) 情報セキュリティ

当社グループは、事業の遂行を通じて、顧客等の機密情報に多数接しているほか、当社グループの技術・営業・その他事業に関する機密情報を保有している。コンピュータウィルスの感染や不正アクセスその他不測の事態により、機密情報が滅失若しくは社外に漏洩した場合、当社グループの事業に影響を与える可能性がある。

(16) 退職給付費用及び債務

当社グループの従業員退職給付費用及び債務は、数理計算上設定した前提条件に基づいて算出しており、その主要な前提条件は退職給付債務の割引率及び年金資産の期待運用収益率である。これらの前提条件は妥当なものと判断しているが、実際の結果が前提条件と異なる場合、又は前提条件が変更された場合は、将来にわたって当社グループの財政状態及び経営成績に影響を与える可能性がある。また、年金資産の運用利回りの変動や割引率決定の基礎となる日本の国債利回りの変動は、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を与える可能性がある。

5 【経営上の重要な契約等】

(1) 技術援助契約

(ア) 技術導入

重要な技術導入は次のとおりである。

契約会社名	相手方		対象製品／技術	摘要
	名称	国籍		
三菱重工業(株) (当社)	Moss Maritime a.s	ノルウェー	球型タンクによる液化天然ガス(LNG)輸送用貨物船	—
同	GAZTRANSPORT & TECHNIGAZ SAs	フランス	メンブレン式液化天然ガス(LNG)輸送用貨物船	—
同	Wärtsilä Switzerland Ltd	スイス	スルザー型船用及び定置用ディーゼルエンジン	—
同	THE BOEING COMPANY	米国	F-15戦闘機	—
同	Raytheon Company	米国	ペトリオットミサイルシステム	—
同	Sikorsky Aircraft Corporation	米国	SH-60J/Kヘリコプタ	—
			UH-60Jヘリコプタ	—
			UH-60JAヘリコプタ	—
同	Lockheed Martin Corporation	米国	F-2量産のためのF-16戦闘機に関する技術	—
			垂直発射装置 VLS MK41	—
			PAC-3ミサイル地上装置	—
			PAC-3ミサイル	—
同	独立行政法人宇宙航空研究開発機構	日本	H-IIA標準型ロケット打ち上げサービスに係るH-IIA標準型の技術	—

(イ) 技術供与

重要な技術供与は次のとおりである。

契約会社名	相手方		対象製品／技術	摘要
	名称	国籍		
三菱重工業(株) (当社)	DONG FANG TURBINE Co., Ltd. (東方タービン有限公司)	中国	ガスタービン	—
同	Harbin Boiler Co., Ltd. (ハルビンボイラ有限公司)	中国	USCボイラ	—
同	Harbin Turbine Co., Ltd. (ハルビンタービン有限公司)	中国	蒸気タービン	—
			原子力蒸気タービン	—
同	Bharat Heavy Electricals Ltd.	インド	火力発電所用ポンプ	—
同	神戸発動機(株)	日本	UE型ディーゼルエンジン	—
同	(株)赤坂鐵工所	日本	UE型ディーゼルエンジン	—
同	Doosan Heavy Industries & Construction Co., Ltd.	韓国	ガスタービン	—

(2) その他重要な契約

契約会社名	相手方		内容	契約日付	摘要
	名称	国籍			
三菱重工業株式会社	Caterpillar International Investments Coöperatie U.A.	オランダ	トラクタ、土木機械、油圧ショベル製品等の製造、販売等に関する合弁事業契約	平成20年3月26日	(注1)
	キャタピラー・ジャパン株式会社	日本			
同	AREVA NP	フランス	原子燃料の設計、開発、製造、販売等に関する合弁会社の運営等に係る株主間契約	平成21年2月17日	(注2)
	三菱マテリアル株式会社	日本			
	三菱商事株式会社				

(注) 1. 当該契約に係る事業は、キャタピラー・ジャパン株式会社で行っている。

2. 当該契約に係る事業は、三菱原子燃料株式会社で行っている。

6 【研究開発活動】

当社グループ（当社及び連結子会社）は、事業（本）部・事業所、研究所間の密接な連携により、航空宇宙、原動機分野をはじめとして各製品の競争力強化や今後の事業拡大につながる研究開発を強力に推進している。

当連結会計年度におけるグループ全体の研究開発費は1,292億62百万円である。この中には受託研究等の費用681億37百万円が含まれている。なお、各事業部門別の主な研究開発の状況及び費用は、次のとおりである。

(1) 船舶・海洋

船舶・海洋部門では、船舶の推進性能を向上させるための流体技術、廃棄物・排出ガス抑制等の環境負荷低減技術、構造信頼性を向上させるための強度技術、振動・騒音低減技術等の開発を行っている。これらにより、世界規模の安定した物流を担うLNG（液化天然ガス）船、LPG（液化石油ガス）船、コンテナ船及び自動車運搬船をはじめ、今後の需要の伸びが期待される客船及びフェリー等の各種大型船舶のほか、調査船等の特殊船舶や海洋構造物の性能・信頼性向上を図っている。

当部門における主な研究開発は次のとおりである。

- ・船底に空気を送り込み、泡の力で船舶と海水の摩擦抵抗を低減させる「空気潤滑システム」と、これを採用した省エネルギー型モジュール運搬船の開発
- ・海水ポンプジェット装置によって操縦制御を行う新世代練習・調査・研究船の開発

当部門に係る研究開発費は28億71百万円である。

(2) 原動機

原動機部門では、エネルギーの安定供給、環境保全、高効率化を実現する技術の開発を推進し、天然ガス・原子力等のクリーン燃料及び再生エネルギーの利用技術、分散型電源システム、高効率発電システム等、エネルギーの上流から下流までの市場ニーズに対応した研究開発に取り組んでいる。

当部門における主な研究開発は次のとおりである。

- ・世界最大の出力と最高水準の熱効率を誇り、低炭素社会の実現に資するタービン入口温度1,600℃級「J形ガスタービン」の開発
- ・国内外で商用化が期待されている石炭ガス化複合発電（IGCC）プラントに関する、①発電出力が500～600MW級の商用プラントの開発、②IGCCとCO₂回収・貯留機能を組み合わせたCO₂削減技術の開発、③石炭を利用した化学製品への適用が期待される石炭ガス化炉の技術開発、④低品位炭の有効活用技術の開発
- ・2.4MW級風力発電システム「MWT95/2.4」の翼回転直径を95mから100mに大きくし、中低風速域での発電性能を更に向上させた「MWT100/2.4」の開発
- ・欧州で導入が期待されている5MW超級大型洋上風車の研究
- ・次世代軽水炉プラントに関する技術開発、既設軽水炉プラントの信頼性向上に関する検査・補修技術の開発
- ・独立行政法人日本原子力開発機構の高速増殖炉（FBR）実証炉の開発において、中核企業として行う設計・要素技術の開発

当部門に係る研究開発費は387億2百万円である。

(3) 機械・鉄構

機械・鉄構部門では、地球温暖化防止をはじめとする環境保全、陸上交通・物流等の輸送、鉄鋼・化学をはじめとする各産業の基礎設備、エネルギー供給等に寄与する付加価値の高い製品及び社会インフラ等を提供するための技術・製品開発に取り組んでいる。

当部門における主な研究開発は次のとおりである。

- ・地球温暖化防止を目指し、石炭火力発電所のボイラの排出ガスからCO₂を回収する技術の開発
- ・IT技術を駆使した自動料金収受システム（ETC）等の高度道路交通システム関連製品の開発
- ・小型軽量・高出力という特長を持ち、トラック用のハイブリッドエンジンに搭載することにより、環境負荷低減に寄与するモータ・インバータシステムの開発
- ・食用とされない農産物の残渣部分のセルロースを糖化して、バイオアルコールを製造する技術、装置の開発
- ・水銀を含まず、CO₂排出量が少ないなど環境負荷の低い次世代照明として期待される白色有機EL照明パネルの製造装置の開発
- ・三次元画像処理機能や放射線照射用の加速器・照射機構に最先端の技術を採用し、高精度かつ簡便ながん治療を可能とする放射線治療装置の開発

当部門に係る研究開発費は92億18百万円である。

(4) 航空・宇宙

航空・宇宙部門では、日本のリーディングカンパニーとして、長年にわたり航空機・宇宙機器開発で培った技術を駆使して、最先端の製品開発に取り組んでいる。

当部門における主な研究開発は次のとおりである。

- ・優れた運動性を備え、かつレーダーに検知されにくい飛行制御を目指した航空機の高運動飛行制御システムの研究
- ・海上配備型弾道ミサイル防衛（BMD）用能力向上型迎撃ミサイルの日米共同開発
- ・世界最高レベルの運航経済性と客室快適性を兼ね備えた最新鋭リージョナルジェット機MRJの開発
- ・国際宇宙ステーション（ISS）への物資輸送を行う宇宙ステーション補給機（HTV）の開発
- ・多様化する衛星打上げニーズへの対応を可能にするH-II Bロケットの開発

当部門に係る研究開発費は611億52百万円である。

(5) 中量産品

中量産品部門では、産業基盤分野を支える多くの製品に関して、技術開発に取り組んでいる。これらの製品では、製品固有の先端技術に加え、当社グループの他の事業部門を含めた豊富な製品群で培われた最新かつ高度な先進技術を各製品へ幅広く適用する取組みを行っている。

当部門における主な研究開発は次のとおりである。

- ・リチウムイオン電池、インバータ、エンジンなど主要構成部品を自社開発することにより製造コストを低減するとともに、低排出ガス、省エネルギーを実現するハイブリッドフォークリフトの開発
- ・国内及び欧州の第三次排出ガス規制に適合した新型電子制御エンジンを搭載するとともに、オペレータの視界性を向上させる外観形状を採用したモータグレーダの開発
- ・始動時の黒煙を低減する制御装置を標準装備し、オプションにより多様な使用条件に対応可能なパッケージ型非常用ディーゼル発電装置における最上位機種「PG500」の開発
- ・ハイブリッド車や電気自動車で、不足する熱源を補助するための暖房システム部品として、正温度特性を持つ温水PTC（Positive Temperature Coefficient）ヒータの開発
- ・当社独自の三次元圧縮スクロールコンプレッサを搭載し、低外気温時の暖房能力や暖房立ち上がり性能に優れた寒冷地向けビル用マルチエアコンの開発
- ・三次元圧縮スクロールコンプレッサとエコノマイザ冷凍サイクルにより、低騒音・小型軽量化を実現するとともにCO₂排出量の当社従来機比約35%減を達成した大型トラック用サブエンジン式冷凍ユニットの開発
- ・熱源設備全体の最適制御によりターボ冷凍機の性能を最大限引き出し、設備の消費電力を当社従来機比約50%削減するなど大幅な省エネルギー化とCO₂排出量削減を可能にする熱源総合制御システム「エネコンダクタ」の開発
- ・新聞社間の相互委託印刷の増加に対応し、1台の新聞輪転機で同時に異なる2紙を印刷できる2媒体同時印刷機能「プリコン（PRINT COMPLEX）」の開発
- ・北米市場で需要の多い特殊コーティングシート・重量紙にも対応した段ボール製函機「EVOL100」の北米向け仕様の開発
- ・風力発電設備、建設機械、製鉄機械等に搭載される大型歯車を高能率・高精度で加工できるホブ盤「GEA1200」や大型外歯車成形研削盤「ZGA2000」の開発
- ・エンジンバルブの傘（ヘッド）部分まで中空一体加工を施す鍛造技術により、軽量かつ高強度で、自動車エンジンの高効率化を可能とする「傘中空バルブ」の開発

当部門に係る研究開発費は171億3百万円である。

(6) その他

当部門に係る研究開発費は2億13百万円である。

7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

以下の記載事項のうち将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものである。

(1) 重要な会計方針及び見積

当社グループ（当社及び連結子会社）の連結財務諸表は、我が国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されている。連結財務諸表の作成にあたり、期末時点での状況を基礎に、連結貸借対照表及び連結損益計算書に影響を与えるような項目・事象について見積を行う必要がある場合がある。

当社グループの重要な会計方針の下で、財政状態及び経営成績に影響を与える重要な項目・事象について見積を行う場合とは以下のとおりである。

(ア) たな卸資産の評価

当社グループは、たな卸資産について、期末における収益性の低下の有無を判断し、収益性が低下していると判断されたものについては、帳簿価額を正味売却価額又は処分見込価額まで切り下げている。収益性の低下の有無に係る判定は、原則として個別品目ごとに、その特性や市況等を総合的に考慮して実施している。

また、受注工事に係るたな卸資産について、受注工事損失引当金の計上対象案件のうち、期末の仕掛品残高が期末の未引渡工事の契約残高を既に上回っている工事については、その上回った金額は仕掛品の評価損として計上し、収益性の低下を反映させている。

(イ) 有価証券の評価

当社グループは、その他有価証券のうち時価のある有価証券について時価評価を行い、評価差額については税効果会計適用後の純額を、その他有価証券評価差額金として純資産の部に含めて表示している。時価が著しく下落して回復の見込がないと判断されるものについては減損処理を実施している。減損の判定は下落幅及び帳簿価額を下回った期間の長さを考慮して実施している。

また、時価を把握することが極めて困難と認められる有価証券については、実質価額の下落幅を考慮して減損の判定を行い、回復の見込がないと判断されるものについて減損処理を実施している。

(ウ) 債権の回収可能性

当社グループは、金銭債権の回収可能性を評価して貸倒見積高を算定し、引当金を計上している。

貸倒見積高算定の対象となる債権は、日常の債権管理活動の中で、債権の計上月や弁済期限からの経過期間に債務者の信用度合等を加味して区分把握している。

貸倒見積高の算定に際しては、一般債権については貸倒実績率を適用し、貸倒懸念債権及び破産更生債権等については個別に相手先の財務状況等を考慮して、回収可能性を吟味している。

(エ) 退職給付費用及び債務

当社グループの従業員退職給付費用及び債務は、数理計算上で設定される前提条件に基づいて算出しており、その主要な前提条件は退職給付債務の割引率及び年金資産の期待運用収益率である。

割引率は、期末における長期の国債の利回りを基礎に設定している。年金資産の期待運用収益率は、保有している年金資産のポートフォリオ及び過去の運用実績、収益の将来見通しを総合的に判断して設定している。

(オ) 繰延税金資産

当社グループは、繰延税金資産について、将来の税金負担額を軽減する効果を有するかどうかの回収可能性を吟味し、回収が不確実であると考えられる部分に対して評価性引当額を計上して繰延税金資産を減額している。

回収可能性の判断に際しては、将来の課税所得の見積額と実行可能なタックス・プランニングを考慮して、将来の税金負担額を軽減する効果を有すると考えられる範囲で繰延税金資産を計上している。

(カ) 収益及び費用の計上基準

当社グループは、工事契約のうち期末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準により、その他については契約条件に基づく引渡し又は役務提供完了時点（見込品の場合は工場出荷時点）に収益を計上している。

工事進行基準の進捗率の見積りは原価比例法によっており、進捗率の見積りに用いる工事収益総額、工事原価総額、決算日における工事進捗度のすべてが信頼性をもって見積ることができる場合に、成果の確実性が認められる工事として工事進行基準を適用している。

また、未引渡工事のうち期末で損失が確実視され、かつ、その金額を合理的に見積ることができる工事については、翌期以降に発生が見込まれる損失を受注工事損失引当金に計上している。

(2) 当連結会計年度の経営成績の分析

当社グループの当連結会計年度の売上高は、需要の回復が遅れている中量産品部門をはじめ、全ての部門において、それぞれ前連結会計年度を下回り、前連結会計年度を4,347億87百万円（△12.9%）下回る2兆9,408億87百万円となった。

営業利益は、前連結会計年度を401億98百万円（△38.0%）下回る656億60百万円となった。当社グループでは、世界的な景気後退を受けて全社緊急対策「チャレンジ09」を発動し、各種施策を強力に推進して採算の改善に成果を挙げたものの、売上の減少や円高等により、前連結会計年度から減益となった。

営業外損益は、前連結会計年度に比べ持分法による投資損益が改善したものの、受取配当金の減少や為替差損益の悪化等により、前連結会計年度から110億98百万円悪化し、416億51百万円の費用（純額）となった。

以上により、経常利益は前連結会計年度を512億97百万円（△68.1%）下回る240億9百万円となった。

特別損益は、固定資産売却益、投資有価証券売却益、退職給付制度改定益を特別利益として201億円計上し、事業構造改善費用を特別損失として159億72百万円計上した。

この結果、税金等調整前当期純利益は前連結会計年度を367億86百万円（△56.7%）下回る281億37百万円となり、当期純利益は前連結会計年度を100億53百万円（△41.5%）下回る141億63百万円となった。

(3) 経営成績に重要な影響を与える要因について

当社グループの経営に影響を与える大きな要因としては、外的要因である市場動向、為替動向、資材費動向や、内的要因である海外事業における個々の契約、事故・災害や、世代交代に伴う技術・技能の伝承問題等によるものづくり力低下のリスク等がある。

市場動向については、経済成長の著しい中国をはじめとする新興国が牽引役となり、総じて世界経済は回復基調が強まっているが、当社グループが扱う製品の市場の中心は、先進国から新興国へ急速に移行しつつある。これらの市場を巡り、世界の有力企業に加え、台頭著しい新興国企業も交えた激しい競争も展開されている。こうした中、当社グループは、激変する市場に迅速に対応でき、かつ、安定的に収益を上げることができるとする経営体質の構築を図るとともに、競合他社を凌駕する技術で顧客ニーズに対応した製品やサービスの提供にも努めていく。為替動向は、当社グループの事業競争力や経営成績に与える影響が大きく、為替変動リスクを最小限に抑える必要がある。このため、資材の海外調達拡大による外貨建て債務の増加、円建て契約の推進、タイムリーな為替予約等による為替リスクの削減に加え、海外生産の拡大などにも取り組んでいく。

また、資材費動向については、鋼材、非鉄金属や原油等素材関係の資材価格の上昇への対応、設計の標準化、部品の共有化、標準品の採用、包括契約、海外生産の拡大等に取り組むほか、資材取引先との関係を強化し、従来以上に密接な情報交換を行い、更なるコスト削減努力を行う。

海外事業における個々の契約については、現地調達資材の品質・納期、現地労働者の技量や労働慣習の特異性に加え、契約条件等のリスクがあるが、これらの問題を回避するため、契約の締結前に、事業部門だけでなく、複数の管理部門も関与し、現地での契約留意事項の確認や、片務的契約条件の排除等、徹底した契約の事前検証を行っていく。

このほか、経営に重大な影響を与える事故・災害が発生するリスクについては、現場作業に携わる作業員の意識改革など継続的な現場管理活動により、事故発生抑制に努めていく。

世代交代に伴う技術・技能の伝承問題等によるものづくり力低下のリスクについては、生産プロセス革新に向けた合理化投資やものづくり技術等への研究開発投資を集中的に行うとともに、人材の強化・育成に取り組むことで、ものづくり基盤の強化を図り対応していく。

(4) 戦略的現状と見通し

今後の世界経済は、厳しい雇用・所得環境の続く先進国では当面の間低迷が見込まれるが、経済成長の著しい中国を中心とする新興国が牽引役となり、総じて回復基調が強まるものと予想される。一方、我が国経済は、新興国向けの輸出は回復傾向をたどるものの、設備投資や雇用・所得環境は低調に推移し、厳しい状況からはしばらく脱しないものと思われる。

このような経済情勢を背景に、当社グループが扱う製品の市場の中心は、停滞する先進国から成長する新興国へと急速に移行しつつある。これらの市場を巡って、世界の有力企業に加え、台頭著しい新興国企業も交えた激しい競争が展開されている。また、当社が成長事業と位置づけているエネルギー・環境分野でも、各国政府が民間企業を主導して大規模インフラ開発案件の受注活動に力を入れている。これに為替の円高傾向も加わり、当社グループは、これまで以上に厳しい競争環境の下にある。

こうした中で、当社グループが熾烈な競争に勝ち残り、将来にわたって成長・発展していくためには、激変する世界市場に迅速に対応でき、かつ、安定的に収益を上げられる体質の構築が喫緊の課題である。

以上の認識に基づき、当社グループは、市場変化に対応した改革の推進とグローバルな成長の実現を目指し、次の5か年に向けた中期経営計画である「2010事業計画」を策定した。

本計画では、「激的な競争に勝ち抜くための製品競争力と収益力の強化」、「新成長分野（エネルギー・環境、新興国等）でのグローバルな成長」、そして「グローバルな事業活動を通じた社会貢献」の三点を基本方針に掲げた。

まず、「製品競争力と収益力の強化」については、円高と新興国ビジネスに対応した競争力強化のため、米国・中国・インド等における海外生産の拡大、製品の標準化・共通化の更なる推進によるコストダウン、グローバル調達の拡大を含めたバリューチェーン全体の改革を推し進める。また、柔軟で機動的な事業運営体制の構築のため、景気の影響を受けやすい中量産品事業では、需要変動に対応できる生産体制の整備を進め、受注品事業では、戦略的な事業運営を目指した組織改革を加速する。

次に、「新成長分野でのグローバルな成長」に関しては、エネルギー・環境関連事業への取組みや、新興国市場における展開を加速する。具体的には、高効率・低環境負荷製品群の商品化や拡販を進めるとともに、当社グループが有する多様な技術を複合的に利用した事業の拡大を図る。また、キーコンポーネントの供給やプラントの運転・保守サービスなど、製品単体の提供にとどまらない上流・下流の事業分野への取組みを拡大する。加えて、新興国での総合的なインフラ整備等にも積極的に参画するなど、新たなビジネスモデルの構築・拡大に向けた取組みも強力に進めていく。このために、戦略的アライアンスも強化・拡張していく。

これら二つの基本方針の実現に向けて、製品事業を支える全社横断的な基盤機能も強化する。まず、グループ全体の戦略機能の強化と間接業務の効率化を行うほか、ソリューション事業の展開や製品安全・品質の向上に向けた体制の更なる充実も図る。また、事業領域の拡大に伴い、多様化するリスクの管理や知的財産戦略の強化にも取り組んでいく。さらに、こうした改革の推進とグローバルな成長に向けた各種施策を実現するための原動力となる人材の育成にも、より一層注力する。

当社グループは、社業を通じた社会貢献という経営理念を第一に掲げている。「2010事業計画」では、世界規模でCSR活動を一層強化することも基本方針の一つとしており、真のグローバル企業の実現に向けて取組みを続けていく。また、内部統制機能の充実とコンプライアンスの徹底を通じて、公正で誠実な事業活動を推進し、経営品質の向上に努めていく。

(5) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

(ア) キャッシュ・フロー計算書に係る分析

当連結会計年度において営業活動によるキャッシュ・フローは、1,179億77百万円の資金の増加となった。売上債権、たな卸資産及び法人税等の支払額が減少したことなどにより、前連結会計年度に比べ384億44百万円増加した。

投資活動によるキャッシュ・フローは、1,807億4百万円の資金の減少となった。投資有価証券の売却による収入が減少したことなどにより、前連結会計年度に比べ241億11百万円支出が増加した。

財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入金及びコマーシャル・ペーパーが減少したことなどにより、1,052億91百万円の資金の減少となった。

(イ) 資金需要の主な内容

当社グループの資金需要は、営業活動については、生産活動に必要な運転資金（材料・外注費及び人件費等）、受注獲得のための引合費用等の販売費、製品競争力強化・ものづくり力強化に資するための研究開発費が主な内容である。投資活動については、事業伸長・生産性向上を目的とした設備投資及び事業遂行に関連した投資有価証券の取得が主な内容である。

今後、成長分野に対しては必要な設備投資や研究開発投資等を継続していく予定である。全体的には、最新の市場環境や受注動向を見定めることで投資案件の絞込みを行っていく予定であり、翌年度以降の資金需要については減少傾向となる見込みである。

(ウ) 有利子負債の内訳及び使途

平成22年3月31日現在の有利子負債の内訳は下記のとおりである。

(単位：百万円)

	合計	償還1年以内	償還1年超
短期借入金	117,679	117,679	—
コマーシャル・ペーパー	6,000	6,000	—
長期借入金	1,007,041	109,539	897,501
社債	364,605	20,000	344,605
合計	1,495,325	253,219	1,242,106

当社グループは比較的工期の長い工事案件が多く、生産設備も大型機械設備を多く所有していることもあり、一定水準の安定的な運転資金及び設備資金を確保しておく必要がある。かかる状況を考慮し、資金調達を実施してきた結果、当連結会計年度末の有利子負債の構成は、償還期限が1年以内のものが2,532億19百万円、償還期限が1年を超えるものが1兆2,421億6百万円となり、合計で1兆4,953億25百万円となった。

これらの有利子負債は事業活動に必要な運転資金、投資資金に使用しており、資金需要が見込まれる原動機、航空宇宙等の伸長分野を中心に使用していく予定である。

(エ)財務政策

当社グループは現在、運転資金、投資資金についてはまず営業キャッシュ・フローで獲得した資金を投入し、不足分について有利子負債の調達を実施している。

長期借入金、社債等の長期資金の調達については、事業計画に基づく資金需要、金利動向等の調達環境、既存借入金の償還時期を考慮の上、調達規模、調達手段を適宜判断して実施していくこととしている。

一方で有利子負債を圧縮すべく、キャッシュマネジメントシステムにより当社グループ内での余剰資金の有効活用を図ることとしており、また、売上債権、たな卸資産の圧縮や固定資産の稼働率向上等を通じて資産効率の改善にも取り組んでいる。

自己株式については、財政状態、株価、業績見通し等の状況に応じて機動的に取得について検討することとしている。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当社グループ（当社及び連結子会社）は、将来の事業展開上積極的に対応を要する部門への投資、技術力・競争力強化のための投資を行っている。当連結会計年度の設備投資額（有形固定資産の計上ベース）のセグメント別内訳は下記のとおりである。

事業の種類別セグメントの名称	当連結会計年度（百万円）	前連結会計年度比（％）
船舶・海洋	11,180	+44.4
原動機	74,387	+15.8
機械・鉄構	18,110	+25.4
航空・宇宙	21,377	△43.3
中量産品	29,949	△43.5
その他	12,051	+78.9
計	167,056	△9.2
消去又は共通	—	—
合計	167,056	△9.2

（注）1．設備投資の主な内容は、次のとおりである。

船舶・海洋部門	船舶生産用設備の拡充
原動機部門	ガスタービン・原子力装置・蒸気タービン及び原子力タービン生産用設備の拡充
機械・鉄構部門	コンプレッサ生産用設備の拡充
航空・宇宙部門	民間輸送機生産用設備の拡充
中量産品部門	ターボチャージャ及び中小型エンジン生産用設備の拡充

2．当連結会計年度における重要な設備の売却及び廃却はない。

2【主要な設備の状況】

当社グループ（当社及び連結子会社）は、多種多様な事業を国内外で行っており、その主要な設備の状況を事業の種類別セグメント毎に開示する方法をとっている。

当連結会計年度末における状況は、次のとおりである。

(1) 事業の種類別セグメント内訳

事業の種類別セグメントの名称	建物及び構築物		機械装置及び運搬具	工具、器具及び備品	土地		リース資産	建設仮勘定	合計	従業員数(人)
	面積(千㎡)	帳簿価額(百万円)	帳簿価額(百万円)	帳簿価額(百万円)	面積(千㎡)	帳簿価額(百万円)	帳簿価額(百万円)	帳簿価額(百万円)	帳簿価額(百万円)	
船舶・海洋	841 (4) [9]	34,915	18,322	2,641	2,507 (23) [105]	15,950	38	1,226	73,095	4,969
原動機	1,879 (98) [52]	97,472	106,531	12,170	5,009 (69) [337]	37,705	2,790	34,915	291,585	18,633
機械・鉄構	804 (36) [17]	37,548	24,788	3,675	2,688 (79) [82]	14,753	1,595	2,591	84,953	7,570
航空・宇宙	1,004 (22) [112]	63,351	52,663	17,496	1,902 (1,286) [140]	33,805	169	8,780	176,268	9,679
中量産品	1,843 (211) [116]	68,155	69,238	10,463	4,497 (347) [89]	31,616	1,163	6,409	187,047	17,777
その他	480 (76) [276]	43,158	5,845	3,079	580 (6) [130]	29,953	113	1,251	83,401	9,041
計	6,854 (450) [585]	344,601	277,390	49,527	17,185 (1,812) [885]	163,784	5,871	55,176	896,350	67,669
消去又は共通	— (—) [—]	—	—	—	— (—) [—]	—	—	—	—	—
合計	6,854 (450) [585]	344,601	277,390	49,527	17,185 (1,812) [885]	163,784	5,871	55,176	896,350	67,669

(注) 1. 面積の数値の下に付した()書は借用設備を示し、本数中に含まない。

2. 面積の数値の下に付した[]書は貸与設備を示し、本数中に含む。

(2) 提出会社の状況

事業所名 (主たる所在地)	主たる事業の 種類別 セグメント の名称	設備の内容	建物及び構築物		機械装 置及び 運搬具	工具、 器具及 び備品	土地		リース 資産	建設 仮勘定	合計	従業員数 (人)
			面積 (千㎡)	帳簿価額 (百万円)	帳簿価額 (百万円)	帳簿価額 (百万円)	面積 (千㎡)	帳簿価額 (百万円)	帳簿価額 (百万円)	帳簿価額 (百万円)	帳簿価額 (百万円)	
汎用機・ 特車事業本部 (神奈川県相模 原市)	中量産品	中小型エンジ ン・ターボチ ャージャ生産 設備ほか	255 [2]	10,137	22,588	2,442	560	6,417	7	1,476	43,070	2,332
冷熱事業本部 (愛知県清須市)	中量産品	エアコン 生産設備ほか	192 (4) [14]	8,625	6,714	1,289	362	2,805	7	410	19,852	1,016
工作機械事業部 (滋賀県栗東市)	中量産品	工作機械 生産設備ほか	150 [58]	5,700	4,475	362	458	1,367	20	166	12,092	932
紙・印刷機械 事業部 (広島県三原市)	中量産品	印刷機械 生産設備ほか	346 [1]	8,375	5,055	580	1,267 (3) [25]	4,621	14	136	18,784	1,278
環境・化学プラ ント事業部 (横浜市西区)	機械・鉄構	プラント 生産設備ほか	1	53	392	194	—	—	—	16	657	452
交通・先端機器 事業部 (広島県三原市)	機械・鉄構	交通システム 生産設備ほか	39 [1]	1,830	2,110	346	—	—	5	767	5,060	903
機械事業部 (広島市西区)	機械・鉄構	コンプレッサ 生産設備ほか	409	16,643	14,328	1,140	1,737	4,801	64	721	37,700	1,159
長崎造船所 (長崎市)	船舶・海洋 原動機	船舶・ボイラ 生産設備ほか	1,159 (3) [6]	37,116	36,774	4,014	2,937 (7) (13)	14,758	142	18,230	111,036	5,058
神戸造船所 (神戸市兵庫区)	船舶・海洋 原動機 機械・鉄構	原子力装置 生産設備ほか	604 (2) [9]	25,691	25,725	3,753	1,879 [457]	12,279	757	10,351	78,558	3,871
下関造船所 (山口県下関市)	船舶・海洋	船舶 生産設備ほか	126	5,804	5,431	568	508 (15) (1)	1,721	3	374	13,905	875
横浜製作所 (横浜市金沢区)	原動機	ボイラ・ター ビン 生産設備ほか	390 [4]	11,140	11,205	1,269	964 [29]	7,104	23	1,328	32,071	861
高砂製作所 (兵庫県高砂市)	原動機	タービン 生産設備ほか	410 [27]	26,188	35,316	4,003	1,286 [4]	7,671	2,026	6,689	81,896	3,169
名古屋航空宇宙 システム製作所 (名古屋市港区)	航空・宇宙	航空機 生産設備ほか	632 (10) [100]	33,293	30,545	10,252	1,137 (10) [126]	16,710	146	5,137	96,085	4,787
名古屋誘導推進 システム製作所 (愛知県小牧市)	航空・宇宙	誘導飛しょう 体生産設備ほ か	178 (1) [4]	11,973	16,538	5,737	409 (1,185) [5]	6,648	35	1,381	42,314	1,947
本社 (東京都港区)			638 (9) [38]	64,957	1,443	2,034	829 (9) [31]	35,193	8	27	103,666	5,499
合計			5,538 (33) [273]	267,531	218,645	37,989	14,340 (1,231) [696]	122,100	3,265	47,218	696,753	34,139

(注) 1. 面積の数値の下に付した()書は借用設備を示し、本数中に含まない。

2. 面積の数値の下に付した[]書は貸与設備を示し、本数中に含む。

(3) 国内子会社の状況

子会社名 (主たる所在地)	主たる事業 の種類別 セグメント の名称	設備の内容	建物及び構築物		機械装 置及び 運搬具	工具、 器具及 び備品	土地		リース 資産	建設 仮勘定	合計	従業員数 (人)
			面積 (千㎡)	帳簿価額 (百万円)	帳簿価額 (百万円)	帳簿価額 (百万円)	面積 (千㎡)	帳簿価額 (百万円)	帳簿価額 (百万円)	帳簿価額 (百万円)	帳簿価額 (百万円)	
三菱農機(株) (島根県八束郡)	中量産品	農業機械 生産設備ほか	85 (30) [23]	2,472	1,411	789	274 (9) [45]	4,273	835	101	9,883	699
菱重エステート (株) (東京都港区)	その他	賃貸用 不動産ほか	88 (6) [78]	6,879	89	157	33 (3) [3]	4,069	—	322	11,518	257
近畿菱重興産(株) (神戸市兵庫区)	その他	賃貸用 不動産ほか	99 [29]	11,294	54	150	87 [17]	5,895	3	274	17,672	344
広島菱重興産(株) (広島市西区)	その他	賃貸用 不動産ほか	75 [51]	6,697	136	100	112 [75]	3,832	19	120	10,907	122
名古屋菱重興産 (株) (名古屋市港区)	その他	賃貸用 不動産ほか	37 [30]	4,084	24	134	60 [25]	814	—	13	5,070	343
(株)田町ビル (東京都港区)	その他	賃貸用 不動産ほか	99 (12) [63]	10,925	0	91	11	13,959	—	—	24,977	62
その他の 国内子会社			237 (93) [30]	14,099	17,918	4,249	503 (149) [8]	9,706	1,972	1,606	49,553	20,730
合計			723 (141) [308]	56,452	19,634	5,674	1,083 (162) [176]	42,552	2,829	2,438	129,583	22,557

(注) 1. 面積の数値の下に付した () 書は借用設備を示し、本数中に含まない。

2. 面積の数値の下に付した [] 書は貸与設備を示し、本数中に含む。

(4) 在外子会社の状況

子会社名 (主たる所在地)	主たる事業 の種類別 セグメント の名称	設備の内容	建物及び構築物		機械装 置及び 運搬具	工具、 器具及 び備品	土地		リース 資産	建設 仮勘定	合計	従業員数 (人)
			面積 (千㎡)	帳簿価額 (百万円)	帳簿価額 (百万円)	帳簿価額 (百万円)	面積 (千㎡)	帳簿価額 (百万円)	帳簿価額 (百万円)	帳簿価額 (百万円)	帳簿価額 (百万円)	
Mitsubishi Power Systems Americas, Inc. (Florida, U. S. A.)	原動機	タービン 生産設備ほか	53 (50)	3, 159	5, 215	176	152 (26)	205	—	1, 203	9, 960	927
Mitsubishi Caterpillar Forklift America Inc. (Texas, U. S. A.)	中量産品	フォークリフ ト生産設備ほ か	45 (42)	2, 058	4, 092	289	152 (83)	446	—	565	7, 451	841
Mitsubishi Turbocharger Asia Co., Ltd (Chonburi, Thailand)	中量産品	ターボチャ ージャ生産設 備ほか	17	912	4, 526	225	147	828	—	2, 058	8, 550	235
MHI Equipment Europe B. V. (Almere, The Netherlands)	中量産品	ターボチャ ージャ生産設 備ほか	21 (20)	1, 946	3, 803	241	52	321	—	816	7, 130	720
その他の 海外子会社			453 (162) [2]	12, 527	20, 217	3, 790	1, 256 (308) [12]	1, 612	—	874	39, 022	8, 250
合計			592 (275) [3]	20, 604	37, 855	4, 723	1, 762 (418) [12]	3, 414	—	5, 518	72, 115	10, 973

- (注) 1. 面積の数値の下に付した () 書は借用設備を示し、本数中に含まない。
2. 面積の数値の下に付した [] 書は貸与設備を示し、本数中に含む。

3【設備の新設，除却等の計画】

当社グループ（当社及び連結子会社）は，多種多様な事業を国内外で行っており，その設備の新設・拡充の計画を事業の種類別セグメント毎に開示する方法をとっている。

当連結会計年度末における状況は，次のとおりである。

事業の種類別セグメント内訳

事業の種類別 セグメントの名称	設備の内容	投資予定金額 (百万円)	着手及び完了予定	
			着手	完了
船舶・海洋	船舶生産用設備 ほか	8,300	平成22年4月	平成23年3月
原動機	ガスタービン生産用設備 ほか	61,700	平成22年4月	平成23年3月
機械・鉄構	コンプレッサ生産用設備 ほか	14,000	平成22年4月	平成23年3月
航空・宇宙	民間輸送機生産用設備 ほか	33,500	平成22年4月	平成23年3月
汎用機・特殊車両	ターボチャージャ生産用設備 ほか	16,300	平成22年4月	平成23年3月
その他	賃貸用不動産 ほか	16,200	平成22年4月	平成23年3月
計	—	150,000	—	—
消去又は共通	—	—	—	—
合計	—	150,000	—	—

(注) 1. 投資予定金額 150,000百万円は，自己資金のほか借入金によりまかなう予定である。

2. 上記設備計画達成により，生産能力は着工時に比べ若干増加する見込みである。

3. 経常的な設備の更新のための除・売却を除き，重要な設備の除・売却の計画はない。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	6,000,000,000
計	6,000,000,000

②【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成22年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成22年6月24日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	3,373,647,813	3,373,647,813	東京、大阪、名古屋、 福岡、札幌各証券取引所 〔東京、大阪、名古屋は 市場第一部〕	権利内容に何ら限定のない 当社における標準となる株 式であり、単元株式数は 1,000株である。(注)
計	3,373,647,813	3,373,647,813	—	—

(注) 「1 株式等の状況」における「普通株式」は、上表に記載の内容の株式をいう。

(2)【新株予約権等の状況】

当社は、ストックオプションの付与を目的として取締役及び執行役員に対して新株予約権を発行している。
当該新株予約権の内容は次のとおりである。

①改正前商法第280条ノ20及び第280条ノ21の規定に従い、平成17年6月28日開催の定時株主総会の特別決議に基づき、平成17年7月29日開催の当社取締役会においてその具体的な内容を決議し、平成17年8月11日に発行した新株予約権の内容

	事業年度末現在 (平成22年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成22年5月31日)
新株予約権の数	93個	同左
新株予約権のうち自己新株予約権の数	—	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数	93,000株	同左
新株予約権の行使時の払込金額	294円(注1)	同左
新株予約権の行使期間	平成19年6月29日から 平成23年6月28日まで	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の 株式の発行価格及び資本組入額	発行価格 294円 資本組入額 147円	同左
新株予約権の行使の条件	(注2)	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡するときは 当社取締役会の承認を要 するものとする。	同左
代用払込みに関する事項	—	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	—	—

(注) 1. 各新株予約権の行使に際して払込みをなすべき額は、各新株予約権の行使により発行又は移転する株式1株当たりの払込金額(以下「行使価額」という。)に各新株予約権の目的たる株式の数を乗じた金額とする。
なお、以下の事由が生じた場合は、行使価額をそれぞれ調整するものとする。

(1) 当社が当社普通株式につき株式分割又は株式併合を行う場合には、次の算式により行使価額を調整し、調整の結果生じる1円未満の端数は、これを切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

- (2) 当社が時価を下回る価額で当社普通株式につき、新株式を発行又は自己株式を処分する場合（新株予約権の行使の場合を除く。）は、次の算式により行使価額を調整し、調整により生じる1円未満の端数は、これを切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{\text{時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

なお、上記算式において、「既発行株式数」とは当社の発行済株式総数から当社の保有する自己株式の総数を控除した数とし、また、自己株式を処分する場合には、「新規発行株式数」を「処分する自己株式数」に読み替えるものとする。

- (3) 当社が資本の減少、合併又は会社分割を行う場合等、行使価額の調整を必要とするやむを得ない事由が生じたときは、資本の減少、合併又は会社分割の条件等を勘案の上、合理的な範囲で行使価額を調整する。
2. (1) 各新株予約権の一部行使はできないものとする。
- (2) 新株予約権の割当てを受けた対象者（以下「新株予約権者」という。）は、当社の取締役又は執行役員の地位を失った後も、これを行使することができるものとする。
また、新株予約権者が死亡した場合は、相続人がこれを行使することができるものとする。
- (3) 新株予約権の第三者への譲渡、質入その他一切の処分は、当社取締役会の承認ある場合を除き、これを認めないものとする。
- (4) その他の条件については、平成17年6月28日開催の定時株主総会の特別決議及び平成17年7月29日開催の当社取締役会決議に基づき、当社と新株予約権者との間で締結した「新株予約権割当契約書」に定めるところによる。

②会社法第238条第1項及び第2項並びに第240条第1項の規定に従い、平成18年7月31日開催の当社取締役会の決議に基づき、平成18年8月17日に発行した新株予約権の内容

	事業年度末現在 (平成22年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成22年5月31日)
新株予約権の数	562個	同左
新株予約権のうち自己新株予約権の数	—	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数	562,000株	同左
新株予約権の行使時の払込金額	1円	同左
新株予約権の行使期間	平成18年8月18日から 平成48年6月28日まで	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額	発行価格 1円 資本組入額 1円	同左
新株予約権の行使の条件	(注1)	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡するときは当社取締役会の承認を要するものとする。	同左
代用払込みに関する事項	—	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注2)	同左

(注) 1. 新株予約権の行使の条件

- (1) 新株予約権者は、新株予約権の行使期間内において、当社の取締役及び執行役員のいずれの地位をも喪失した場合に限り、本新株予約権を行使できるものとする。ただし、この場合、新株予約権者は、地位を喪失した日の翌日（以下「権利行使開始日」という。）から10年を経過する日までの間に限り、新株予約権を行使することができる。

- (2) 上記(1)に関わらず、新株予約権者は、以下の①又は②に定める場合（ただし、②については、新株予約権者に会社法第236条第1項第8号のイからホまでに掲げる株式会社（以下「再編対象会社」という。）の新株予約権が交付される場合を除く。）には、それぞれに定める期間内に限り新株予約権を行使できるものとする。
- ①新株予約権者が平成43年6月28日に至るまでに権利行使開始日を迎えなかった場合
平成43年6月29日から平成48年6月28日まで
 - ②当社が消滅会社となる合併で契約承認の議案、又は当社が完全子会社となる株式交換契約若しくは株式移転計画承認の議案につき当社株主総会で承認された場合（株主総会決議が不要な場合は、当社取締役会決議がなされた場合）
当該承認日の翌日から15日間
- (3) 新株予約権者が新株予約権を放棄した場合には、かかる新株予約権を行使することができないものとする。
- (4) 各新株予約権の一部行使はできないものとする。
- (5) 新株予約権者が死亡した場合は、相続人がこれを行使できるものとする。
- (6) 新株予約権の第三者への譲渡、質入その他一切の処分は、当社取締役会の承認のある場合を除き、これを認めないものとする。
- (7) その他の条件については、平成18年6月28日開催の定時株主総会決議及び平成18年7月31日開催の当社取締役会決議に基づき、当社と対象者との間で締結した「新株予約権割当契約書」に定めるところによる。

2. 組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項

当社が、合併（当社が合併により消滅する場合に限る。）、吸収分割、新設分割、株式交換又は株式移転（以上を総称して以下「組織再編行為」という。）をする場合において、組織再編行為の効力発生の時点において残存する新株予約権（以下「残存新株予約権」という。）の新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、再編対象会社の新株予約権を以下の条件に基づきそれぞれ交付することとする。この場合においては、残存新株予約権は消滅し、再編対象会社は新株予約権を新たに発行するものとする。ただし、以下の条件に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約又は株式移転計画において定めた場合に限るものとする。

- (1) 交付する再編対象会社の新株予約権の数は、残存新株予約権の新株予約権者が保有する新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付するものとする。
- (2) 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の種類は、再編対象会社の普通株式とする。
- (3) 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数は、組織再編行為の条件等を勘案の上、残存新株予約権に定められた事項に準じて決定する。
- (4) 交付される各新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、以下に定める再編後払込金額に上記(3)に従って決定される当該各新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数を乗じて得られる金額とする。再編後払込金額は、交付される各新株予約権を行使することにより交付を受けることができる再編対象会社の株式1株当たり1円とする。
- (5) 新株予約権を行使することができる期間は、上記表中「新株予約権の行使期間」の開始日と組織再編行為の効力発生日のうちいずれか遅い日から、上記表中「新株予約権の行使期間」の満了日までとする。
- (6) 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項は、残存新株予約権に定められた事項に準じて決定する。
- (7) 譲渡による新株予約権の取得については、再編対象会社の取締役会の決議による承認を要するものとする。
- (8) 新株予約権の取得条項は、残存新株予約権に定められた事項に準じて決定する。
- (9) その他の新株予約権の行使の条件は、上記（注1）に準じて決定する。

③会社法第238条第1項及び第2項並びに第240条第1項の規定に従い、平成19年7月31日開催の当社取締役会の決議に基づき、平成19年8月16日に発行した新株予約権の内容

	事業年度末現在 (平成22年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成22年5月31日)
新株予約権の数	356個	同左
新株予約権のうち自己新株予約権の数	—	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数	356,000株	同左
新株予約権の行使時の払込金額	1円	同左
新株予約権の行使期間	平成19年8月17日から 平成49年8月16日まで	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額	発行価格 1円 資本組入額 1円	同左
新株予約権の行使の条件	(注1)	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡するときは当社取締役会の承認を要するものとする。	同左
代用払込みに関する事項	—	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注2)	同左

(注) 1. 新株予約権の行使の条件

- (1) 新株予約権者は、新株予約権の行使期間内において、当社の取締役及び執行役員の内いずれの地位をも喪失した場合に限り、本新株予約権を行使できるものとする。ただし、この場合、新株予約権者は、地位を喪失した日の翌日（以下「権利行使開始日」という。）から10年を経過する日までの間に限り、新株予約権を行使することができる。
- (2) 上記(1)に関わらず、新株予約権者は、以下の①又は②に定める場合（ただし、②については、新株予約権者に会社法第236条第1項第8号のイからホまでに掲げる株式会社（以下「再編対象会社」という。）の新株予約権が交付される場合を除く。）には、それぞれに定める期間内に限り新株予約権を行使できるものとする。
 - ①新株予約権者が平成44年8月16日に至るまでに権利行使開始日を迎えなかった場合
平成44年8月17日から平成49年8月16日まで
 - ②当社が消滅会社となる合併で契約承認の議案、又は当社が完全子会社となる株式交換契約若しくは株式移転計画承認の議案につき当社株主総会で承認された場合（株主総会決議が不要な場合は、当社取締役会決議がなされた場合）
当該承認日の翌日から15日間
- (3) 新株予約権者が新株予約権を放棄した場合には、かかる新株予約権を行使することができないものとする。
- (4) 各新株予約権の一部行使はできないものとする。
- (5) 新株予約権者が死亡した場合は、相続人がこれを行使できるものとする。
- (6) 新株予約権の第三者への譲渡、質入その他一切の処分は、当社取締役会の承認のある場合を除き、これを認めないものとする。
- (7) その他の条件については、平成19年6月27日開催の定時株主総会決議及び平成19年7月31日開催の当社取締役会決議に基づき、当社と対象者との間で締結した「新株予約権割当契約書」に定めるところによる。

2. 組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項
前記②の(注2)に同じ。

④会社法第238条第1項及び第2項並びに第240条第1項の規定に従い、平成20年7月31日開催の当社取締役会の決議に基づき、平成20年8月18日に発行した新株予約権の内容

	事業年度末現在 (平成22年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成22年5月31日)
新株予約権の数	788個	同左
新株予約権のうち自己新株予約権の数	—	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数	788,000株	同左
新株予約権の行使時の払込金額	1円	同左
新株予約権の行使期間	平成20年8月19日から 平成50年8月18日まで	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額	発行価格 1円 資本組入額 1円	同左
新株予約権の行使の条件	(注1)	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡するときは当社取締役会の承認を要するものとする。	同左
代用払込みに関する事項	—	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注2)	同左

(注) 1. 新株予約権の行使の条件

- (1) 新株予約権者は、新株予約権の行使期間内において、当社の取締役及び執行役員のいずれの地位をも喪失した場合に限り、本新株予約権を行使できるものとする。ただし、この場合、新株予約権者は、地位を喪失した日の翌日（以下「権利行使開始日」という。）から10年を経過する日までの間に限り、新株予約権を行使することができる。
- (2) 上記(1)に関わらず、新株予約権者は、以下の①又は②に定める場合（ただし、②については、新株予約権者に会社法第236条第1項第8号のイからホまでに掲げる株式会社（以下「再編対象会社」という。）の新株予約権が交付される場合を除く。）には、それぞれに定める期間内に限り新株予約権を行使できるものとする。
 - ①新株予約権者が平成45年8月18日に至るまでに権利行使開始日を迎えなかった場合
平成45年8月19日から平成50年8月18日まで
 - ②当社が消滅会社となる合併で契約承認の議案、又は当社が完全子会社となる株式交換契約若しくは株式移転計画承認の議案につき当社株主総会で承認された場合（株主総会決議が不要な場合は、当社取締役会決議がなされた場合）
当該承認日の翌日から15日間
- (3) 新株予約権者が新株予約権を放棄した場合には、かかる新株予約権を行使することができないものとする。
- (4) 各新株予約権の一部行使はできないものとする。
- (5) 新株予約権者が死亡した場合は、相続人がこれを行使できるものとする。
- (6) 新株予約権の第三者への譲渡、質入その他一切の処分は、当社取締役会の承認のある場合を除き、これを認めないものとする。
- (7) その他の条件については、平成19年6月27日開催の定時株主総会決議及び平成20年7月31日開催の当社取締役会決議に基づき、当社と対象者との間で締結した「新株予約権割当契約書」に定めるところによる。

2. 組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項
前記②の(注2)に同じ。

⑤会社法第238条第1項及び第2項並びに第240条第1項の規定に従い、平成21年2月5日開催の当社取締役会の決議に基づき、平成21年2月20日に発行した新株予約権の内容

	事業年度末現在 (平成22年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成22年5月31日)
新株予約権の数	46個	同左
新株予約権のうち自己新株予約権の数	—	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数	46,000株	同左
新株予約権の行使時の払込金額	1円	同左
新株予約権の行使期間	平成21年2月21日から 平成51年2月20日まで	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の 株式の発行価格及び資本組入額	発行価格 1円 資本組入額 1円	同左
新株予約権の行使の条件	(注1)	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡するときは 当社取締役会の承認を要 するものとする。	同左
代用払込みに関する事項	—	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注2)	同左

(注) 1. 新株予約権の行使の条件

- (1) 新株予約権者は、新株予約権の行使期間内において、当社の取締役及び執行役員のいずれの地位をも喪失した場合に限り、本新株予約権を行使できるものとする。ただし、この場合、新株予約権者は、地位を喪失した日の翌日（以下「権利行使開始日」という。）から10年を経過する日までの間に限り、新株予約権を行使することができる。
- (2) 上記(1)に関わらず、新株予約権者は、以下の①又は②に定める場合（ただし、②については、新株予約権者に会社法第236条第1項第8号のイからホまでに掲げる株式会社（以下「再編対象会社」という。）の新株予約権が交付される場合を除く。）には、それぞれに定める期間内に限り新株予約権を行使できるものとする。
 - ①新株予約権者が平成46年2月20日に至るまでに権利行使開始日を迎えなかった場合
平成46年2月21日から平成51年2月20日まで
 - ②当社が消滅会社となる合併で契約承認の議案、又は当社が完全子会社となる株式交換契約若しくは株式移転計画承認の議案につき当社株主総会で承認された場合（株主総会決議が不要な場合は、当社取締役会決議がなされた場合）
当該承認日の翌日から15日間
- (3) 新株予約権者が新株予約権を放棄した場合には、かかる新株予約権を行使することができないものとする。
- (4) 各新株予約権の一部行使はできないものとする。
- (5) 新株予約権者が死亡した場合は、相続人がこれを行使できるものとする。
- (6) 新株予約権の第三者への譲渡、質入その他一切の処分は、当社取締役会の承認のある場合を除き、これを認めないものとする。
- (7) その他の条件については、平成19年6月27日開催の定時株主総会決議及び平成21年2月5日開催の当社取締役会決議に基づき、当社と対象者との間で締結した「新株予約権割当契約書」に定めるところによる。

2. 組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項

前記②の(注2)に同じ。

⑥会社法第238条第1項及び第2項並びに第240条第1項の規定に従い、平成21年7月31日開催の当社取締役会の決議に基づき、平成21年8月17日に発行した新株予約権の内容

	事業年度末現在 (平成22年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成22年5月31日)
新株予約権の数	1,109個	同左
新株予約権のうち自己新株予約権の数	—	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数	1,109,000株	同左
新株予約権の行使時の払込金額	1円	同左
新株予約権の行使期間	平成21年8月18日から 平成51年8月17日まで	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額	発行価格 1円 資本組入額 1円	同左
新株予約権の行使の条件	(注1)	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡するときは当社取締役会の承認を要するものとする。	同左
代用払込みに関する事項	—	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注2)	同左

(注) 1. 新株予約権の行使の条件

- (1) 新株予約権者は、新株予約権の行使期間内において、当社の取締役及び執行役員のいずれの地位をも喪失した場合に限り、本新株予約権を行使できるものとする。ただし、この場合、新株予約権者は、地位を喪失した日の翌日（以下「権利行使開始日」という。）から10年を経過する日までの間に限り、新株予約権を行使することができる。
- (2) 上記(1)に関わらず、新株予約権者は、以下の①又は②に定める場合（ただし、②については、新株予約権者に会社法第236条第1項第8号のイからホまでに掲げる株式会社（以下「再編対象会社」という。）の新株予約権が交付される場合を除く。）には、それぞれに定める期間内に限り新株予約権を行使できるものとする。
 - ①新株予約権者が平成46年8月17日に至るまでに権利行使開始日を迎えなかった場合
平成46年8月18日から平成51年8月17日まで
 - ②当社が消滅会社となる合併で契約承認の議案、又は当社が完全子会社となる株式交換契約若しくは株式移転計画承認の議案につき当社株主総会で承認された場合（株主総会決議が不要な場合は、当社取締役会決議がなされた場合）
当該承認日の翌日から15日間
- (3) 新株予約権者が新株予約権を放棄した場合には、かかる新株予約権を行使することができないものとする。
- (4) 各新株予約権の一部行使はできないものとする。
- (5) 新株予約権者が死亡した場合は、相続人がこれを行使できるものとする。
- (6) 新株予約権の第三者への譲渡、質入その他一切の処分は、当社取締役会の承認のある場合を除き、これを認めないものとする。
- (7) その他の条件については、平成19年6月27日開催の定時株主総会決議及び平成21年7月31日開催の当社取締役会決議に基づき、当社と対象者との間で締結した「新株予約権割当契約書」に定めるところによる。

2. 組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項

前記②の(注2)に同じ。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

平成22年2月1日以後に開始する事業年度に係る有価証券報告書から適用されるため、記載事項はない。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項なし。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成13年4月1日～ 平成14年3月31日	620	3,373,647	153,808	265,608,781	153,187	203,536,197

(注) 平成13年4月1日から平成14年3月31日までの間の増加分は転換社債の株式転換による。

なお、平成14年4月1日以降、発行済株式総数、資本金及び資本準備金に変動はない。

(6) 【所有者別状況】

平成22年3月31日現在

区分	株式の状況（1単元の株式数1,000株）								単元未満 株式の状況 (株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	2	263	146	2,973	585	142	364,651	368,762	—
所有株式数 (単元)	443	1,093,922	51,893	325,166	655,438	631	1,235,791	3,363,284	10,363,813
所有株式数 の割合(%)	0.01	32.53	1.54	9.67	19.49	0.02	36.74	100.00	—

(注) 1. 自己株式は17,317,765株であり、「個人その他」の欄に17,317単元及び「単元未満株式の状況」の欄に765株を含めて記載している。

2. 「その他の法人」の欄には、(株)証券保管振替機構名義の株式が31単元含まれている。

(7) 【大株主の状況】

平成22年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数 に対する所有株式 数の割合(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社信託口	東京都中央区晴海一丁目8番11号	155,104	4.60
日本マスタートラスト信託銀行株式 会社信託口	東京都港区浜松町二丁目11番3号	132,051	3.91
野村信託銀行株式会社退職給付信託 三菱東京UFJ銀行口	東京都千代田区大手町二丁目2番2号	125,666	3.72
明治安田生命保険相互会社 (常任代理人 資産管理サービス信 託銀行株式会社)	東京都千代田区丸の内二丁目1番1号 (東京都中央区晴海一丁目8番12号)	80,022	2.37
東京海上日動火災保険株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目2番1号	50,400	1.49
野村信託銀行株式会社退職給付信託 三菱UFJ信託銀行口	東京都千代田区大手町二丁目2番2号	45,934	1.36
オーディー 05 オムニバス チャ イナ トリーティ 808150 (常任代理人 香港上海銀行東京 支店)	338 PITT STREET SYDNEY NSW 2000 AUSTRALIA (東京都中央区日本橋三丁目11番1号)	38,875	1.15
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社信託口9	東京都中央区晴海一丁目8番11号	38,070	1.13
三菱重工持株会	東京都港区港南二丁目16番5号	31,683	0.94
JFEスチール株式会社	東京都千代田区内幸町二丁目2番3号	28,056	0.83
計	—	725,863	21.52

(8) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成22年3月31日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 17,317,000	—	—
	(相互保有株式) 普通株式 262,000	—	—
完全議決権株式 (その他)	普通株式 3,345,705,000	3,345,705	—
単元未満株式	普通株式 10,363,813	—	—
発行済株式総数	3,373,647,813	—	—
総株主の議決権	—	3,345,705	—

- (注) 1. 「完全議決権株式 (その他)」欄の普通株式には、(株)証券保管振替機構名義の株式が31,000株 (議決権31個) 含まれている。
2. 株主名簿上当社が発行済株式総数の4分の1を超えて所有している会社名義となっているが実質的には当該会社が所有していない株式が3,141株あり、「完全議決権株式 (その他)」欄に3,000株 (議決権3個) 及び「単元未満株式」欄に141株を含めて記載している。
3. 「単元未満株式」欄には以下の自己株式及び相互保有株式が含まれている。
- | | |
|------------|------|
| 当社所有 | 765株 |
| 日本建設工業(株) | 765株 |
| (株)東北機械製作所 | 500株 |

②【自己株式等】

平成22年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対す る所有株式 数の割合 (%)
(自己保有株式) 三菱重工業(株)	東京都港区港南二丁目16番5号	17,317,000	0	17,317,000	0.51
(相互保有株式) 日本建設工業(株)	東京都中央区月島四丁目12番5号	72,000	0	72,000	0.00
(株)東北機械製作所	秋田市茨島一丁目2番3号	2,000	0	2,000	0.00
(株)菱友システムズ	東京都港区高輪二丁目19番13号	40,000	0	40,000	0.00
(株)寺田鐵工所	広島県福山市新浜町二丁目4番16号	20,000	0	20,000	0.00
長菱ハイテック(株)	長崎県諫早市貝津町2165番地	3,000	0	3,000	0.00
神戸発動機(株)	兵庫県明石市二見町南二見1番地	125,000	0	125,000	0.00
計	—	17,579,000	0	17,579,000	0.52

(注) 株主名簿上当社が発行済株式総数の4分の1を超えて所有している会社名義となっているが実質的には当該会社が所有していない株式が3,141株あり、上記①の「発行済株式」の「完全議決権株式(その他)」欄に3,000株(議決権3個)及び「単元未満株式」欄に141株を含めて記載している。

(9) 【ストックオプション制度の内容】

当社は、取締役及び執行役員に対して新株予約権証券を付与する決議を行っている。当該決議に係るストックオプション制度の内容は次のとおりである。

①平成17年6月28日開催の定時株主総会において決議されたストックオプション制度

決議年月日	平成17年6月28日
付与対象者の区分及び人数	当社の取締役15名及び執行役員11名
新株予約権の目的となる株式の種類	「(2)新株予約権等の状況」に記載のとおり
株式の数	同上
新株予約権の行使時の払込金額	同上
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	—

②平成18年7月31日開催の当社取締役会において決議されたストックオプション制度

決議年月日	平成18年7月31日
付与対象者の区分及び人数	当社の取締役15名及び執行役員10名
新株予約権の目的となる株式の種類	「(2)新株予約権等の状況」に記載のとおり
株式の数	同上
新株予約権の行使時の払込金額	同上
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	「(2)新株予約権等の状況」に記載のとおり

③平成19年7月31日開催の当社取締役会において決議されたストックオプション制度

決議年月日	平成19年7月31日
付与対象者の区分及び人数	当社の取締役14名及び執行役員16名
新株予約権の目的となる株式の種類	「(2)新株予約権等の状況」に記載のとおり
株式の数	同上
新株予約権の行使時の払込金額	同上
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	「(2)新株予約権等の状況」に記載のとおり

④平成20年7月31日開催の当社取締役会において決議されたストックオプション制度

決議年月日	平成20年7月31日
付与対象者の区分及び人数	当社の取締役16名及び執行役員17名
新株予約権の目的となる株式の種類	「(2)新株予約権等の状況」に記載のとおり
株式の数	同上
新株予約権の行使時の払込金額	同上
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	「(2)新株予約権等の状況」に記載のとおり

⑤平成21年2月5日開催の当社取締役会において決議されたストックオプション制度

決議年月日	平成21年2月5日
付与対象者の区分及び人数	当社の執行役員2名
新株予約権の目的となる株式の種類	「(2)新株予約権等の状況」に記載のとおり
株式の数	同上
新株予約権の行使時の払込金額	同上
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	「(2)新株予約権等の状況」に記載のとおり

⑥平成21年7月31日開催の当社取締役会において決議されたストックオプション制度

決議年月日	平成21年7月31日
付与対象者の区分及び人数	当社の取締役16名及び執行役員17名
新株予約権の目的となる株式の種類	「(2)新株予約権等の状況」に記載のとおり
株式の数	同上
新株予約権の行使時の払込金額	同上
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	「(2)新株予約権等の状況」に記載のとおり

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項なし。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項なし。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数 (株)	価額の総額 (円)
当事業年度における取得自己株式	61,401	21,157,327
当期間における取得自己株式	9,839	3,755,125

(注) 「当期間における取得自己株式」には平成22年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる取得自己株式は含まれていない。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数 (株)	処分価額の総額(円)	株式数 (株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	—	—	—	—
消却の処分を行った取得自己株式	—	—	—	—
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	—	—	—	—
その他 (単元未満株式の買増請求, 新株予約権の行使に伴う処分)	134,588	38,998,389	850	246,415
保有自己株式数	17,317,765	—	17,326,754	—

(注) 当期間における「その他 (単元未満株式の買増請求, 新株予約権の行使に伴う処分)」及び「保有自己株式数」には平成22年6月1日から有価証券報告書提出日までの変動は反映していない。

3 【配当政策】

当社は、利益水準や、企業体質の一層の強化及び今後の事業展開のための内部留保を総合的に勘案した上で、配当については株主の期待にこたえるように努めてきた。

当社は、定款の定めにより、毎年9月30日を基準日とする中間配当金及び毎年3月31日を基準日とする期末配当金の年2回の剰余金の配当を行っており、これらの剰余金の配当を決定する機関は、中間配当金については取締役会、期末配当金については株主総会としている。

当事業年度に係る剰余金の配当については、上記の方針に基づき、期末配当金を1株につき2円とし、平成21年12月に支払った中間配当金（1株につき2円）と合わせ、1株当たり4円としている。

また、当社は、会社法第454条第5項に規定する中間配当をすることができる旨を定款に定めている。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は、次のとおりである。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
平成21年10月30日 取締役会決議	6,712	2.0
平成22年6月24日 定時株主総会決議	6,712	2.0

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
決算年月	平成18年3月	平成19年3月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月
最高(円)	567	776	897	595	416
最低(円)	269	448	384	270	274

(注) 株価は、(株)東京証券取引所(市場第一部)の市場相場である。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成21年10月	平成21年11月	平成21年12月	平成22年1月	平成22年2月	平成22年3月
最高(円)	341	318	333	355	338	390
最低(円)	323	274	288	316	313	332

(注) 株価は、(株)東京証券取引所(市場第一部)の市場相場である。

5 【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役会長 (代表取締役)		佃 和 夫	昭和18年9月1日生	昭和43年4月 当社入社 平成7年12月 当社高砂製作所副所長 同 11年4月 当社名古屋機器製作所所長 同 11年6月 当社取締役, 名古屋機器製作所所長 同 12年4月 当社取締役, 産業機器事業部長 同 14年4月 当社常務取締役, 海外戦略本部長 兼産業機器事業部長 同 14年10月 当社常務取締役, 海外戦略本部長 同 15年6月 当社取締役社長 同 20年4月 当社取締役会長(現職) 同 20年6月 三菱商事株式会社取締役兼務(現職)	(注)3	135
取締役社長 (代表取締役)		大 宮 英 明	昭和21年7月25日生	昭和44年6月 当社入社 平成11年6月 当社名古屋航空宇宙システム製作所副所長 同 13年4月 当社産業機器事業部副事業部長 同 14年4月 当社冷熱事業本部副事業本部長 同 14年6月 当社取締役, 冷熱事業本部副事業本部長 同 15年4月 当社取締役, 冷熱事業本部長 同 17年6月 当社取締役, 常務執行役員, 冷熱事業本部長 同 19年4月 当社取締役, 副社長執行役員 同 20年4月 当社取締役社長(現職)	(注)3	78
取締役 副社長 執行役員 (代表取締役)	取締役社長補佐, ものづくり革新推進担当, エネルギー・環境事業に関する事項, その他社長特命事項担当	福 江 一 郎	昭和21年10月28日生	昭和46年4月 当社入社 平成10年6月 当社高砂製作所副所長 同 13年4月 当社高砂製作所所長 同 14年6月 当社取締役, 高砂製作所所長 同 16年4月 当社取締役, 原動機事業本部副事業本部長 同 17年4月 当社常務取締役, 原動機事業本部長 同 17年6月 当社取締役, 常務執行役員, 原動機事業本部長 同 20年4月 当社取締役, 副社長執行役員(現職)	(注)3	115
取締役 副社長 執行役員 (代表取締役)	取締役社長補佐, 社長室長, その他社長特命事項担当	菅 宏	昭和21年12月6日生	昭和44年7月 当社入社 平成11年4月 当社資金部長 同 14年4月 当社経理部長 同 15年6月 当社取締役, 経理部長 同 17年4月 当社常務取締役 同 17年6月 当社取締役, 常務執行役員 同 21年4月 当社取締役, 副社長執行役員, 社長室長(現職)	(注)3	56
取締役 副社長 執行役員 (代表取締役)	取締役社長補佐, 技術本部長及び情報システム担当, その他社長特命事項担当	青 木 素 直	昭和22年11月21日生	昭和47年4月 当社入社 平成12年6月 当社技術本部長高砂研究所所長 同 15年6月 当社取締役, 技術本部長高砂研究所所長 同 17年1月 当社取締役, 技術本部長 同 17年6月 当社取締役, 執行役員, 技術本部長 同 18年4月 当社取締役, 常務執行役員, 技術本部長 同 21年4月 当社取締役, 副社長執行役員, 技術本部長(現職)	(注)3	32

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
取締役 常務 執行役員 (代表取締役)	内部監査, CSR推進, 総務, 法務 及び人事担 当	安 田 勝 彦	昭和22年3月17日生	昭和45年4月 平成12年6月 同 13年4月 同 14年4月 同 17年6月 同 18年4月 同 20年4月 同 20年6月	当社入社 当社名古屋航空宇宙システム製作 所副所長 当社名古屋誘導推進システム製作 所副所長 当社総務部長 当社執行役員, 総務部長 当社執行役員, 常務補佐 当社常務執行役員 当社取締役, 常務執行役員(現職)	(注) 3	90
取締役 常務 執行役員 (代表取締役)	原子力事業 本部長	澤 明	昭和23年4月20日生	昭和46年4月 平成13年4月 同 16年4月 同 17年6月 同 20年4月 同 20年6月	当社入社 当社神戸造船所副所長 当社神戸造船所所長 当社執行役員, 神戸造船所所長 当社常務執行役員, 原子力事業本 部長 当社取締役, 常務執行役員, 原子 力事業本部長(現職)	(注) 3	32
取締役 常務 執行役員 (代表取締役)	航空宇宙事 業本部長	川 井 昭 陽	昭和23年2月22日生	昭和48年4月 平成14年4月 同 16年4月 同 18年4月 同 20年2月 同 20年4月 同 20年6月	当社入社 当社名古屋誘導推進システム製作 所副所長 当社名古屋誘導推進システム製作 所所長 当社執行役員, 名古屋誘導推進シ ステム製作所所長 当社執行役員, 航空宇宙事業本 部長 当社常務執行役員, 航空宇宙事業 本部長 当社取締役, 常務執行役員, 航空 宇宙事業本部長(現職)	(注) 3	33
取締役 常務 執行役員 (代表取締役)	機械・鉄構 事業本部長	宮 永 俊 一	昭和23年4月27日生	昭和47年4月 平成11年10月 同 12年10月 同 14年4月 同 18年4月 同 18年5月 同 20年4月 同 20年6月	当社入社 当社機械事業本部重機械部長 エムエイチアイ日立製鉄機械株式 会社取締役社長 三菱日立製鉄機械株式会社取締役 社長 当社執行役員, 機械事業本部副事 業本部長 当社執行役員, 機械・鉄構事業本 部副事業本部長 当社常務執行役員, 機械・鉄構事 業本部長 当社取締役, 常務執行役員, 機 械・鉄構事業本部長(現職)	(注) 3	49
取締役 常務 執行役員 (代表取締役)	原動機事業 本部長	佃 嘉 章	昭和23年4月21日生	昭和49年4月 平成13年4月 同 14年4月 同 16年4月 同 18年4月 同 19年4月 同 20年4月 同 20年6月	当社入社 当社高砂製作所副所長 当社高砂製作所タービン統括部長 当社高砂製作所所長 当社原動機事業本部副事業本部長 当社執行役員, 原動機事業本部副 事業本部長 当社常務執行役員, 原動機事業本 部長 当社取締役, 常務執行役員, 原動 機事業本部長(現職)	(注) 3	46

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
取締役 常務 執行役員 (代表取締役)	経理、資金 及び資材担 当	河本雄二郎	昭和25年3月15日生	昭和48年4月 平成14年4月 同 17年4月 同 19年4月 同 21年4月 同 21年6月	当社入社 当社神戸造船所副所長 当社経理部長 当社執行役員、経理部長 当社常務執行役員 当社取締役、常務執行役員(現職) 三菱自動車工業株式会社監査役兼 務(現職)	(注)3	16
取締役 常務 執行役員 (代表取締役)	船舶・海洋 事業本部長	原 壽	昭和25年5月8日生	昭和48年4月 平成15年4月 同 17年7月 同 18年4月 同 21年4月 同 22年4月 同 22年6月	当社入社 当社下関造船所副所長 当社下関造船所長 当社執行役員、下関造船所長 当社執行役員、船舶・海洋事業本 部副事業本部長 当社常務執行役員、船舶・海洋事 業本部長 当社取締役、常務執行役員、船 舶・海洋事業本部長(現職)	(注)3	27
取締役 執行役員	ものづくり 革新推進部 長	新谷 誠	昭和24年9月27日生	昭和49年4月 平成15年4月 同 17年6月 同 18年4月 同 21年4月 同 21年6月	当社入社 当社広島製作所副所長 当社広島製作所長 当社執行役員、広島製作所長 当社執行役員、ものづくり革新推 進部長 当社取締役、執行役員、ものづく り革新推進部長(現職)	(注)3	22
取締役 執行役員	機械・鉄構 事業本部副 事業本部長	阿部 孝	昭和24年4月17日生	昭和48年4月 平成15年4月 同 17年4月 同 20年4月 同 21年4月 同 21年6月 同 21年9月 同 22年4月	当社入社 当社名古屋航空宇宙システム製作 所副所長 当社社長室企画部長 当社執行役員、社長室企画部長 当社執行役員、社長室副室長兼企 画部長 当社取締役、執行役員、社長室副 室長兼企画部長 当社取締役、執行役員、社長室副 室長 当社取締役、執行役員、機械・鉄 構事業本部副事業本部長(現職)	(注)3	10
取締役 執行役員	汎用機・特 車事業本部 長	菱川 明	昭和26年9月10日生	昭和51年4月 平成15年6月 同 16年3月 同 19年4月 同 21年4月 同 21年6月	当社入社 V. S. T. Tillers Tractors Limited取締役兼務(現職) 当社汎用機・特車事業本部副事業 部長 当社汎用機・特車事業本部副事業 本部長 当社執行役員、汎用機・特車事業 本部長 当社取締役、執行役員、汎用機・ 特車事業本部長(現職) 日本輸送機株式会社取締役兼務 (現職)	(注)3	20
取締役		和田明広	昭和9年1月3日生	昭和31年4月 同 61年9月 平成2年9月 同 4年9月 同 6年9月 同 11年6月 同 17年6月 同 21年6月	トヨタ自動車工業株式会社入社 トヨタ自動車株式会社取締役 同社常務取締役 同社専務取締役 同社取締役副社長 アイシン精機株式会社取締役会長 同社相談役 当社取締役兼務(現職) アイシン精機株式会社顧問・技監 (現職)	(注)3	43

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
取締役		坂本吉弘	昭和13年10月4日生	昭和37年4月 平成3年6月 同 4年6月 同 5年6月 同 6年12月 同 8年8月 同 10年10月 同 15年6月 同 16年6月 同 18年4月 同 19年4月 同 19年6月	通商産業省入省 同省基礎産業局長 同省機械情報産業局長 同省通商政策局長 同省通商産業審議官 同省顧問 財団法人日本エネルギー経済研究所理事 アラビア石油株式会社代表取締役社長 AOCホールディングス株式会社代表取締役社長 同社代表取締役社長退任 アラビア石油株式会社代表取締役社長退任 当社顧問 当社取締役(現職)	(注)3	9
取締役		小島順彦	昭和16年10月15日生	昭和40年5月 平成7年6月 同 9年4月 同 13年4月 同 13年6月 同 16年4月 同 22年6月	三菱商事株式会社入社 同社取締役 同社常務取締役 同社取締役副社長 同社取締役、副社長執行役員 同社取締役社長 同社取締役会長(現職) 当社取締役兼務(現職)	(注)3	3
監査役 (常勤監査役)		中本興伸	昭和27年1月7日生	昭和49年4月 平成14年4月 同 17年7月 同 19年6月	当社入社 当社人事部長 当社内部監査室長 当社監査役(現職) 株式会社東洋製作所監査役兼務(現職)	(注)4	39
監査役 (常勤監査役)		八坂直樹	昭和25年11月11日生	昭和48年4月 平成16年4月 同 20年4月 同 20年6月	当社入社 当社資金部長 当社資金部調査役 当社監査役(現職)	(注)5	8
監査役		中野豊士	昭和10年12月16日生	昭和34年4月 同 62年6月 同 63年6月 平成2年6月 同 5年6月 同 7年6月 同 11年6月 同 15年6月 同 16年4月 同 17年10月	三菱信託銀行株式会社入社 同社取締役 同社常務取締役 同社専務取締役 同社取締役副社長 同社取締役社長 同社取締役会長 当社監査役兼務(現職) 三菱信託銀行株式会社最高顧問 三菱UFJ信託銀行株式会社最高顧問(現職)	(注)4	17
監査役		野村吉三郎	昭和9年6月10日生	昭和34年4月 同 58年6月 平成3年6月 同 5年6月 同 9年6月 同 13年4月 同 17年4月 同 17年6月	全日本空輸株式会社入社 同社取締役 同社常務取締役 同社専務取締役 同社取締役社長 同社取締役会長 同社最高顧問(現職) 当社監査役兼務(現職)	(注)6	13

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
監査役		畔柳 信 雄	昭和16年12月18日生	昭和40年4月	株式会社三菱銀行入行	(注)6	1
				平成4年6月	同行取締役		
				同 8年4月	株式会社東京三菱銀行取締役		
				同 8年6月	同行常務取締役		
				同 13年6月	同行常務執行役員		
				同 14年6月	同行副頭取		
				同 15年6月	株式会社三菱東京フィナンシャル・グループ取締役兼務		
				同 16年6月	株式会社東京三菱銀行頭取 株式会社三菱東京フィナンシャル・グループ取締役社長		
				同 17年10月	株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ取締役社長		
				同 18年1月	株式会社三菱東京UFJ銀行頭取		
同 20年4月	同行取締役会長(現職)						
同 21年6月	当社監査役兼務(現職)						
同 22年4月	株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ取締役(現職)						
計							894

- (注) 1. 取締役和田明広、坂本吉弘及び小島順彦は、会社法第2条第15号に定める社外取締役である。
2. 監査役中野豊士、野村吉三郎及び畔柳信雄は、会社法第2条第16号に定める社外監査役である。
3. 取締役の任期は、平成22年6月24日開催の定時株主総会における選任後1年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までである。
4. 監査役中本興伸及び中野豊士の任期は、平成19年6月27日開催の定時株主総会における選任後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までである。
5. 監査役八坂直樹の任期は、平成20年6月26日開催の定時株主総会における選任後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までである。
6. 監査役野村吉三郎及び畔柳信雄の任期は、平成21年6月25日開催の定時株主総会における選任後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までである。
7. 当社は、執行役員制を導入している。

(御参考) 平成22年6月24日現在の執行役員の陣容は次のとおりである。

地位	氏名	担当業務
*取締役社長	大宮 英明	
*副社長執行役員	福江 一郎	ものづくり革新推進担当, エネルギー・環境事業に関する事項
*副社長執行役員	菅 宏	社長室長
*副社長執行役員	青木 素直	技術本部長及び情報システム担当
*常務執行役員	安田 勝彦	内部監査, CSR推進, 総務, 法務及び人事担当
*常務執行役員	澤 明	原子力事業本部長
*常務執行役員	川井 昭陽	航空宇宙事業本部長
*常務執行役員	宮永 俊一	機械・鉄構事業本部長
*常務執行役員	佃 嘉章	原動機事業本部長
*常務執行役員	河本 雄二郎	経理, 資金及び資材担当
*常務執行役員	原 壽	船舶・海洋事業本部長
*執行役員	新谷 誠	ものづくり革新推進部長
*執行役員	阿部 孝	機械・鉄構事業本部副事業本部長
*執行役員	菱川 明	汎用機・特車事業本部長
執行役員	渡部 健	機械・鉄構事業本部 紙・印刷機械事業部長
執行役員	西沢 隆人	機械・鉄構事業本部副事業本部長
執行役員	伏屋 紀昭	原動機事業本部副事業本部長 兼 再生エネルギー事業部長
執行役員	和仁 正文	原動機事業本部副事業本部長
執行役員	前川 篤	原動機事業本部副事業本部長
執行役員	山内 澄	Mitsubishi Nuclear Energy Systems Inc. 社長
執行役員	正森 滋郎	神戸造船所長
執行役員	吉田 愼一	名古屋航空宇宙システム製作所長
執行役員	平本 康治	原動機事業本部副事業本部長 兼 プラント事業部長
執行役員	小林 孝	航空宇宙事業本部副事業本部長
執行役員	岩松 茂喜	Mitsubishi Turbocharger Asia Co., Ltd. 社長
執行役員	児玉 敏雄	技術本部副本部長
執行役員	堀口 幸範	海外戦略本部長
執行役員	有原 正彦	冷熱事業本部長
執行役員	矢神 俊郎	総務部長
執行役員	須藤 俊	原子力事業本部副事業本部長
執行役員	水谷 久和	航空宇宙事業本部副事業本部長
執行役員	鯨井 洋一	機械・鉄構事業本部機械事業部長
執行役員	相馬 和夫	長崎造船所長
執行役員	藤原 彰彦	工作機械事業部長
執行役員	松村 栄人	船舶・海洋事業本部副事業本部長
執行役員	山崎 育邦	機械・鉄構事業本部調査役 兼 三菱日立製鉄機械株式会社取締役社長

(注) *印の各氏は, 取締役を兼務している。

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

ア. 基本的な考え方

当社は、顧客第一の信念に立ちつつ、責任ある企業として全てのステークホルダーに配慮した経営を行っている。

また、経営の効率性向上とコンプライアンスの強化を図るため、激変する経済環境にいち早く対応し合理的な意思決定を行う経営システムの革新に努めるとともに、公正で健全な経営の推進に取り組んでいる。また、株主の皆様をはじめ、社外の方々に対する迅速で正確な情報の発信による、経営の透明性向上にも努めている。

イ. 各種施策の実施状況等

(ア) 企業統治の体制の概要

当社は、取締役会において経営の重要な意思決定、業務の執行の監督を行い、監査役が取締役会等重要会議への出席等を通じて取締役の職務の執行を監査する監査役会設置会社である。

提出日現在、取締役18名中3名を社外から選任し、社外取締役として当社経営に有益な意見や率直な指摘をいただくことにより、経営監督機能の強化に努めている。また、業務執行に関する重要事項の審議機関として経営会議を置き、社長を中心とする業務執行体制の中で合議制により審議することで、より適切な経営判断及び業務の執行が可能となる体制を採っている。

なお、当社経営の健全性・透明性をより向上させるとともに、効率性・機動性を高めることを狙いとして、平成17年6月にコーポレート・ガバナンス体制を見直し、運用している。その主な内容は、社外役員の増員、取締役数のスリム化及び取締役の任期短縮並びに執行役員制の導入である。これにより、取締役会の監督機能の強化を図るとともに、経営上の重要事項の決定及び会社経営全般の監督を担う取締役と業務執行を担う執行役員の役割と責任を明確化した。

(イ) 内部統制システムの整備状況

当社は法令に従い、業務の適正を確保するための体制の整備について取締役会で決議し、公正で健全な経営の推進に努めている。この決議の概要は、次のとおりである。

1. 取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
 - (1) 当社は法令を遵守し社会規範や企業倫理を重視した公正・誠実な事業活動を行うことを基本理念とし、取締役は自ら率先してその実現に努める。
 - (2) 取締役会は、取締役から付議・報告される事項についての討議を尽くし、経営の健全性と効率性の両面から監督する。また、社外役員の意見を心得て監督の客観性と有効性を高める。
2. 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制
 - (1) 文書管理の基本的事項を社規に定め、取締役の職務執行に係る情報を適切に記録し、保存・管理する。
 - (2) 上記の情報は、取締役及び監査役が取締役の職務執行を監督・監査するために必要と認めるときは、いつでも閲覧できるものとする。
3. 損失の危険の管理に関する規程その他の体制
 - (1) 各種リスクを適切に管理するため、リスクの類型に応じた管理体制を整備し、管理責任の明確化を図るものとする。
 - (2) リスクを定期的に評価・分析し、必要な回避策又は低減策を講じるとともに、内部監査によりその実効性と妥当性を監査し、定期的に取締役会に報告するものとする。
 - (3) 重大リスクが顕在化した場合に備え、緊急時に迅速かつ的確な対応ができるよう速やかにトップへ情報を伝達する手段を確保し、また各事業部門に危機管理責任者を配置する。
4. 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
 - (1) 取締役会で事業計画を策定して、全社的な経営方針・経営目標を設定し、社長を中心とする業務執行体制で目標の達成に当たる。
 - (2) 経営目標を効率的に達成するため、組織編成、業務分掌及び指揮命令系統等を社規に定める。
5. 使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
 - (1) コンプライアンス委員会をはじめとした組織体制を整備し、社員行動指針の制定や各種研修の実施等を通じて社員の意識徹底に努める。
 - (2) 内部通報制度などコンプライアンスの実効性を高めるための仕組みを整備するほか、コンプライアンスへの取組状況について内部監査を実施し、取締役会に報告する。
6. 企業集団における業務の適正を確保するための体制
 - (1) グループ会社社長が経営責任を担い独立企業として自主運営を行うとともに、当社グループ全体が健全で効率的な経営を行い連結業績向上に資するよう、当社とグループ会社間の管理責任体制、運営要領を定め、グループ会社を支援・指導する。
 - (2) 当社グループ全体として業務の適正を確保するため、コンプライアンスやリスク管理に関する諸施策はグループ会社も含めて推進し、各社の規模や特性に応じた内部統制システムを整備させるとともに、当社の管理責任部門がその状況を監査する。
 - (3) 当社及び当社グループ会社が各々の財務情報の適正性を確保し、信頼性のある財務報告を作成・開示するために必要な組織、規則等を整備する。
7. 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項
監査役の要請に対応してその円滑な職務遂行を支援するため、監査役室を設置して専属のスタッフを配置する。
8. 前号の使用人の取締役からの独立性に関する事項
監査役室のスタッフは取締役の指揮命令を受けないものとし、また人事異動・考課等は監査役の同意の下に行うものとして、執行部門からの独立性を確保する。
9. 取締役及び使用人が監査役に報告をするための体制その他の監査役への報告に関する体制
監査役への報告や情報伝達に関しての取り決めを実施するほか、定期的な意見交換などを通じて適切な意思疎通を図る。
10. その他監査役が効率的に行われることを確保するための体制
監査役が、社内関係部門及び会計監査人等との意思疎通を図り、情報の収集や調査を行うなど、実効的な監査が行えるよう留意する。

(ウ) 内部監査の状況

当社は、内部監査室（23名）を設置し、内部統制システムが有効に機能しているかどうかを、内部監査及び財務報告に係る内部統制の評価により確認している。

内部監査については、内部監査室で各年度の内部監査方針を立案し、社内全部門に対して実施指示を行い、各部門の内部監査実施内容や監査結果等を確認するとともに、特定テーマを対象に特別監査を実施している。また、内部監査室は、コンプライアンスの状況について内部統制部門から定期的に報告を受けている。財務報告に係る内部統制報告制度についても、金融商品取引法に則り適切な対応を図っており、平成21年度末日時点において、当社の財務報告に係る内部統制は有効であるとの評価結果を得た。

(エ) 監査役監査の状況

当社の監査役会は監査役5名で構成されており、このうち過半数の3名が社外監査役である。また、常勤監査役のうち1名は、経理・財務部門における長年の業務経験があり、財務及び会計に関する相当程度の知見を有する者を選任している。各監査役は監査役会で定めた監査の方針、監査計画に従い、取締役会のほか、経営会議や事業計画会議等の重要会議に出席し、経営執行状況の適時的確な把握と監視に努めるとともに、遵法状況の点検・確認、財務報告に係る内部統制を含めた内部統制システムの整備・運用の状況等の監視・検証を通じて、取締役の職務執行が法令・定款に適合し、会社業務が適正に遂行されているかを監査している。

監査役は、内部監査室及び会計監査人と定期的に情報・意見の交換を行うとともに、監査結果の報告受け、会計監査人の監査への立会いなど緊密な連携をとっている。また、監査役はコンプライアンスやリスク管理活動の状況等について内部統制部門から定期的に報告を受けている。こうした監査役の監査業務をサポートするため、監査役室を設けて専任スタッフ（6名）を配置し、監査役の円滑な職務遂行を支援している。

(オ) 会計監査の状況

当社は会計監査業務を新日本有限責任監査法人に委嘱しており、当社の会計監査業務を執行した公認会計士（指定有限責任社員・業務執行社員）は上田雅之、石井一郎及び森田祥且の3氏であり、継続監査年数は全員が7年以内である。

また、当社の会計監査業務に係る補助者は、公認会計士14名及び会計士補等27名である。

会計監査人は当社のコーポレート・ガバナンスやコンプライアンスに関する取組み等について、担当役員と定期的に意見交換を行っている。

(カ) 社外取締役及び社外監査役

当社は社内の視点に偏らない客観的な立場から経営者や行政官としての豊富な経験や幅広い見識に基づく当社経営に対する助言と監督をいただくため、取締役18名のうち3名、監査役5名のうち3名を社外から選任している。これらの社外取締役及び社外監査役については、当社、当社の関係会社及び当社の主要取引先等における勤務経験や、当社又は当社の関係会社の他の役員等との親族関係等の点で当社からの独立性を損なうような事情はなく、その他、本人と当社との間に人的関係、資本的関係又は取引関係その他の利害関係はないため、当社からの独立性を有していると判断している。

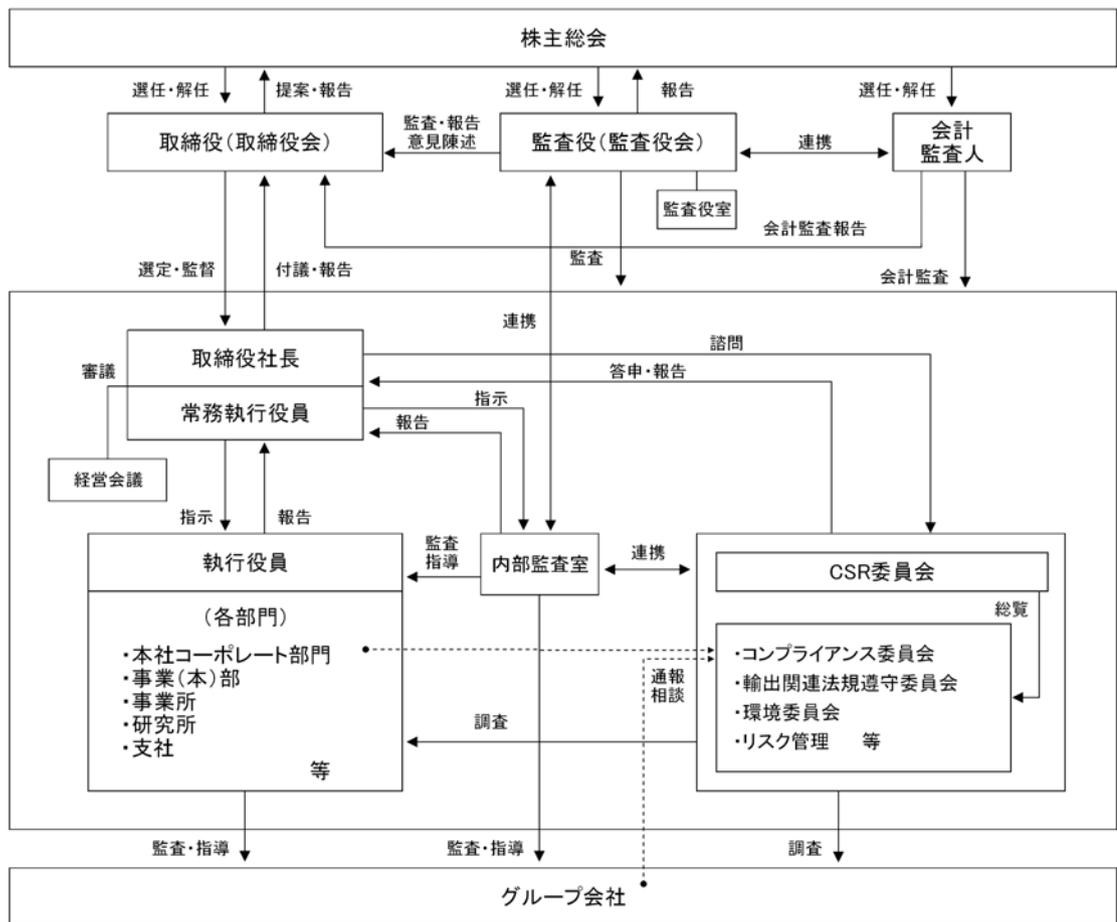
これらの社外取締役及び社外監査役はいずれも経営陣から独立した立場で、経営の監督あるいは監査を行っている。また、取締役会においてコンプライアンスやリスク管理等を含む内部統制システムの整備・運用状況及び内部監査結果の報告を受け、適宜意見を述べている。特に社外監査役は常勤監査役、内部監査部門及び会計監査人と連携を取って実効的な監査を行うとともに、定期的に取締役と意見交換を行っている。これらにより、当社は経営の健全性・適正性の確保に努めている。

なお、当社は、社外取締役及び社外監査役の各氏との間で、会社法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結している。当該契約に基づく賠償責任限度額は、金1,000万円又は同法第425条第1項に定める最低責任限度額のいずれか高い額である。

(キ) 現状の企業統治の体制を採用する理由

当社では、前記（ア）～（カ）に述べた取組みにより、経営に対する監督・監査機能の強化を十分に図ることができると判断しているため、継続して監査役会設置会社制度を採用している。

なお、当社コーポレート・ガバナンス体制についての模式図（内部統制システムの概要を含む。）は次のとおりである。



ウ. 役員の報酬等

(ア) 役員の報酬等の額

役員区分	対象となる 役員の員数 (人)	報酬等の種類別の総額 (百万円)			報酬等の総額 (百万円)
		基本報酬	業績連動型報酬	ストック オプション	
取締役 (社外取締役を除く)	20	658	184	219	1,062
監査役 (社外監査役を除く)	2	66	14	—	81
社外役員	7	76	—	—	76

- (注) 1. 員数には、当事業年度中に退任した取締役4人及び監査役1人を含み、それぞれ、役員区分「取締役(社外取締役を除く)」及び「社外役員」に記載している。
2. 業績連動型報酬には、前事業年度で報酬額として開示した額(支給見込額)と実支給額の差額を含めて記載している。
3. ストックオプションには、いわゆる株式報酬型ストックオプションとして発行した新株予約権の会計上の費用計上額を記載している。
4. 基本報酬及び業績連動型報酬に係る金銭報酬支給限度額は、取締役が一事業年度当たり1,200百万円、監査役が一事業年度当たり160百万円である(平成18年6月28日第81回定時株主総会決議)。
5. 株式報酬型ストックオプションに係る、社外取締役を除く取締役に対する一事業年度当たりの新株予約権発行価額総額の限度額は300百万円である(平成19年6月27日第82回定時株主総会決議)。
6. 退職慰労金制度は、平成18年6月28日開催の第81回定時株主総会終結の時をもって廃止している。
7. 役員区分「取締役(社外取締役を除く)」には、取締役 佃和夫氏及び取締役 大宮英明氏の報酬等各119百万円(基本報酬71百万円、業績連動型報酬21百万円、ストックオプション26百万円)を含む。なお、両氏に主要な連結子会社の役員としての報酬等はない。

(イ) 役員報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針

①取締役

取締役の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針は、取締役会で定めている。

社外取締役を除く取締役の報酬は、業績の反映及び株主との価値共有という観点から、基本報酬、業績連動型報酬及び株式報酬型ストックオプションにより構成される。

社外取締役には、社外の立場から客観的な御意見や御指摘をいただくことを期待しており、その立場に鑑み、基本報酬のみを支給している。

報酬の水準については、他社状況等も勘案した適切なものとしている。

・基本報酬

取締役の役位及び職務の内容を勘案し、相応な金額を決定している。

なお、社外取締役の報酬は、相応な固定報酬としている。

・業績連動型報酬

連結業績を踏まえ、取締役の役位及び職責に応じた貢献等も勘案して決定している。

・株式報酬型ストックオプション

当社の業績向上に対する意欲や士気をより一層高めることを目的として、取締役の役位及び職責に応じた貢献等を勘案し、都度の取締役会決議に基づき付与している。

②監査役

監査役の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針は、監査役の協議により定めている。

社外監査役を除く監査役の報酬は、基本報酬及び業績反映の観点からの業績連動型報酬により構成される。

社外監査役には、社外の立場から客観的な御意見や御指摘をいただくことを期待しており、その立場に鑑み、基本報酬のみを支給している。

報酬の水準については、他社状況等も勘案した適切なものとしている。

・基本報酬

常勤監査役及び社外監査役の職務の内容を勘案し、相応な固定報酬としている。

・業績連動型報酬

連結業績等を勘案して決定している。

エ. 取締役の定員

当社は、取締役の定員を40名以内とする旨、定款に定めている。

オ. 取締役の選任の決議要件

当社は、取締役は、株主総会において、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数によって選任する旨及び選任決議は累積投票によらない旨、定款に定めている。

カ. 自己株式の取得

当社は、経営状況・財産状況、その他の事情に応じて、機動的に自己の株式を取得することができるようにするため、会社法第165条第2項の規定に従い、取締役会の決議をもって、市場取引等により自己の株式を取得することができる旨、定款に定めている。

キ. 役員責任免除

(ア) 取締役責任免除

当社は、取締役がその職務を行うに当たり、各人の職責を十分に果たすことができるようにするため、会社法第426条第1項の規定により、同法第423条第1項の取締役（取締役であった者を含む。）の損害賠償責任を、取締役会の決議によって、法令が定める額を限度として、免除することができる旨、定款に定めている。

(イ) 監査役責任免除

当社は、監査役がその職務を行うに当たり、各人の職責を十分に果たすことができるようにするため、会社法第426条第1項の規定により、同法第423条第1項の監査役（監査役であった者を含む。）の損害賠償責任を、取締役会の決議によって、法令が定める額を限度として、免除することができる旨、定款に定めている。

ク. 中間配当金

当社は、株主への機動的な利益還元を行うため、取締役会の決議によって、毎年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録されている最終の株主又は登録株式質権者に対し、会社法第454条第5項の剰余金の配当（中間配当金）をすることができる旨、定款に定めている。

ケ. 株主総会の特別決議要件を変更した内容及びその理由

当社は、株主総会の特別決議を適時かつ円滑に行えるようにするため、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上の多数をもって行う旨、定款に定めている。

コ. 株式の保有状況

(ア) 投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額

331銘柄 171,624百万円

(イ) 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

銘柄	株式数 (千株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
ジェイ エフ イー ホールディングス(株)	4,214	15,866	鉄鋼素材等に係る取引関係の維持・強化等を目的として保有している。
関西電力(株)	5,995	12,841	原動機部門等に係る取引関係の維持・強化等を目的として保有している。
旭硝子(株)	10,227	10,769	原材料等に係る取引関係の維持・強化等を目的として保有している。
東海旅客鉄道(株)	15	10,554	機械・鉄構部門等に係る取引関係の維持・強化等を目的として保有している。
(株)ニコン	4,828	9,853	中量産品部門等に係る取引関係の維持・強化等を目的として保有している。
九州電力(株)	3,975	8,089	原動機部門等に係る取引関係の維持・強化等を目的として保有している。
新日本製鐵(株)	15,576	5,716	鉄鋼素材等に係る取引関係の維持・強化等を目的として保有している。
(株)日本製鋼所	5,031	5,388	鋳鍛鋼品等に係る取引関係の維持・強化等を目的として保有している。
三菱マテリアル(株)	19,210	5,167	特殊合金等に係る取引関係の維持・強化等を目的として保有している。
東レ(株)	8,141	4,444	複合材等に係る取引関係の維持・強化等を目的として保有している。
スズキ(株)	2,038	4,203	中量産品部門等に係る取引関係の維持・強化等を目的として保有している。
東日本旅客鉄道(株)	645	4,192	機械・鉄構部門等に係る取引関係の維持・強化等を目的として保有している。
中部電力(株)	1,724	4,029	原動機部門等に係る取引関係の維持・強化等を目的として保有している。
新日本石油(株)	6,688	3,150	石油製品等に係る取引関係の維持・強化等を目的として保有している。
(株)商船三井	4,118	2,763	船舶・海洋部門等に係る取引関係の維持・強化等を目的として保有している。
日本原燃(株)	267	2,666	原動機部門等に係る取引関係の維持・強化等を目的として保有している。

(2) 【監査報酬の内容等】

① 【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	186	3	185	10
連結子会社	132	—	99	—
計	319	3	284	10

② 【その他重要な報酬の内容】

前連結会計年度において、当社の在外子会社17社は、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているErnst & Youngグループに対し監査証明業務及びその他の業務を委嘱しており、前連結会計年度におけるこれらの業務に対する報酬の合計額は479百万円である。

当連結会計年度において、当社の在外子会社24社は、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているErnst & Youngグループに対し監査証明業務及びその他の業務を委嘱しており、当連結会計年度におけるこれらの業務に対する報酬の合計額は442百万円である。

③ 【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

前連結会計年度における当社の監査公認会計士等に対する非監査業務の内容は、財務報告に係る内部統制の整備に関する助言業務その他の業務である。

当連結会計年度における当社の監査公認会計士等に対する非監査業務の内容は、国際財務報告基準の適用検討に係る助言業務その他の業務である。

④ 【監査報酬の決定方針】

当社の監査公認会計士等に対する監査報酬については、その決定方針に関しての特段の規程は定めていないが、監査計画に基づき監査日数及び監査単価の妥当性を検証し、監査役会の同意を得て決定している。

第5【経理の状況】

1. 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成している。
なお、前連結会計年度（平成20年4月1日から平成21年3月31日まで）は、改正前の連結財務諸表規則に基づき、当連結会計年度（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）は、改正後の連結財務諸表規則に基づいて作成している。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）に基づいて作成している。
なお、前事業年度（平成20年4月1日から平成21年3月31日まで）は、改正前の財務諸表等規則に基づき、当事業年度（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）は、改正後の財務諸表等規則に基づいて作成している。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前連結会計年度（平成20年4月1日から平成21年3月31日まで）及び当連結会計年度（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）の連結財務諸表並びに前事業年度（平成20年4月1日から平成21年3月31日まで）及び当事業年度（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）の財務諸表について、新日本有限責任監査法人による監査を受けている。

3. 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っている。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、又は会計基準等の変更等についての的確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、また、同機構や監査法人等の行うセミナーに参加している。

1 【連結財務諸表等】
 (1) 【連結財務諸表】
 ① 【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成21年3月31日)	当連結会計年度 (平成22年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	注3 435,038	注3 274,061
受取手形及び売掛金	注5 1,082,569	注3, 注5 948,200
有価証券	3,010	9
商品及び製品	170,754	171,699
仕掛品	959,138	注6 937,740
原材料及び貯蔵品	138,724	130,622
繰延税金資産	136,341	142,720
その他	245,100	注3 230,490
貸倒引当金	△5,617	△8,881
流動資産合計	3,165,059	2,826,662
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	331,063	344,601
機械装置及び運搬具（純額）	282,371	277,390
工具、器具及び備品（純額）	65,916	49,527
土地	157,986	163,784
リース資産（純額）	3,044	5,871
建設仮勘定	51,966	55,176
有形固定資産合計	注1, 注3 892,347	注1, 注3 896,350
無形固定資産	30,991	注3 29,149
投資その他の資産		
投資有価証券	注2 274,195	注2 342,480
長期貸付金	2,505	3,597
繰延税金資産	9,372	9,367
その他	注2 162,274	注2 164,917
貸倒引当金	△10,533	△9,665
投資その他の資産合計	437,814	510,697
固定資産合計	1,361,153	1,436,197
資産合計	4,526,213	4,262,859

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成21年3月31日)	当連結会計年度 (平成22年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	699,648	646,538
短期借入金	注3 248,734	注3 117,679
1年内返済予定の長期借入金	注3 108,267	注3 109,539
コマーシャル・ペーパー	115,000	6,000
1年内償還予定の社債	20,300	20,000
製品保証引当金	23,872	28,636
受注工事損失引当金	37,911	注6 24,490
係争関連損失引当金	23,300	13,941
前受金	479,004	389,041
その他	238,853	199,928
流動負債合計	1,994,892	1,555,796
固定負債		
社債	264,601	344,605
長期借入金	注3 855,956	注3 897,501
繰延税金負債	7,519	17,886
退職給付引当金	50,776	48,542
PCB廃棄物処理費用引当金	4,293	7,358
その他	64,921	62,396
固定負債合計	1,248,068	1,378,290
負債合計	3,242,961	2,934,087
純資産の部		
株主資本		
資本金	265,608	265,608
資本剰余金	203,928	203,938
利益剰余金	788,948	800,199
自己株式	△5,041	△5,025
株主資本合計	1,253,443	1,264,721
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	17,313	35,942
繰延ヘッジ損益	323	△721
為替換算調整勘定	△29,482	△21,894
評価・換算差額等合計	△11,845	13,327
新株予約権	881	1,184
少数株主持分	40,772	49,540
純資産合計	1,283,251	1,328,772
負債純資産合計	4,526,213	4,262,859

②【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	
売上高		3,375,674		2,940,887
売上原価	注2	2,945,340	注1, 注2	2,537,257
売上総利益		430,334		403,629
販売費及び一般管理費				
貸倒引当金繰入額		2,286		7,223
役員報酬及び給料手当		121,494		123,188
研究開発費	注3	54,868	注3	61,125
引合費用		23,402		28,162
その他		122,423		118,267
販売費及び一般管理費合計		324,475		337,968
営業利益		105,859		65,660
営業外収益				
受取利息		5,575		3,652
受取配当金		8,617		3,305
為替差益		1,230		—
その他		2,584		5,678
営業外収益合計		18,008		12,636
営業外費用				
支払利息		20,224		22,632
持分法による投資損失		9,006		2,074
為替差損		—		419
固定資産除却損		7,080		6,279
その他		12,248		22,882
営業外費用合計		48,561		54,288
経常利益		75,306		24,009
特別利益				
固定資産売却益	注4	3,932	注4	10,086
投資有価証券売却益		14,286		5,063
退職給付制度改定益		—		4,950
退職給付信託設定益		36,104		—
特別利益合計		54,323		20,100
特別損失				
事業構造改善費用	注6	10,434	注6, 注7	15,972
棚卸資産会計基準の適用に伴う影響額	注2	33,436		—
係争関連損失	注5	20,835		—
特別損失合計		64,705		15,972
税金等調整前当期純利益		64,923		28,137
法人税、住民税及び事業税		54,206		26,146
法人税等調整額		△13,144		△7,920
法人税等合計		41,061		18,226
少数株主損失(△)		△355		△4,252
当期純利益		24,217		14,163

③【連結株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	
株主資本				
資本金				
前期末残高		265,608		265,608
当期末残高		265,608		265,608
資本剰余金				
前期末残高		203,893		203,928
当期変動額				
自己株式の処分		34		10
当期変動額合計		34		10
当期末残高		203,928		203,938
利益剰余金				
前期末残高		787,007		788,948
在外子会社の会計処理の変更に伴う増減	注2	△2,142		—
当期変動額				
剰余金の配当		△20,137		△16,781
当期純利益		24,217		14,163
連結範囲の変動		—		△0
持分法の適用範囲の変動	注1	3		884
組織再編等持分変動差額		—		12,984
当期変動額合計		4,083		11,250
当期末残高		788,948		800,199
自己株式				
前期末残高		△5,045		△5,041
当期変動額				
持分法の適用範囲の変動		—		△1
自己株式の取得		△72		△21
自己株式の処分		76		38
当期変動額合計		3		16
当期末残高		△5,041		△5,025
株主資本合計				
前期末残高		1,251,464		1,253,443
在外子会社の会計処理の変更に伴う増減	注2	△2,142		—
当期変動額				
剰余金の配当		△20,137		△16,781
当期純利益		24,217		14,163
連結範囲の変動		—		△0
持分法の適用範囲の変動	注1	3		882
組織再編等持分変動差額		—		12,984
自己株式の取得		△72		△21
自己株式の処分		111		49
当期変動額合計		4,121		11,277
当期末残高		1,253,443		1,264,721

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
前期末残高	157,546	17,313
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△140,232	18,629
当期変動額合計	△140,232	18,629
当期末残高	17,313	35,942
繰延ヘッジ損益		
前期末残高	7,346	323
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△7,022	△1,045
当期変動額合計	△7,022	△1,045
当期末残高	323	△721
為替換算調整勘定		
前期末残高	3,847	△29,482
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△33,329	7,588
当期変動額合計	△33,329	7,588
当期末残高	△29,482	△21,894
評価・換算差額等合計		
前期末残高	168,739	△11,845
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△180,585	25,172
当期変動額合計	△180,585	25,172
当期末残高	△11,845	13,327
新株予約権		
前期末残高	549	881
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	332	303
当期変動額合計	332	303
当期末残高	881	1,184
少数株主持分		
前期末残高	19,676	40,772
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	21,095	8,767
当期変動額合計	21,095	8,767
当期末残高	40,772	49,540

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
純資産合計		
前期末残高	1,440,429	1,283,251
在外子会社の会計処理の変更に伴う増減	注2 △2,142	—
当期変動額		
剰余金の配当	△20,137	△16,781
当期純利益	24,217	14,163
連結範囲の変動	—	△0
持分法の適用範囲の変動	注1 3	882
組織再編等持分変動差額	—	12,984
自己株式の取得	△72	△21
自己株式の処分	111	49
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△159,157	34,243
当期変動額合計	△155,035	45,521
当期末残高	1,283,251	1,328,772

【連結株主資本等変動計算書の欄外注記】

前連結会計年度（自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日）

- （注） 1. 当社の持分法適用関連会社において、連結子会社が増加したことに伴う利益剰余金の増加があり、この増加額の当社持分相当額である。
2. このうち、△2,111百万円は、当社の持分法適用関連会社において、在外子会社の会計処理の変更に伴う利益剰余金の減少があり、この減少額の当社持分相当額である。

当連結会計年度（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）

該当事項なし。

④【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	
営業活動によるキャッシュ・フロー				
税金等調整前当期純利益		64,923		28,137
減価償却費		152,989		138,045
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	注2	△38,827		△665
受取利息及び受取配当金		△14,193		△6,957
支払利息		20,224		22,632
持分法による投資損益 (△は益)		9,006		2,074
投資有価証券売却損益 (△は益)		△14,286		△5,063
固定資産売却損益 (△は益)		△3,932		△10,086
固定資産除却損		7,080		6,279
係争関連損失		20,835		—
事業構造改善費用		10,434		15,972
退職給付信託設定に伴う投資有価証券の減少額	注2	71,735		—
売上債権の増減額 (△は増加)		△41,289		136,737
たな卸資産及び前渡金の増減額 (△は増加)		△149,996		40,913
その他の資産の増減額 (△は増加)		△40,010		△2,519
仕入債務の増減額 (△は減少)		305		△55,822
前受金の増減額 (△は減少)		26,492		△91,386
その他の負債の増減額 (△は減少)		77,159		△49,177
その他		△1,397		1,139
小計		157,255		170,253
利息及び配当金の受取額		18,644		8,326
利息の支払額		△19,863		△22,105
法人税等の支払額		△76,503		△38,497
営業活動によるキャッシュ・フロー		79,533		117,977
投資活動によるキャッシュ・フロー				
定期預金の増減額 (△は増加)		3,029		△607
有価証券の取得による支出		△245		—
有価証券の売却及び償還による収入		555		—
有形及び無形固定資産の取得による支出		△182,273		△183,304
有形及び無形固定資産の売却による収入		6,363		30,657
投資有価証券の取得による支出		△41,068		△38,841
投資有価証券の売却及び償還による収入		53,541		8,084
貸付けによる支出		△1,615		△15,820
貸付金の回収による収入		5,038		19,337
その他		80		△208
投資活動によるキャッシュ・フロー		△156,593		△180,704

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金及びコマーシャル・ペーパーの増減額 (△は減少)	134,936	△241,103
長期借入れによる収入	249,621	182,705
長期借入金の返済による支出	△84,925	△120,038
社債の発行による収入	—	100,000
社債の償還による支出	△40,300	△20,350
少数株主からの払込みによる収入	23,533	13,873
配当金の支払額	△20,083	△16,698
少数株主への配当金の支払額	△501	△819
その他	△279	△2,860
財務活動によるキャッシュ・フロー	262,002	△105,291
現金及び現金同等物に係る換算差額	△23,388	3,478
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	161,554	△164,539
現金及び現金同等物の期首残高	262,852	425,913
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	1,506	—
現金及び現金同等物の期末残高	注1 425,913	注1 261,373

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項】

<p>前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)</p>	<p>当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)</p>
<p>1. 連結の範囲に関する事項</p> <p>(1) 連結子会社数 230社 新規設立により、ダイヤシュタイン(株)、Lumiotec(株)、PT.MPS Indonesia, Mitsubishi Aircraft Corporation America, Inc., Mitsubishi Heavy Industries Air-conditioners Australia, Pty. Ltd., MHI Nuclear North America, Inc., Crystal Mover Services, Inc., 菱重増圧器科技(上海)有限公司, MHI Forklift(Dalian)Co.,Ltd.(菱重叉車製造(大連)有限公司)の9社を連結の範囲に含め、株式公開買付け(TOB)による追加取得及び第三者割当増資の引受け等により持分比率がそれぞれ50%超となったRocla Oyj及びThai Compressor Manufacturing Co.,Ltd.を持分法適用の関連会社から連結子会社に変更し、これに伴いRocla Oyjの連結子会社であるRocla AB, Rocla A/S, Rocla Rent A/S, Rocla Danmark A/S, 000 Rocla Rus, Rocla Eesti Oü, Kiinteistö Oy Roclankuja 1の7社を連結の範囲に含めている。 また、合併による解散に伴い、三菱重工ガスタービンサービス(株)を、株式売却によりMHI-Duro Felguera, S.A.を、清算終了により(株)アイセックを連結の範囲から除外している。</p> <p>(2) 非連結子会社数 14社 非連結子会社は、それら全体の資産、売上高及び利益の規模等からみて連結の範囲から除いても、連結財務諸表に重要な影響を及ぼさないで連結の範囲から除外している。</p>	<p>1. 連結の範囲に関する事項</p> <p>(1) 連結子会社数 237社 新規設立により、MCNF S.A.S., Mitsubishi-Hitachi Metals Machinery South Asia Private Ltd., Diamond Solar Devnya AD, Maintenance Partners Morocco SARL, 三菱重工業(中国)有限公司, 常熟菱重機械有限公司の6社を、株式の取得によりMaintenance Partners NV及び同社の連結子会社であるMaintenance Partners Belgium NV, Maintenance Partners Wallonie SA, Reliability Partners NV, Maintenance Partners The Netherlands B.V., Eric Spoor Consultants B.V., Electromotorenfabriek Zuid-Nederland B.V., Maintenance Partners Bobinaj Sanayi Ve Ticaret Anonim Sirketi, Maintenance Partners for Machinery LLC.の9社を、連結の範囲に含めている。 また、日本輸送機(株)からの吸収分割に伴い持分比率が50%以下となったニチユMH I フォークリフト(株)(旧 三菱重工フォークリフト販売(株))を連結子会社から持分法適用の関連会社に変更し、合併による解散に伴い、コンピュータソフト開発(株)、新型炉技術開発(株)、三菱技術サービスエンジニアリング(株)、三菱重工地中建機(株)、菱和エンジニアリング(株)、MHI Service Vietnam Co.,Ltd.の6社を、清算終了によりMHI Climate Control Mexico, S.A. De C.V.を、連結の範囲から除外している。 (注) 主要な連結子会社名は「第1 企業の概況」の「4. 関係会社の状況」を参照。</p> <p>(2) 非連結子会社数 14社 非連結子会社は、それら全体の資産、売上高及び利益の規模等からみて連結の範囲から除いても、連結財務諸表に重要な影響を及ぼさないで連結の範囲から除外している。 (注) 非連結子会社名は本表の(注1)を参照。</p>
<p>2. 持分法の適用に関する事項</p> <p>(1) 持分法適用の非連結子会社数 4社 清算により、Rapid Parts Europe B.V.を持分法の適用範囲から除外している。</p>	<p>2. 持分法の適用に関する事項</p> <p>(1) 持分法適用の非連結子会社数 3社 清算終了により、ダイヤ機械(株)を持分法の適用範囲から除外している。 (注) 持分法適用の非連結子会社名は本表の(注1)を参照。</p>

<p style="text-align: center;">前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)</p>	<p style="text-align: center;">当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)</p>
<p>(2) 持分法適用の関連会社数 31社 株式の取得により、Nichidai(Thailand)Ltd. を持分法適用の関連会社とし、株式公開買付け(TOB)による追加取得及び第三者割当増資の引受け等により持分比率がそれぞれ50%超となった Rocla Oyj及び Thai Compressor Manufacturing Co.,Ltd. を持分法適用の関連会社から連結子会社に変更している。</p> <p>(3) 持分法を適用していない非連結子会社及び関連会社数 (ア)非連結子会社数 10社 (イ)関連会社数 40社 これらの関係会社については、持分法の適用による投資勘定の増減額が連結財務諸表に及ぼす影響が僅少であるので持分法を適用していない。</p>	<p>(2) 持分法適用の関連会社数 34社 新規設立により、AlfaRoc Oy, EGAT Diamond Service Co.,Ltd. の2社を持分法適用の関連会社を含め、株式の追加取得により(株菱友システムズ)を持分法非適用の関連会社から持分法適用の関連会社に変更している。 また、日本輸送機(株)からの吸収分割に伴い持分比率が50%以下となったニチユMH I フォークリフト(株) (旧 三菱重工フォークリフト販売(株)) を連結子会社から持分法適用の関連会社に変更し、清算終了によりERENA LLC. を持分法適用の関連会社から除外している。 (注) 持分法適用の関連会社名は本表の(注2)を参照。</p> <p>(3) 持分法を適用していない非連結子会社及び関連会社数 (ア)非連結子会社数 11社 (イ)関連会社数 38社 これらの関係会社については、持分法の適用による投資勘定の増減額が連結財務諸表に及ぼす影響が僅少であるので持分法を適用していない。 (注) 持分法を適用していない非連結子会社及び関連会社名は各々本表の(注1)及び(注2)を参照。</p>
<p>3. 連結子会社の事業年度に関する事項 MHI Equipment Europe B.V. など海外95社の決算日は12月末日としている。</p>	<p>3. 連結子会社の事業年度に関する事項 MHI Equipment Europe B.V. など海外107社の決算日は12月末日としている。</p>
<p>4. 会計処理基準に関する事項 (1) 重要な資産の評価基準及び評価方法 ①有価証券 その他有価証券 時価のあるもの …決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定) 時価のないもの …移動平均法による原価法 ②たな卸資産 商品及び製品 …主として移動平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法) 仕掛品 …主として個別法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法) 原材料及び貯蔵品 …主として移動平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)</p>	<p>4. 会計処理基準に関する事項 (1) 重要な資産の評価基準及び評価方法 ①有価証券 その他有価証券 時価のあるもの 同左 時価のないもの 同左 ②たな卸資産 商品及び製品 同左 仕掛品 同左 原材料及び貯蔵品 同左</p>

<p style="text-align: center;">前連結会計年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)</p>	<p style="text-align: center;">当連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)</p>
<p>(会計方針の変更)</p> <p>当連結会計年度から、「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号(平成18年7月5日公表分 企業会計基準委員会))を適用している。</p> <p>これに伴う当連結会計年度末での簿価切下額は53,932百万円であり、期首時点での簿価切下額33,436百万円を「棚卸資産会計基準の適用に伴う影響額」として特別損失に計上している。</p> <p>この結果、営業利益及び経常利益は20,496百万円減少し、税金等調整前当期純利益は53,932百万円減少している。</p> <p>なお、セグメント情報に与える影響は(セグメント情報)に記載している。</p> <p>(2) 固定資産の減価償却の方法</p> <p>①有形固定資産(リース資産を除く)</p> <p>減価償却の方法は、建物(建物附属設備を除く)は主として定額法、建物以外は主として定率法によっており、耐用年数、残存価額及び償却限度額については、主として法人税法に定める基準と同一の基準を採用している。</p> <p>(追加情報)</p> <p>当社及び国内連結子会社の機械装置について、平成20年度税制改正を機に実態に即して資産区分及び耐用年数を見直している。</p> <p>これに伴い、営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益はそれぞれ5,361百万円減少している。</p> <p>なお、セグメント情報に与える影響は(セグメント情報)に記載している。</p> <p>②無形固定資産(リース資産を除く)</p> <p>減価償却の方法は定額法によっており、耐用年数、残存価額及び償却限度額については、主として法人税法に定める基準と同一の基準を採用している。</p> <p>なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっている。</p> <p>③リース資産</p> <p>リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用している。</p> <p>なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっている。</p>	<p style="text-align: center;">—————</p> <p>(2) 固定資産の減価償却の方法</p> <p>①有形固定資産(リース資産を除く)</p> <p style="padding-left: 2em;">同左</p> <p style="text-align: center;">—————</p> <p>②無形固定資産(リース資産を除く)</p> <p style="padding-left: 2em;">同左</p> <p>③リース資産</p> <p style="padding-left: 2em;">同左</p>

<p style="text-align: center;">前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)</p>	<p style="text-align: center;">当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)</p>
<p>(3) 繰延資産の処理方法 繰延資産項目としては株式交付費、創立費、開業費及び開業費があり、支出時に全額費用として処理している。</p> <p>(4) 引当金の計上基準</p> <p>①貸倒引当金 金銭債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については主として貸倒実績率により計上し、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し回収不能見込額を計上している。</p> <p>②製品保証引当金 工事引渡後の製品保証費用の支出に備えるため、過去の実績を基礎に将来の製品保証費用を見積り、計上している。</p> <p>③受注工事損失引当金 受注工事の損失に備えるため、未引渡工事のうち当連結会計年度末で損失が確定視され、かつ、その金額を合理的に見積ることができる工事について、翌連結会計年度以降に発生が見込まれる損失を引当計上している。 なお、受注工事損失引当金の計上対象案件のうち、当連結会計年度末の仕掛品残高が当連結会計年度末の未引渡工事の契約残高を既に上回っている工事については、その上回った金額は仕掛品の評価損として計上しており、受注工事損失引当金には含めていない。</p> <p>④係争関連損失引当金 係争案件の損害賠償等の支出に備えるため、損害賠償等の見積額を計上している。</p> <p>⑤退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産（退職給付信託を含む）の見込額に基づき計上している。 過去勤務債務は、一括費用処理又はその発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により費用処理することとしている。数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理することとしている。</p> <p>(追加情報) 当連結会計年度において、当社は帳簿価額71,735百万円の投資有価証券を退職給付信託として107,840百万円抛出し、これに伴う退職給付信託設定益36,104百万円を特別利益に計上している。</p>	<p>(3) 繰延資産の処理方法 繰延資産項目としては株式交付費、社債発行費、創立費、開業費及び開業費があり、支出時に全額費用として処理している。</p> <p>(4) 引当金の計上基準</p> <p>①貸倒引当金 同左</p> <p>②製品保証引当金 同左</p> <p>③受注工事損失引当金 同左</p> <p>④係争関連損失引当金 同左</p> <p>⑤退職給付引当金 同左</p> <p>(追加情報) 当連結会計年度において、当社は退職年金制度の改定（退職給付付加利率の引下げ）を行った。 これに伴う退職給付債務の減少額4,950百万円は当連結会計年度に一括処理し、退職給付制度改定益として特別利益に計上している。</p>

<p style="text-align: center;">前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)</p>	<p style="text-align: center;">当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)</p>
<p>⑥PCB廃棄物処理費用引当金 PCB（ポリ塩化ビフェニル）廃棄物の処理費用の支出に備えるため、処理費用及び収集運搬費用の見積額を計上している。</p> <p>(5) 重要な収益及び費用の計上基準 売上高は、原則として引渡しを完了した連結会計年度に計上しているが、工期2年以上かつ請負金額50億円以上の長期請負工事については工事進行基準により計上している。</p>	<p>⑥PCB廃棄物処理費用引当金 同左</p> <p>(5) 重要な収益及び費用の計上基準 ①工事契約に係る収益及び費用の計上基準 (ア)当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事 …工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法） (イ)その他の工事 …工事完成基準 (会計方針の変更) 請負工事に係る収益の計上基準については、従来、工期2年以上かつ請負金額50億円以上の長期請負工事については工事進行基準を、その他の工事については工事完成基準を適用していたが、当連結会計年度から、「工事契約に関する会計基準」（企業会計基準第15号(平成19年12月27日企業会計基準委員会)）及び「工事契約に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第18号(平成19年12月27日企業会計基準委員会)）を適用し、当連結会計年度に着手した工事契約から、当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）を、その他の工事については工事完成基準を適用している。 これに伴い、売上高は12,058百万円増加し、営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益は、それぞれ2,705百万円増加している。 なお、セグメント情報に与える影響は（セグメント情報）に記載している。</p>

<p style="text-align: center;">前連結会計年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)</p>	<p style="text-align: center;">当連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)</p>
<p>(6) ヘッジ会計の方法</p> <p>①ヘッジ会計の方法 主として繰延ヘッジ処理を採用している。なお、為替予約等が付されている外貨建金銭債権債務等（見込生産品に対し包括予約を締結している場合を除く）については、振当処理を採用しており、特例処理の要件を満たしている金利スワップについては特例処理を採用している。</p> <p>②ヘッジ手段とヘッジ対象 外貨建金銭債権債務等（予定取引を含む）に対するヘッジ手段として、主として為替予約取引を、また主として借入金に対するヘッジ手段として金利スワップ取引を利用している。</p> <p>③ヘッジ方針 主として内部管理規程に基づき、通常行う取引に係る為替変動リスク及び金利変動リスクを回避すること等を目的に、実需の範囲内で行うこととしている。</p> <p>④ヘッジ有効性評価の方法 ヘッジ手段の変動額の累計とヘッジ対象の変動額の累計とを比較して有効性を判定している。 なお、為替予約取引については、原則としてヘッジ手段は、ヘッジ対象と元本、通貨、時期等の条件が同一の取引を締結することにより有効性は保証されている。また、振当処理によっている為替予約及び、特例処理によっている金利スワップについては、有効性の評価を省略している。</p> <p>(7) その他</p> <p>①消費税等の会計処理方法 消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっている。</p> <p>②連結納税制度の適用 連結納税制度を適用している。</p>	<p>(6) ヘッジ会計の方法</p> <p>①ヘッジ会計の方法 同左</p> <p>②ヘッジ手段とヘッジ対象 同左</p> <p>③ヘッジ方針 同左</p> <p>④ヘッジ有効性評価の方法 同左</p> <p>(7) その他</p> <p>①消費税等の会計処理方法 同左</p> <p>②連結納税制度の適用 同左</p>
<p>5. 連結子会社の資産及び負債の評価に関する事項 連結子会社の資産及び負債の評価については、全面時価評価法を採用している。</p>	<p>5. 連結子会社の資産及び負債の評価に関する事項 同左</p>
<p>6. のれん及び負ののれんの償却に関する事項 のれん及び負ののれんは、個々の投資の実態に合わせ、20年以内の投資回収見込年数で原則として均等償却している。</p>	<p>6. のれん及び負ののれんの償却に関する事項 同左</p>
<p>7. 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲 連結キャッシュ・フロー計算書における資金（現金及び現金同等物）は手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなる。</p>	<p>7. 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲 同左</p>

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更】

<p>前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)</p>	<p>当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)</p>
<p>(連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い) 当連結会計年度から、「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」(実務対応報告第18号(平成18年5月17日企業会計基準委員会))を適用し、連結決算上必要な修正を行っている。 これに伴い、期首の利益剰余金が30百万円減少している。 また、営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益に与える影響は軽微である。</p> <p>(リース取引に関する会計基準) 所有権移転外ファイナンス・リース取引については、従来、賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっていたが、当連結会計年度から「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号(平成5年6月17日企業会計審議会第一部会)、平成19年3月30日改正)及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第16号(平成6年1月18日日本公認会計士協会 会計制度委員会)、平成19年3月30日改正)を適用し、通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理によっている。 なお、リース取引開始日が適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、引き続き通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を適用している。 これによる営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益に与える影響は軽微である。</p>	<p>—————</p> <p>—————</p>

【表示方法の変更】

<p>前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)</p>	<p>当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)</p>
<p>(連結貸借対照表関係)</p> <p>「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」（平成20年8月7日内閣府令第50号）が適用となることに伴い、前連結会計年度において、「たな卸資産」として掲記されていたものは、当連結会計年度から「商品及び製品」、「仕掛品」、「原材料及び貯蔵品」として区分掲記している。</p> <p>なお、前連結会計年度の「たな卸資産」に含まれる「商品及び製品」、「仕掛品」、「原材料及び貯蔵品」は、それぞれ147,070百万円、889,473百万円、128,309百万円である。</p>	<p>—————</p>

(注1) 非連結子会社 (14社)

(持分法適用の非連結子会社)

1. 垂水ゴルフ(株)	2. 菱陽エンジニアリング(株)	3. TES Philippines, Inc.
-------------	------------------	--------------------------

(持分法非適用の非連結子会社)

1. 東日本三菱農機販売(株)	5. (株)ダイヤキコウ	9. (有)ゼネラルエンジニアリング
2. 西日本三菱農機販売(株)	6. (株)ダイヤコンピュータサービス	10. (有)ダイヤスタッフ
3. 菱農エンジニアリング(株)	7. オカネツ工業(株)	11. MHI Nuclear Fuel, Inc.
4. 菱農興産(株)	8. (株)MAMレンタル	

(注2) 関連会社 (72社)

(持分法適用の関連会社)

1. 三菱自動車工業(株)	13. 三菱原子燃料(株)	25. Saudi Factory for Electrical Appliances Co., Ltd.
2. キャタピラージャパン(株)	14. 民間航空機(株)	26. L&T-MHI Boilers Private Ltd.
3. 日本輸送機(株)	15. (株)菱熱	27. L&T-MHI Turbine Generators Private Ltd.
4. (株)東洋製作所	16. (株)菱友システム技術	28. ATMEA
5. 神戸発動機(株)	17. ニチュMH I フォークリフト(株)	29. 常州宝菱重工機械有限公司
6. (株)菱友システムズ	18. 西海エンジニアリングサービス(株)	30. 南京天菱能源技術有限公司
7. 甲南空調(株)	19. 田町センタービル管理(株)	31. Nichidai (Thailand) Ltd.
8. 再処理機器(株)	20. (株)ひむかエコサービス	32. AlfaRoc Oy
9. 新菱冷熱工業(株)	21. 上海菱重増圧器有限公司	33. Advatech, LLC.
10. 瀬尾高圧工業(株)	22. EGAT Diamond Service Co., Ltd.	34. Panda ShinCo Holding B.V. (青島齊耀瓦錫蘭菱重麟山船用柴油机有限公司)
11. 日本建設工業(株)	23. Cormetech, Inc.	
12. 日本鑄鍛鋼(株)	24. P.T.Power Systems Service Indonesia	

(持分法非適用の関連会社)

1. (株)アサテック	14. ハイウェイトールシステム(株)	27. (株)ハセックギア
2. (株)エアロテクノサービス	15. 民間航空技術サービス(株)	28. (株)エム・アイ・シー・シー
3. エム・エル・ピー(株)	16. 震動実験総合エンジニアリング(株)	29. 大阪エアコン(株)
4. 金川造船(株)	17. T S K(株)	30. 横浜関内駅前ビル(株)
5. (株)九州スチールセンター	18. 会津菱農(株)	31. (株)バイオマスパワーしずくいし
6. クリーン神戸リサイクル(株)	19. 茨城菱農(株)	32. 柏菱エンジニアリング(株)
7. 高速炉エンジニアリング(株)	20. 香川三菱農機販売(株)	33. (株)中田製作所
8. セントラルコンサルタント(株)	21. 北岩手菱農(株)	34. 張家港南菱城鋼結構有限公司
9. (株)ダイセック	22. 寿農機(株)	35. 北京首旅普蘭德洗滌有限公司
10. ダイヤ冷暖工業(株)	23. 滋賀三菱農機販売(株)	36. Next Generation Steam Turbines, LLC.
11. 長菱ハイテック(株)	24. 常磐菱農(株)	37. Hermi Ingenieria S.A. de C.V.
12. (株)寺田鉄工所	25. 福菱機器販売(株)	38. 北京菱重印刷機械技術服務公司
13. (株)東北機械製作所	26. (株)本多製作所	

【注記事項】

(連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 (平成21年3月31日)	当連結会計年度 (平成22年3月31日)
<p>1. 有形固定資産減価償却累計額</p> <p style="text-align: right;">1,636,727百万円</p>	<p>1. 有形固定資産減価償却累計額</p> <p style="text-align: right;">1,673,488百万円</p>
<p>2. 非連結子会社及び関連会社の株式等</p> <p>(1) 株式 121,900百万円 (「投資有価証券」に含む)</p> <p>(2) 出資金 225 (「その他」に含む)</p>	<p>2. 非連結子会社及び関連会社の株式等</p> <p>(1) 株式 134,698百万円 (「投資有価証券」に含む)</p> <p>(2) 出資金 100 (「その他」に含む)</p>
<p>3. 担保に供している資産及び担保に係る債務</p> <p>(1) 担保に供している資産</p> <p>有形固定資産 23,787百万円 その他 283</p> <hr/> <p>計 24,070</p> <p>(2) 担保に係る債務</p> <p>短期借入金 10,065百万円 長期借入金 8,764</p> <hr/> <p>計 18,830</p>	<p>3. 担保に供している資産及び担保に係る債務</p> <p>(1) 担保に供している資産</p> <p>有形固定資産 15,404百万円 受取手形及び売掛金 1,183 その他 306</p> <hr/> <p>計 16,894</p> <p>(2) 担保に係る債務</p> <p>短期借入金 10,101百万円 長期借入金 8,090</p> <hr/> <p>計 18,191</p>
<p>4. 偶発債務</p> <p>連結会社以外の会社の金融機関からの借入金等に対する保証債務</p> <p>社員(住宅資金等借入) 49,692百万円 広東省珠海発電廠有限公司 18,954 当社製印刷機械の購入者 12,907 その他 13,052</p> <hr/> <p>計 94,606</p>	<p>4. 偶発債務</p> <p>連結会社以外の会社の金融機関からの借入金等に対する保証債務</p> <p>社員(住宅資金等借入) 44,060百万円 広東省珠海発電廠有限公司 12,740 当社製印刷機械の購入者 12,587 L&T-MHI Boilers Private Ltd. 5,410 その他 14,415</p> <hr/> <p>計 89,214</p>
<p>5. 手形割引高及び裏書譲渡高</p> <p>受取手形割引高 304百万円 受取手形裏書譲渡高 1,026</p>	<p>5. 手形割引高及び裏書譲渡高</p> <p>受取手形割引高 332百万円 受取手形裏書譲渡高 127</p>
<p>6. _____</p>	<p>6. 損失が確実視される受注工事に係る仕掛品と受注工事損失引当金は、相殺せずに両建てで表示している。損失が確実視される受注工事に係る仕掛品のうち、受注工事損失引当金に対応する額は10,755百万円である。</p>

(連結損益計算書関係)

前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
1. _____	1. 売上原価に含まれている受注工事損失引当金繰入額 26,324百万円
2. たな卸資産の収益性低下による簿価切下額 売上原価に含まれているたな卸資産の収益性低下による簿価切下額は20,496百万円である。 なお、当連結会計年度から「棚卸資産の評価に関する会計基準」を適用し、期首時点での簿価切下額33,436百万円を「棚卸資産会計基準の適用に伴う影響額」として特別損失に計上しており、当連結会計年度末での簿価切下額の総額は53,932百万円である。	2. たな卸資産の収益性低下による簿価切下額 売上原価に含まれているたな卸資産の収益性低下による簿価切下額は6,402百万円である。
3. 研究開発費の総額 54,868百万円 (当期製造費用に含まれている研究開発費はない。)	3. 研究開発費の総額 61,125百万円 (当期製造費用に含まれている研究開発費はない。)
4. 固定資産売却益 固定資産売却益の内訳は次のとおりである。 土地 3,457百万円 その他 474 <hr/> 計 3,932	4. 固定資産売却益 固定資産売却益の内訳は次のとおりである。 土地 10,148百万円 その他 △62 <hr/> 計 10,086
5. 係争関連損失 係争関連損失は、ごみ焼却施設建設工事等の独占禁止法違反被疑事件について、同事件に関連して発生した損害賠償請求訴訟等に係る損失見積額及び同事件で違反行為があったと認められた場合における課徴金相当額等を計上したものである。	5. _____
6. 事業構造改善費用 事業構造改善費用は中量製品セグメント、原動機セグメント等に係るものであり、内訳は次のとおりである。 関係会社再編関連費用 7,883百万円 生産体制再構築関連費用 2,550 <hr/> 計 10,434	6. 事業構造改善費用 事業構造改善費用は中量製品セグメント、原動機セグメント等に係るものであり、内訳は次のとおりである。 事業再編関連費用 9,411百万円 事業撤退関連費用 6,561 <hr/> 計 15,972

<p style="text-align: center;">前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)</p>	<p style="text-align: center;">当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)</p>												
<p>7.</p>	<p>7. 減損損失</p> <p>(1) 減損損失を認識した資産グループの概要</p> <table border="1" data-bbox="858 270 1414 397"> <thead> <tr> <th>用途</th> <th>種類</th> <th>場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事業用資産</td> <td>機械装置及び 運搬具等</td> <td>長崎県諫早市 広島県三原市等</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 資産のグルーピングの方法 資産グルーピングは主として事業所単位とし、賃貸用資産、遊休資産及び事業の廃止・移管に伴う処分見込資産は原則として個々の資産グループとして取り扱っている。</p> <p>(3) 減損損失の認識に至った経緯 一部の資産について、事業の廃止・移管に伴って使用見込みがなくなったことにより、帳簿価額を回収可能価額まで減額している。</p> <p>(4) 回収可能価額の算定方法 回収可能価額は正味売却価額又は使用価値により測定している。正味売却価額は処分見込価額から処分見込費用を控除した額を使用しており、使用価値は将来キャッシュ・フローに基づき算定（割引率3.8%）している。</p> <p>(5) 減損損失の金額 減損処理額4,341百万円は事業構造改善費用に含めて特別損失に計上しており、固定資産の種類ごとの内訳は次のとおりである。</p> <table data-bbox="877 1087 1414 1201"> <tbody> <tr> <td>機械装置及び運搬具</td> <td style="text-align: right;">3,996百万円</td> </tr> <tr> <td>建物及び構築物等</td> <td style="text-align: right;">344</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td style="text-align: right;">4,341</td> </tr> </tbody> </table>	用途	種類	場所	事業用資産	機械装置及び 運搬具等	長崎県諫早市 広島県三原市等	機械装置及び運搬具	3,996百万円	建物及び構築物等	344	計	4,341
用途	種類	場所											
事業用資産	機械装置及び 運搬具等	長崎県諫早市 広島県三原市等											
機械装置及び運搬具	3,996百万円												
建物及び構築物等	344												
計	4,341												

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成20年4月1日至平成21年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前連結会計年度末 株式数(株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	3,373,647,813	—	—	3,373,647,813
自己株式				
普通株式(注)	17,573,785	165,116	263,943	17,474,958

(注) 増加株式数の主な内訳は、次のとおりである。

 単元未満株式の買取り 165,115株

減少株式数の内訳は、次のとおりである。

 ストック・オプションの付与を目的に発行した新株予約権の権利行使に伴う処分 167,000株

 単元未満株式を保有する株主からの買増し請求への対応に伴う処分 96,943株

2. 新株予約権に関する事項

区分	新株予約権の内訳	当連結会計年度末残高 (百万円)
当社	ストック・オプションとしての新株予約権	881

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成20年6月26日 定時株主総会	普通株式	10,068	3	平成20年3月31日	平成20年6月27日
平成20年10月31日 取締役会	普通株式	10,068	3	平成20年9月30日	平成20年12月3日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成21年6月25日 定時株主総会	普通株式	10,068	利益剰余金	3	平成21年3月31日	平成21年6月26日

当連結会計年度（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前連結会計年度末 株式数（株）	当連結会計年度 増加株式数（株）	当連結会計年度 減少株式数（株）	当連結会計年度末 株式数（株）
発行済株式				
普通株式	3,373,647,813	—	—	3,373,647,813
自己株式				
普通株式（注）	17,474,958	74,281	134,588	17,414,651

（注）増加株式数の内訳は、次のとおりである。

単元未満株式の買取り	61,401株
新規持分法適用関連会社が保有する自己株式（当社株式）の当社帰属分	12,880株
減少株式数の内訳は、次のとおりである。	
ストック・オプションの付与を目的に発行した新株予約権の権利行使に伴う処分	122,000株
単元未満株式を保有する株主からの買増し請求への対応に伴う処分	12,588株

2. 新株予約権に関する事項

区分	新株予約権の内訳	当連結会計年度末残高 （百万円）
当社	ストック・オプションとしての新株予約権	1,184

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 （百万円）	1株当たり配当額 （円）	基準日	効力発生日
平成21年6月25日 定時株主総会	普通株式	10,068	3	平成21年3月31日	平成21年6月26日
平成21年10月30日 取締役会	普通株式	6,712	2	平成21年9月30日	平成21年12月3日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 （百万円）	配当の原資	1株当たり 配当額（円）	基準日	効力発生日
平成22年6月24日 定時株主総会	普通株式	6,712	利益剰余金	2	平成22年3月31日	平成22年6月25日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)																				
<p>1. 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成21年3月31日現在)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">現金及び預金</td> <td style="text-align: right;">435,038百万円</td> </tr> <tr> <td>預入期間が3か月を超える定期預金</td> <td style="text-align: right;">△12,124</td> </tr> <tr> <td>取得日から3か月以内に償還期限の到来する短期投資(有価証券)</td> <td style="text-align: right;">3,000</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">現金及び現金同等物</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">425,913</td> </tr> </table> <p>2. 重要な非資金取引の内容</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">投資有価証券の退職給付信託への拋出額(帳簿価額)</td> <td style="text-align: right;">71,735百万円</td> </tr> <tr> <td>退職給付信託設定益</td> <td style="text-align: right;">36,104</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">投資有価証券の退職給付信託への拋出額(時価)</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">107,840</td> </tr> </table>	現金及び預金	435,038百万円	預入期間が3か月を超える定期預金	△12,124	取得日から3か月以内に償還期限の到来する短期投資(有価証券)	3,000	現金及び現金同等物	425,913	投資有価証券の退職給付信託への拋出額(帳簿価額)	71,735百万円	退職給付信託設定益	36,104	投資有価証券の退職給付信託への拋出額(時価)	107,840	<p>1. 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成22年3月31日現在)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">現金及び預金</td> <td style="text-align: right;">274,061百万円</td> </tr> <tr> <td>預入期間が3か月を超える定期預金</td> <td style="text-align: right;">△12,687</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">現金及び現金同等物</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">261,373</td> </tr> </table> <p>2. 重要な非資金取引の内容 該当事項なし</p>	現金及び預金	274,061百万円	預入期間が3か月を超える定期預金	△12,687	現金及び現金同等物	261,373
現金及び預金	435,038百万円																				
預入期間が3か月を超える定期預金	△12,124																				
取得日から3か月以内に償還期限の到来する短期投資(有価証券)	3,000																				
現金及び現金同等物	425,913																				
投資有価証券の退職給付信託への拋出額(帳簿価額)	71,735百万円																				
退職給付信託設定益	36,104																				
投資有価証券の退職給付信託への拋出額(時価)	107,840																				
現金及び預金	274,061百万円																				
預入期間が3か月を超える定期預金	△12,687																				
現金及び現金同等物	261,373																				

(金融商品関係)

当連結会計年度(自平成21年4月1日至平成22年3月31日)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、運転資金、設備資金についてはまず営業キャッシュ・フローで獲得した資金を投入し、不足分について必要な資金(主に銀行借入や社債発行)を調達している。また、資金運用については、短期的な預金等に限定している。デリバティブは、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針である。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されているが、取引先ごとの期日管理及び残高管理を定期的に行い信用状況を把握する体制としている。また、グローバルに事業を展開していることから生じている外貨建営業債権は、為替の変動リスクに晒されているが、必要に応じて先物為替予約等を利用してヘッジしている。有価証券及び投資有価証券は、主に取引先企業との業務又は資本提携等に関連する株式であり、市場価格の変動リスクに晒されているが、定期的に時価や発行体(取引先企業)の財務状況等を把握し、また、取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直している。

営業債務である支払手形及び買掛金は、ほとんどが1年以内の支払期日である。また、その一部には、原料等の輸入に伴う外貨建てのものがあり、為替の変動リスクに晒されているが、必要に応じて先物為替予約等を利用してヘッジしている。短期借入金は運転資金、長期借入金及び社債は運転資金及び設備資金に係る資金調達である。変動金利の借入金は、金利の変動リスクに晒されているが、このうち長期のものの一部については、支払金利の変動リスクを回避し支払利息の固定化を図るために、個別契約ごとにデリバティブ取引(金利スワップ取引)をヘッジ手段として利用している。

デリバティブ取引には、主として、外貨建金銭債権債務等に係る為替相場の変動リスクに対するヘッジ取引を目的とした先物為替予約取引やオプション取引、借入金に係る支払金利の変動リスクに対するヘッジ取引を目的とした金利スワップ取引がある。なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価方法等については、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」4.(6)「ヘッジ会計の方法」に記載している。

デリバティブ取引の執行・管理については、主として内部管理規程に基づき、為替変動リスク及び金利変動リスクを回避すること等を目的とし、実需の範囲内で利用することとしているため、実質的に為替相場の変動や金利相場の変動に伴う重要な市場リスクはない。また、当該デリバティブ取引はいずれも信用度の高い銀行との間で締結しており、契約不履行の信用リスクは極めて低いと認識している。また、営業債務、借入金、及び社債は流動性リスクに晒されているが、当社グループでは、各社が月次に資金繰計画を作成するなどの方法により管理している。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれている。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがある。また、「デリバティブ取引関係」注記におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではない。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成22年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりである。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれていない。

((注2)参照)

	連結貸借対照表 計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1) 現金及び預金	274,061	274,061	—
(2) 受取手形及び売掛金	948,200	948,200	—
(3) 有価証券及び投資有価証券	188,822	280,742	91,920
資産計	1,411,083	1,503,003	91,920
(1) 支払手形及び買掛金	646,538	646,538	—
(2) 短期借入金	117,679	117,679	—
(3) 社債	364,605	371,423	6,818
(4) 長期借入金	1,007,041	1,025,214	18,172
負債計	2,135,864	2,160,855	24,991
デリバティブ取引 (*)	266	266	—

(*) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示している。

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金

預金は全て短期であるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっている。

(2) 受取手形及び売掛金

これらはその大部分が短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいとみなして、当該帳簿価額によっている。

(3) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価については、市場価格によっている。

また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記参照。

負 債

(1) 支払手形及び買掛金、(2) 短期借入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっている。

(3) 社債

社債の時価については、市場価格のあるものは市場価格に基づき、市場価格のないものは、元利金の合計額を当該社債の残存期間及び信用リスクを加味した利率で割り引いた現在価値により算定している。

(4) 長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額(*)を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっている。

(*) 金利スワップの特例処理の対象とされた長期借入金については、その金利スワップのレートによる元利金の合計額

デリバティブ取引

「デリバティブ取引関係」注記参照。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	連結貸借対照表計上額(百万円)
非上場株式	153,668

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(3) 有価証券及び投資有価証券」には含めていない。

(注3) 金銭債権及び満期がある有価証券の連結決算日後の償還予定額

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	273,453	—	—	—
受取手形及び売掛金	912,994	32,328	2,876	—
有価証券及び投資有価証券				
その他有価証券				
債券(国債)	0	9	—	—
その他(譲渡性預金)	7	—	—	—
合計	1,186,455	32,337	2,876	—

(注4) 社債及び長期借入金の連結決算日後の返済予定額

連結附属明細表「社債明細表」及び「借入金等明細表」参照。

(追加情報)

当連結会計年度から、「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号(平成20年3月10日企業会計基準委員会))及び「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第19号(平成20年3月10日企業会計基準委員会))を適用している。

(有価証券関係)
前連結会計年度

1. その他有価証券で時価のあるもの(平成21年3月31日)

	種類	取得原価 (百万円)	連結貸借対照表 計上額 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表 計上額が取得原価 を超えるもの	①株式	31,575	84,090	52,514
	②債券 国債・地方債等	498	499	0
	③その他	13	51	37
	小計	32,087	84,641	52,553
連結貸借対照表 計上額が取得原価 を超えないもの	①株式	74,550	53,183	△21,366
	小計	74,550	53,183	△21,366
合計		106,637	137,824	31,187

(注) 時価が著しく下落し回復の見込がないと判断されるものについては減損処理を実施し、減損処理後の帳簿価額を取得原価として記載している。

当該株式の減損の判定にあたっては、個別銘柄別にみて当連結会計年度末の時価が帳簿価額に比べ50%以上下落したもの、もしくは個別銘柄別にみて当連結会計年度末の時価が帳簿価額に比べ4期(含四半期連結会計期間)連続して30%以上50%未満下落したものを対象としている。
なお、時価のあるその他有価証券についての当連結会計年度減損処理額は420百万円である。

2. 当連結会計年度中に売却したその他有価証券(自平成20年4月1日至平成21年3月31日)

売却額(百万円)	売却益の合計額(百万円)	売却損の合計額(百万円)
1,266	282	△16

(注) 退職給付信託設定に係る信託拠出額及び信託設定益は以下のとおり(上記の外数)である。

信託拠出額(百万円)	信託設定益(百万円)
71,735	36,104

3. 時価評価されていない主な有価証券の内容及び連結貸借対照表計上額(平成21年3月31日)

	連結貸借対照表計上額(百万円)
その他有価証券	
非上場株式	14,326
譲渡性預金	3,000

(注) 発行会社の財政状態の悪化により実質価額が帳簿価額に比べて50%以上下落した場合は相当の減額(減損処理)を実施している。

なお、時価評価されていないその他有価証券についての当連結会計年度減損処理額は9百万円である。

4. その他有価証券のうち満期があるものの今後の償還予定(平成21年3月31日)

	1年以内(百万円)	1年超5年以内(百万円)
①譲渡性預金	3,007	—
②債券 国債・地方債等	—	509
合計	3,007	509

なお、5年超の償還予定のその他有価証券はない。

当連結会計年度

1. その他有価証券（平成22年3月31日）

	種類	連結貸借対照表 計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表 計上額が取得原価 を超えるもの	(1)株式	126,018	57,520	68,498
	(2)債券 国債・地方債等	9	9	0
	(3)その他	34	13	21
	小計	126,063	57,543	68,520
連結貸借対照表 計上額が取得原価 を超えないもの	(1)株式	39,115	47,420	△8,305
	小計	39,115	47,420	△8,305
合計		165,179	104,964	60,214

(注) 時価が著しく下落し回復の見込がないと判断されるものについては減損処理を実施し、減損処理後の帳簿価額を取得原価として記載している。

2. 当連結会計年度中に売却したその他有価証券（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）

種類	売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
(1)株式	6,481	5,015	△13
(2)債券 国債・地方債等	504	5	—
合計	6,985	5,021	△13

3. 減損処理を行った有価証券

当連結会計年度において、その他有価証券について1,409百万円（時価のある株式1,343百万円、時価を把握することが極めて困難と認められる株式65百万円）減損処理を実施している。

なお、時価のある有価証券に係る減損の判定にあたっては、個別銘柄別にみて当連結会計年度末の時価が帳簿価額に比べ50%以上下落したもの、もしくは個別銘柄別にみて当連結会計年度末の時価が帳簿価額に比べ4期（含四半期連結会計期間）連続して30%以上50%未満下落したものを対象としている。また、時価を把握することが極めて困難と認められる有価証券について、発行会社の財政状態の悪化により実質価額が帳簿価額に比べて50%以上下落した場合は相当の減額（減損処理）を実施している。

(デリバティブ取引関係)

前連結会計年度

1. 取引の状況に関する事項 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)

(1) 取引の内容

デリバティブ取引は主に為替予約取引、金利スワップ取引である。

(2) 取引に対する取り組み方針

主として内部管理規程に基づき、実需の範囲内でデリバティブ取引を利用する事としている。

(3) 取引の利用目的

デリバティブ取引は外貨建債権債務に係る為替相場の変動による損失を回避すること、また金利変動リスクを回避すること等を目的として利用している。

(4) 取引に係るリスク

為替変動リスク及び金利変動リスクを回避すること等を目的とし、実需の範囲内で利用しているため、実質的に為替相場の変動や金利相場の変動に伴う重要な市場リスクはない。また、当該デリバティブ取引はいずれも信用度の高い銀行との間で締結しており、契約不履行の信用リスクは極めて低いと認識している。

2. 取引の時価等に関する事項 (平成21年3月31日)

(1) 通貨関係

区分	取引の種類	契約額等 (百万円)	契約額等 のうち 1年超 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引 以外の取 引	為替予約取引				
	売建				
	米ドル	22,350	—	21,363	987
	ユーロ	15,616	—	13,702	1,914
	その他	2,627	—	2,232	394
	買建				
米ドル	1,076	—	982	△93	
その他	790	—	811	20	
	合計	38,727	—	35,504	3,223

(注) 1. 時価の算定方法

為替予約取引…先物為替相場によっている。

- ヘッジ対象である外貨建債権債務についても決算日の為替相場で換算替を行っているため、その換算差額とヘッジ手段である為替予約取引の時価評価に係る評価差額は同時に損益計算書に計上され、両者の損益を相殺し、ヘッジ取引の効果を実現させている。
- ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引は開示の対象から除いている。

(2) 金利関係

ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引を除いた結果、当連結会計年度(平成21年3月31日)において該当する記載事項はない。

当連結会計年度（平成22年3月31日）

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引
通貨関連

区分	取引の種類	契約額等 (百万円)	契約額等 のうち 1年超 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引 以外の取 引	為替予約取引 売建				
	米ドル	18,395	—	18,624	△229
	ユーロ	16,338	—	15,182	1,155
	その他	4,323	—	4,387	△63
	買建				
	米ドル	2,332	—	2,344	11
	その他	1,019	—	1,076	57
	合計	35,704	—	34,774	930

(注) 時価の算定方法

為替予約取引…先物為替相場によっている。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(1) 通貨関連

ヘッジ会計の 方法	取引の種類	主なヘッジ 対象	契約額等 (百万円)	契約額等 のうち 1年超 (百万円)	時価 (百万円)
原則的処理 方法	為替予約取引 売建				
	米ドル	受取手形	83,760	—	84,425
	ユーロ	及び	13,661	—	13,055
	その他	売掛金	4,407	—	4,369
	為替予約取引 買建				
	米ドル	支払手形	47,774	—	48,924
	ユーロ	及び	28,180	—	27,419
	その他	買掛金	8,995	—	7,963
	合計		16,879	—	17,543

(注) 時価の算定方法

為替予約取引…先物為替相場によっている。

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等 のうち 1年超 (百万円)	時価 (百万円)
為替予約等の 振当処理	為替予約取引 売建				
	米ドル	受取手形	46,810	—	(*)
	ユーロ	及び	3,233	—	
	その他	売掛金	46	—	
	為替予約取引 買建				
	米ドル	支払手形	3,516	—	(*)
ユーロ	及び	1,323	—		
その他	買掛金	66	—		
合計			45,184	—	

(*) 為替予約等の振当処理によるものは、ヘッジ対象とされている受取手形及び売掛金、並びに支払手形及び買掛金と一体として処理されているため、その時価は、当該受取手形及び売掛金、並びに支払手形及び買掛金の時価に含めて記載している。

(2) 金利関連

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等 のうち 1年超 (百万円)	時価 (百万円)
金利スワップ の特例処理	金利スワップ 取引				
	支払固定・ 受取変動	長期借入金	361,770	342,139	(*)

(*) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載している。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び国内連結子会社は、確定給付型の制度として、適格退職年金制度及び退職一時金制度を設けている。また、従業員の退職等に際して特別退職金（割増分）を支払う場合がある。

なお、一部の会社で厚生年金基金制度及び確定給付企業年金制度を設けているほか、一部の海外連結子会社でも確定給付型の制度を設けている。また、当社において退職給付信託を設定している。

2. 退職給付債務に関する事項

	前連結会計年度 (平成21年3月31日) (百万円)	当連結会計年度 (平成22年3月31日) (百万円)
①退職給付債務	△692,808 (注) 1	△662,323 (注) 1
②年金資産	479,574	586,920
③未積立退職給付債務 (①+②)	△213,233	△75,402
④未認識数理計算上の差異	259,640	120,101
⑤未認識過去勤務債務 (債務の減額)	△449 (注) 2	△368 (注) 2
⑥連結貸借対照表計上額純額 (③+④+⑤)	45,958	44,330
⑦前払年金費用	96,734	92,873
⑧退職給付引当金 (⑥-⑦)	△50,776 (注) 3	△48,542 (注) 3

前連結会計年度
(平成21年3月31日)

当連結会計年度
(平成22年3月31日)

- (注) 1. 厚生年金基金の代行部分を含めて記載している。
2. 一部の連結子会社において、厚生年金基金制度から確定給付企業年金制度へ移行したこと等により、過去勤務債務（債務の減額）が発生している。
3. 一部の連結子会社は、退職給付債務の算定にあたり簡便法を採用している。

- (注) 1. 同左
2. 同左
3. 同左

3. 退職給付費用に関する事項

	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日) (百万円)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日) (百万円)
①勤務費用	29,694 (注) 1	28,347 (注) 1
②利息費用	14,017	13,538
③期待運用収益	△12,917	△10,639
④数理計算上の差異の費用処理額	16,484	26,152
⑤過去勤務債務の費用処理額	△105 (注) 2	△5,052 (注) 2
⑥退職給付費用 (①+②+③+④+⑤)	47,174	52,346

前連結会計年度
(自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)

- (注) 1. 簡便法を採用している連結子会社の退職給付費用は、「①勤務費用」に計上している。
2. 「2. 退職給付債務に関する事項」(注) 2に記載の過去勤務債務に係る当連結会計年度の費用処理額である。

当連結会計年度
(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

- (注) 1. 同左
2. 「2. 退職給付債務に関する事項」(注) 2に記載の過去勤務債務に係る当連結会計年度の費用処理額、及び当社において退職年金給付利率等の改正に伴い発生した過去勤務債務(債務の減額)を一括費用処理した額である。

4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
①退職給付見込額の期間配分方法	主として期間定額基準	同左
②割引率	主として2.0%	同左
③期待運用収益率	主として3.5%	同左
④過去勤務債務の処理年数	当連結会計年度一括費用処理 または10年～11年	当連結会計年度一括費用処理 または9年～11年
⑤数理計算上の差異の処理年数	11年～18年 (各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理することとしている。)	10年～19年 (各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理することとしている。)

(ストック・オプション等関係)

前連結会計年度(自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)

1. スtock・オプションに係る当連結会計年度における費用計上額及び科目名
販売費及び一般管理費の「役員報酬及び給料手当」 388百万円

2. スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1) スtock・オプションの内容

	第1回 ストック・オプション	第2回 ストック・オプション	第3回 ストック・オプション	第4回 ストック・オプション
付与対象者の区分及び人数	当社の取締役 29名	当社の取締役 27名	当社の取締役及び 執行役員 26名	当社の取締役及び 執行役員 25名
株式の種類別のストック・オプションの数(注)	普通株式 535,000株	普通株式 500,000株	普通株式 502,000株	普通株式 663,000株
付与日	平成15年8月11日	平成16年8月11日	平成17年8月11日	平成18年8月17日
権利確定条件	—	—	—	—
対象勤務期間	—	—	—	—
権利行使期間	平成17年6月27日から 平成21年6月26日まで	平成18年6月26日から 平成22年6月25日まで	平成19年6月29日から 平成23年6月28日まで	平成18年8月18日から 平成48年6月28日まで

	第5回 ストック・オプション	第6回 ストック・オプション	第7回 ストック・オプション
付与対象者の区分及び人数	当社の取締役及び 執行役員 30名	当社の取締役及び 執行役員 33名	当社の執行役員 2名
株式の種類別のストック・オプションの数(注)	普通株式 400,000株	普通株式 806,000株	普通株式 46,000株
付与日	平成19年8月16日	平成20年8月18日	平成21年2月20日
権利確定条件	—	—	—
対象勤務期間	—	—	—
権利行使期間	平成19年8月17日から 平成49年8月16日まで	平成20年8月19日から 平成50年8月18日まで	平成21年2月21日から 平成51年2月20日まで

(注) 株式数に換算して記載している。

(2) ストック・オプションの規模及びその変動状況

当連結会計年度（平成21年3月期）において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載している。

①ストック・オプションの数

	第1回 ストック・オプション	第2回 ストック・オプション	第3回 ストック・オプション	第4回 ストック・オプション
権利確定前 (株)				
前連結会計年度末	—	—	—	—
付与	—	—	—	—
失効	—	—	—	—
権利確定	—	—	—	—
未確定残	—	—	—	—
権利確定後 (株)				
前連結会計年度末	1,000	21,000	203,000	658,000
権利確定	—	—	—	—
権利行使	—	—	55,000	78,000
失効	—	—	—	—
未行使残	1,000	21,000	148,000	580,000

	第5回 ストック・オプション	第6回 ストック・オプション	第7回 ストック・オプション
権利確定前 (株)			
前連結会計年度末	—	—	—
付与	—	806,000	46,000
失効	—	—	—
権利確定	—	806,000	46,000
未確定残	—	—	—
権利確定後 (株)			
前連結会計年度末	400,000	—	—
権利確定	—	806,000	46,000
権利行使	34,000	—	—
失効	—	—	—
未行使残	366,000	806,000	46,000

②単価情報

	第1回 ストック・オプション	第2回 ストック・オプション	第3回 ストック・オプション	第4回 ストック・オプション
権利行使価格 (円)	315	289	294	1
行使時平均株価 (円)	—	—	519	454
付与日における 公正な評価単価 (円)	—	—	—	443

	第5回 ストック・オプション	第6回 ストック・オプション	第7回 ストック・オプション
権利行使価格 (円)	1	1	1
行使時平均株価 (円)	477	—	—
付与日における 公正な評価単価 (円)	644	471	194

3. ストック・オプションの公正な評価単価の見積方法

(1) 第6回ストック・オプション

当連結会計年度において付与された第6回ストック・オプションについての公正な評価単価の見積方法は以下のとおりである。

①使用した評価技法 ブラック・ショールズ式

②主な基礎数値及び見積方法

	第6回 ストック・オプション
株価変動性 (注) 1	34.420%
予想残存期間 (注) 2	15年
予想配当 (注) 3	6円/株
無リスク利率 (注) 4	1.873%

(注) 1. 15年間（平成5年8月18日から平成20年8月18日まで）の株価実績に基づき算定した。

2. 十分なデータの蓄積がなく、合理的な見積りが困難であるため、権利行使期間の中間点において行使されるものと推定して見積っている。

3. 平成19年度の配当実績による。

4. 予想残存期間に対応する年数の国債の利回りである。

(2) 第7回ストック・オプション

当連結会計年度において付与された第7回ストック・オプションについての公正な評価単価の見積方法は以下のとおりである。

①使用した評価技法 ブラック・ショールズ式

②主な基礎数値及び見積方法

	第7回 ストック・オプション
株価変動性 (注) 1	36.454%
予想残存期間 (注) 2	15年
予想配当 (注) 3	6円/株
無リスク利率 (注) 4	1.783%

(注) 1. 15年間（平成6年2月20日から平成21年2月20日まで）の株価実績に基づき算定した。

2. 十分なデータの蓄積がなく、合理的な見積りが困難であるため、権利行使期間の中間点において行使されるものと推定して見積っている。

3. 平成19年度期末配当実績及び平成20年度中間配当実績による。

4. 予想残存期間に対応する年数の国債の利回りである。

4. ストック・オプションの権利確定数の見積方法

権利確定条件がないため、全て確定としている。

当連結会計年度（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）

1. ストック・オプションに係る当連結会計年度における費用計上額及び科目名
販売費及び一般管理費の「役員報酬及び給料手当」 326百万円

2. ストック・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1) ストック・オプションの内容

	第1回 ストック・オプション	第2回 ストック・オプション	第3回 ストック・オプション	第4回 ストック・オプション
付与対象者の区分及び人数	当社の取締役 29名	当社の取締役 27名	当社の取締役及び 執行役員 26名	当社の取締役及び 執行役員 25名
株式の種類別のストック・オプションの数（注）	普通株式 535,000株	普通株式 500,000株	普通株式 502,000株	普通株式 663,000株
付与日	平成15年8月11日	平成16年8月11日	平成17年8月11日	平成18年8月17日
権利確定条件	—	—	—	—
対象勤務期間	—	—	—	—
権利行使期間	平成17年6月27日から 平成21年6月26日まで	平成18年6月26日から 平成22年6月25日まで	平成19年6月29日から 平成23年6月28日まで	平成18年8月18日から 平成48年6月28日まで

	第5回 ストック・オプション	第6回 ストック・オプション	第7回 ストック・オプション	第8回 ストック・オプション
付与対象者の区分及び人数	当社の取締役及び 執行役員 30名	当社の取締役及び 執行役員 33名	当社の執行役員 2名	当社の取締役及び 執行役員 33名
株式の種類別のストック・オプションの数（注）	普通株式 400,000株	普通株式 806,000株	普通株式 46,000株	普通株式 1,109,000株
付与日	平成19年8月16日	平成20年8月18日	平成21年2月20日	平成21年8月17日
権利確定条件	—	—	—	—
対象勤務期間	—	—	—	—
権利行使期間	平成19年8月17日から 平成49年8月16日まで	平成20年8月19日から 平成50年8月18日まで	平成21年2月21日から 平成51年2月20日まで	平成21年8月18日から 平成51年8月17日まで

（注）株式数に換算して記載している。

(2) ストック・オプションの規模及びその変動状況

当連結会計年度（平成22年3月期）において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載している。

① ストック・オプションの数

	第1回 ストック・オプション	第2回 ストック・オプション	第3回 ストック・オプション	第4回 ストック・オプション
権利確定前 (株)				
前連結会計年度末	—	—	—	—
付与	—	—	—	—
失効	—	—	—	—
権利確定	—	—	—	—
未確定残	—	—	—	—
権利確定後 (株)				
前連結会計年度末	1,000	21,000	148,000	580,000
権利確定	—	—	—	—
権利行使	—	21,000	55,000	18,000
失効	1,000	—	—	—
未行使残	—	—	93,000	562,000

	第5回 ストック・オプション	第6回 ストック・オプション	第7回 ストック・オプション	第8回 ストック・オプション
権利確定前 (株)				
前連結会計年度末	—	—	—	—
付与	—	—	—	1,109,000
失効	—	—	—	—
権利確定	—	—	—	1,109,000
未確定残	—	—	—	—
権利確定後 (株)				
前連結会計年度末	366,000	806,000	46,000	—
権利確定	—	—	—	1,109,000
権利行使	10,000	18,000	—	—
失効	—	—	—	—
未行使残	356,000	788,000	46,000	1,109,000

② 単価情報

	第1回 ストック・オプション	第2回 ストック・オプション	第3回 ストック・オプション	第4回 ストック・オプション
権利行使価格 (円)	315	289	294	1
行使時平均株価 (円)	—	354	352	350
付与日における 公正な評価単価 (円)	—	—	—	443

	第5回 ストック・オプション	第6回 ストック・オプション	第7回 ストック・オプション	第8回 ストック・オプション
権利行使価格 (円)	1	1	1	1
行使時平均株価 (円)	350	350	—	—
付与日における 公正な評価単価 (円)	644	471	194	294

3. ストック・オプションの公正な評価単価の見積方法

当連結会計年度において付与された第8回ストック・オプションについての公正な評価単価の見積方法は以下のとおりである。

①使用した評価技法 ブラック・ショールズ式

②主な基礎数値及び見積方法

	第8回 ストック・オプション
株価変動性 (注) 1	36.888%
予想残存期間 (注) 2	15年
予想配当 (注) 3	6円/株
無リスク利子率 (注) 4	1.834%

(注) 1. 15年間（平成6年8月17日から平成21年8月17日まで）の株価実績に基づき算定した。

2. 十分なデータの蓄積がなく、合理的な見積りが困難であるため、権利行使期間の中間点において行使されるものと推定して見積っている。

3. 平成20年度の配当実績による。

4. 予想残存期間に対応する年数の国債の利回りである。

4. ストック・オプションの権利確定数の見積方法

権利確定条件がないため、全て確定としている。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成21年3月31日)	当連結会計年度 (平成22年3月31日)
繰延税金資産		
退職給付引当金	109,792百万円	107,286百万円
保証・無償工事見積計上額	30,568	34,319
繰越欠損金	21,658	32,743
残工事見積計上額	24,982	31,563
棚卸資産評価損	18,251	20,187
製品保証引当金	—	11,600
受注工事損失引当金	16,780	10,159
その他	121,251	95,491
繰延税金資産小計	343,285	343,352
評価性引当額	△56,362	△53,594
繰延税金資産合計	286,922	289,758
繰延税金負債		
退職給付信託設定損益	△84,421	△80,818
その他有価証券評価差額	△21,278	△27,828
固定資産圧縮積立金	△22,576	△23,729
繰延ヘッジ損益	△1,719	—
その他	△18,910	△23,497
繰延税金負債合計	△148,905	△155,873
繰延税金資産（負債）の純額	138,016	133,884

(注) 1. 前連結会計年度の繰延税金資産「その他」には、「製品保証引当金」9,668百万円を含む。

2. 当連結会計年度の繰延税金負債「その他」には、「繰延ヘッジ損益」△42百万円を含む。

3. 前連結会計年度及び当連結会計年度における繰延税金資産（負債）の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれている。

	前連結会計年度 (平成21年3月31日)	当連結会計年度 (平成22年3月31日)
流動資産－繰延税金資産	136,341百万円	142,720百万円
固定資産－繰延税金資産	9,372	9,367
流動負債－その他	177	316
固定負債－繰延税金負債	7,519	17,886

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成21年3月31日)	当連結会計年度 (平成22年3月31日)
法定実効税率	40.5%	40.5%
(調整)		
損金不算入の費用	2.5	6.8
益金不算入の収益	△12.9	△2.7
持分法による投資損益	5.6	3.0
評価性引当額	34.6	9.5
試験研究費税額控除	△7.7	△6.1
課税所得を超過する未実現利益消去	—	7.8
その他	0.6	6.0
税効果会計適用後の法人税等の負担率	63.2	64.8

(セグメント情報)

【事業の種類別セグメント情報】

前連結会計年度(自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)

	船舶・海洋 (百万円)	原動機 (百万円)	機械・鉄構 (百万円)	航空・宇宙 (百万円)	中量産品 (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は共通 (百万円)	連結 (百万円)
I 売上高及び営業損益									
売上高									
(1) 外部顧客に対する 売上高	240,027	1,191,044	530,377	511,604	791,246	111,373	3,375,674	-	3,375,674
(2) セグメント間の内 部売上高又は振替 高	150	18,106	11,826	751	14,156	9,773	54,763	(54,763)	-
計	240,178	1,209,150	542,203	512,355	805,403	121,147	3,430,438	(54,763)	3,375,674
営業費用	238,537	1,129,149	510,598	522,695	812,433	111,165	3,324,579	(54,763)	3,269,815
営業利益又は 営業損失(△)	1,641	80,001	31,605	△10,340	△7,030	9,982	105,859	-	105,859
II 資産、減価償却費及 び資本的支出									
資産	250,386	1,238,460	494,383	954,452	821,649	189,606	3,948,939	577,274	4,526,213
減価償却費	9,707	36,629	10,624	46,103	33,541	17,250	153,856	-	153,856
資本的支出	8,045	66,220	15,765	40,225	58,957	7,463	196,677	-	196,677

(注) 1. 事業区分の方法

製品の種類・性質、製造方法、販売市場等の類似性を考慮して船舶・海洋、原動機、機械・鉄構、航空・宇宙、中量産品、その他の6セグメントに区分している。

2. 各区分に属する主要な製品の名称

事業区分	主要製品名
船舶・海洋	油送船・コンテナ船・客船・カーフェリー・LPG船・LNG船等各種船舶、艦艇、 海洋構造物
原動機	ボイラ、タービン、ガスタービン、ディーゼルエンジン、水車、風車、原子力装置、 原子力周辺装置、原子燃料、排煙脱硝装置、船用機械、海水淡水化装置、ポンプ
機械・鉄構	廃棄物処理・排煙脱硫・排ガス処理装置等各種環境装置、交通システム、 輸送用機器、石油化学等各種化学プラント、石油・ガス生産関連プラント、 製鉄機械、風力機械、橋梁、クレーン、煙突、立体駐車場、タンク、 文化・スポーツ・レジャー関連施設、その他鉄構製品
航空・宇宙	戦闘機・ヘリコプタ・民間輸送機等各種航空機、航空機機体部分品、 航空機用エンジン、誘導飛しょう体、魚雷、航空機用油圧機器、宇宙機器
中量産品	フォークリフト、建設機械、運搬整地機械、中小型エンジン、過給機、農業用機械、 トラクタ、特殊車両、住宅用・業務用・車両用エアコン等各種空調機器、冷凍機、 プラスチック機械、食品・包装機械、動力伝導装置、印刷機械、紙工機械、工作機械
その他	不動産の売買、印刷、情報サービス、リース業

3. 資産のうち、消去又は共通の項目に含めた共通資産の金額は577,274百万円であり、その主なものは、当社の余資運用資金(現金及び預金、有価証券)、長期投資資金(投資有価証券)等である。

4. 会計処理の方法の変更

(棚卸資産の評価に関する会計基準)

「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」4.(1)②(会計方針の変更)に記載のとおり、当連結会計年度から、「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号(平成18年7月5日公表分 企業会計基準委員会))を適用している。

これに伴い、営業利益は、「航空・宇宙」が20,085百万円、「その他」が1,615百万円、「中量産品」が1,359百万円、「機械・鉄構」が192百万円、「船舶・海洋」が51百万円それぞれ減少し、「原動機」が2,807百万円増加している。

5. 追加情報

「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」4.(2)①(追加情報)に記載のとおり、当社及び国内連結子会社の機械装置について、平成20年度税制改正を機に実態に即して資産区分及び耐用年数を見直している。

これに伴い、営業利益は、「航空・宇宙」が3,043百万円、「船舶・海洋」が1,113百万円、「中量産品」が835百万円、「機械・鉄構」が391百万円、「その他」が47百万円それぞれ減少し、「原動機」が70百万円増加している。

当連結会計年度(自平成21年4月1日至平成22年3月31日)

	船舶・海洋 (百万円)	原動機 (百万円)	機械・鉄構 (百万円)	航空・宇宙 (百万円)	中量産品 (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は共通 (百万円)	連結 (百万円)
I 売上高及び営業損益									
売上高									
(1) 外部顧客に対する 売上高	229,792	1,049,593	529,749	499,478	531,064	101,208	2,940,887	-	2,940,887
(2) セグメント間の内 部売上高又は振替 高	899	16,534	12,311	791	13,259	8,984	52,782	(52,782)	-
計	230,692	1,066,128	542,061	500,270	544,324	110,193	2,993,669	(52,782)	2,940,887
営業費用	216,148	983,525	511,913	506,694	606,947	102,780	2,928,009	(52,782)	2,875,227
営業利益又は 営業損失(△)	14,544	82,603	30,148	△6,424	△62,623	7,413	65,660	-	65,660
II 資産、減価償却費及 び資本的支出									
資産	275,198	1,226,529	489,631	913,620	697,497	181,224	3,783,701	479,158	4,262,859
減価償却費	9,827	39,888	11,397	38,004	33,693	7,624	140,436	-	140,436
資本的支出	11,365	78,763	19,030	22,229	33,188	12,612	177,190	-	177,190

(注) 1. 事業区分の方法

製品の種類・性質、製造方法、販売市場等の類似性を考慮して船舶・海洋、原動機、機械・鉄構、航空・宇宙、中量産品、その他の6セグメントに区分している。

2. 各区分に属する主要な製品の名称

事業区分	主要製品名
船舶・海洋	油送船・コンテナ船・客船・カーフェリー・LPG船・LNG船・自動車運搬船等各種船舶、艦艇、海洋構造物
原動機	ボイラ、タービン、ガスタービン、ディーゼルエンジン、水車、風車、原子力装置、原子力周辺装置、排煙脱硝装置、船用機械、海水淡水化装置、ポンプ
機械・鉄構	廃棄物処理・排煙脱硫・排ガス処理装置等各種環境装置、交通システム、輸送用機器、石油化学等各種化学プラント、石油・ガス生産関連プラント、製鉄機械、コンプレッサ、橋梁、クレーン、煙突、立体駐車場、タンク、文化・スポーツ・レジャー関連施設
航空・宇宙	戦闘機・ヘリコプタ・民間輸送機等各種航空機、航空機機体部分品、航空機用エンジン、誘導飛しょう体、魚雷、航空機用油圧機器、宇宙機器
中量産品	フォークリフト、建設機械、中小型エンジン、ターボチャージャ、農業用機械、トラクタ、特殊車両、住宅用・業務用・車両用エアコン等各種空調機器、冷凍機、プラスチック機械、食品・包装機械、動力伝導装置、印刷機械、紙工機械、工作機械
その他	不動産の売買、印刷、情報サービス、リース業

3. 資産のうち、消去又は共通の項目に含めた共通資産の金額は479,158百万円であり、その主なものは、当社の余資運用資金(現金及び預金、有価証券)、長期投資資金(投資有価証券)等である。

4. 会計処理の方法の変更

(工事契約に関する会計基準)

「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」4.(5)①(会計方針の変更)に記載のとおり、当連結会計年度から、「工事契約に関する会計基準」(企業会計基準第15号(平成19年12月27日企業会計基準委員会))及び「工事契約に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第18号(平成19年12月27日企業会計基準委員会))を適用している。

これに伴い、売上高は、「船舶・海洋」が644百万円(うち外部顧客に対する売上高は644百万円)、「原動機」が1,032百万円(うち外部顧客に対する売上高は1,032百万円)、「機械・鉄構」が6,749百万円(うち外部顧客に対する売上高は6,749百万円)、「航空・宇宙」が3,079百万円(うち外部顧客に対する売上高は3,079百万円)、「その他」が553百万円(うち外部顧客に対する売上高は553百万円)、それぞれ増加している。また、営業利益は、「船舶・海洋」が136百万円、「原動機」が308百万円、「機械・鉄構」が1,891百万円、「航空・宇宙」が347百万円、「その他」が20百万円、それぞれ増加している。

【所在地別セグメント情報】

前連結会計年度（自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日）

	日本 (百万円)	北米 (百万円)	アジア (百万円)	欧州 (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は共 通(百万円)	連結 (百万円)
I 売上高及び営業損益								
売上高								
(1) 外部顧客に対する 売上高	2,816,197	289,213	69,784	162,735	37,744	3,375,674	-	3,375,674
(2) セグメント間の内部売 上高又は振替高	304,417	8,182	50,560	4,172	1,410	368,744	(368,744)	-
計	3,120,614	297,395	120,344	166,908	39,155	3,744,419	(368,744)	3,375,674
営業費用	3,029,411	290,748	117,873	164,087	36,440	3,638,560	(368,744)	3,269,815
営業利益	91,203	6,647	2,471	2,821	2,715	105,859	-	105,859
II 資産	3,447,183	217,999	84,073	115,970	83,711	3,948,939	577,274	4,526,213

(注) 1. 国又は地域の区分は、地理的近接度によっている。

2. 日本以外の区分に属する主な国又は地域

(1) 北米……………米国

(2) アジア……………中国, タイ, シンガポール

(3) 欧州……………イギリス, オランダ

(4) その他……………メキシコ, ブラジル, オーストラリア

3. 資産のうち、消去又は共通の項目に含めた共通資産の金額は、577,274百万円であり、その主なものは、当社の余資運用資金（現金及び預金、有価証券）、長期投資資金（投資有価証券）等である。

当連結会計年度（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）

	日本 (百万円)	北米 (百万円)	アジア (百万円)	欧州 (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は共 通(百万円)	連結 (百万円)
I 売上高及び営業損益								
売上高								
(1) 外部顧客に対する 売上高	2,533,836	217,003	57,151	104,724	28,172	2,940,887	-	2,940,887
(2) セグメント間の内部売 上高又は振替高	232,689	8,462	36,461	3,741	664	282,020	(282,020)	-
計	2,766,525	225,465	93,613	108,465	28,836	3,222,907	(282,020)	2,940,887
営業費用	2,697,642	228,592	92,618	113,770	24,622	3,157,247	(282,020)	2,875,227
営業利益又は 営業損失(△)	68,883	△3,127	995	△5,305	4,214	65,660	-	65,660
II 資産	3,228,177	240,335	92,265	134,044	88,879	3,783,701	479,158	4,262,859

(注) 1. 国又は地域の区分は、地理的近接度によっている。

2. 日本以外の区分に属する主な国又は地域

(1) 北米……………米国

(2) アジア……………中国, タイ, シンガポール

(3) 欧州……………イギリス, オランダ

(4) その他……………メキシコ, ブラジル, オーストラリア

3. 資産のうち、消去又は共通の項目に含めた共通資産の金額は、479,158百万円であり、その主なものは、当社の余資運用資金（現金及び預金、有価証券）、長期投資資金（投資有価証券）等である。

【海外売上高】

前連結会計年度（自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日）

	アジア	北米	欧州	中南米	中東	アフリカ	大洋州	合計
I 海外売上高（百万円）	439,187	414,053	296,224	226,198	230,001	21,581	25,022	1,652,269
II 連結売上高（百万円）								3,375,674
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合（%）	13.0	12.3	8.8	6.7	6.8	0.6	0.7	48.9

（注）1. 国又は地域の区分は、地理的近接度によっている。

2. 各区分に属する主な国又は地域

- (1) アジア……………韓国, 台湾, 中国, 香港, マカオ, ベトナム, タイ, マレーシア, シンガポール, フィリピン, インドネシア, インド
- (2) 北米……………米国, カナダ
- (3) 欧州……………イギリス, アイルランド, スペイン, フランス, オランダ, ドイツ, イタリア, ギリシア, アイスランド, フィンランド, ロシア, ウクライナ
- (4) 中南米……………メキシコ, パナマ, バハマ, チリ, ブラジル, アルゼンチン
- (5) 中東……………トルコ, サウジアラビア, キプロス, カタール, アラブ首長国連邦
- (6) アフリカ……………エジプト, 南アフリカ
- (7) 大洋州……………オーストラリア, ニュージーランド

3. 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高である。

当連結会計年度（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）

	アジア	北米	欧州	中南米	中東	アフリカ	大洋州	合計
I 海外売上高（百万円）	390,701	360,183	223,334	184,790	170,760	138,725	10,198	1,478,695
II 連結売上高（百万円）								2,940,887
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合（%）	13.3	12.2	7.6	6.3	5.8	4.7	0.4	50.3

（注）1. 国又は地域の区分は、地理的近接度によっている。

2. 各区分に属する主な国又は地域

- (1) アジア……………韓国, 台湾, 中国, 香港, ベトナム, タイ, マレーシア, シンガポール, フィリピン, インドネシア, ブルネイ, パキスタン, インド
- (2) 北米……………米国, カナダ
- (3) 欧州……………イギリス, スペイン, フランス, オランダ, ベルギー, ドイツ, イタリア, ギリシア, アイスランド, フィンランド, ロシア, ウクライナ
- (4) 中南米……………メキシコ, パナマ, ケイマン諸島, チリ, ベネズエラ, ブラジル, アルゼンチン
- (5) 中東……………トルコ, サウジアラビア, オマーン, カタール, アラブ首長国連邦
- (6) アフリカ……………エジプト, リベリア, 南アフリカ
- (7) 大洋州……………オーストラリア

3. 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高である。

【関連当事者情報】

前連結会計年度（自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日）

（追加情報）

当連結会計年度から、「関連当事者の開示に関する会計基準」（企業会計基準第11号（平成18年10月17日企業会計基準委員会））及び「関連当事者の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第13号（平成18年10月17日企業会計基準委員会））を適用している。

この結果、従来の開示対象範囲に加えて、「親会社又は重要な関連会社に関する注記」が開示対象に追加されている。

1. 関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
関連会社	キャタピラー ージャパン 株 (注) 1	東京都 世田谷区	23,100	油圧ショベル、ホイールローダー、ブルドーザー等の製造、販売	(所有) 直接 33.3	当社製品の販売	当社保有のキャタピラーージャパン社株式の売却 売却代金 売却益 (注) 2	50,000 13,921	—	—

(注) 1. 平成20年8月1日付で新キャタピラー三菱株から商号変更している。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針

キャタピラーージャパン株への出資比率の見直しについて、Caterpillar International Investments Cooperatie U.A.、キャタピラーージャパン株及び当社との間で平成20年3月26日に合意した内容に基づき、同年8月1日付で当社保有の231,000株のうち115,500株をキャタピラーージャパン株に売却したものであり、取引金額は企業価値に基づき算定した価額をもって交渉の上、決定している。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

重要な関連会社の要約財務情報

当連結会計年度において、重要な関連会社は三菱自動車工業株であり、その要約連結財務諸表は以下のとおりである。

	三菱自動車工業株
流動資産合計	540,943百万円
固定資産合計	597,066百万円
流動負債合計	620,093百万円
固定負債合計	294,891百万円
純資産合計	223,024百万円
売上高	1,973,572百万円
税金等調整前当期純損失金額(△)	△53,717百万円
当期純損失金額(△)	△54,883百万円

当連結会計年度（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）

該当事項なし。

(1株当たり情報)

前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	
1株当たり純資産額	369円94銭	1株当たり純資産額	380円80銭
1株当たり当期純利益金額	7円22銭	1株当たり当期純利益金額	4円22銭
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額	7円21銭	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額	—

(注) 1. 当連結会計年度における潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載していない。

2. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりである。

	前連結会計年度末 (平成21年3月31日)	当連結会計年度末 (平成22年3月31日)
純資産の部の合計額(百万円)	1,283,251	1,328,772
純資産の部の合計額から控除する金額(百万円)	41,653	50,724
(うち新株予約権)	(881)	(1,184)
(うち少数株主持分)	(40,772)	(49,540)
普通株式に係る期末の純資産額(百万円)	1,241,598	1,278,048
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数(千株)	3,356,172	3,356,233

3. 1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりである。

	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益(百万円)	24,217	14,163
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る当期純利益(百万円)	24,217	14,163
期中平均株式数(千株)	3,356,127	3,356,185
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額		
普通株式増加数(千株)	619	—
(うち新株予約権)	(619)	(—)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式の概要	新株予約権6種類(新株予約権の総数1,388個)、概要は「第4提出会社の状況1株式等の状況(2)新株予約権等の状況」に記載のとおり。	新株予約権6種類(新株予約権の総数2,954個)、概要は「第4提出会社の状況1株式等の状況(2)新株予約権等の状況」に記載のとおり。

(重要な後発事象)

前連結会計年度(自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)
該当事項なし。

当連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
該当事項なし。

⑤【連結附属明細表】

【社債明細表】

会社名	銘柄	発行年月日	前期末残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	利率 (%)	担保	償還期限
		平成年月日					平成年月日
三菱重工業(株)	第14回無担保社債	15. 1. 31	20,000	—	0.63	なし	22. 1. 29
三菱重工業(株)	第15回無担保社債	15. 1. 31	30,000	30,000	1.03	なし	25. 1. 31
三菱重工業(株) (注) 1	第16回無担保社債	15. 6. 24	20,000	20,000 (20,000)	0.365	なし	22. 6. 24
三菱重工業(株)	第17回無担保社債	15. 6. 24	50,000	50,000	0.70	なし	25. 6. 24
三菱重工業(株)	第18回無担保社債	18. 9. 7	10,000	10,000	1.45	なし	23. 9. 7
三菱重工業(株)	第19回無担保社債	18. 9. 7	20,000	20,000	2.04	なし	28. 9. 7
三菱重工業(株)	第20回無担保社債	19. 9. 12	50,000	50,000	1.47	なし	24. 9. 12
三菱重工業(株)	第21回無担保社債	19. 9. 12	20,000	20,000	1.69	なし	26. 9. 12
三菱重工業(株)	第22回無担保社債	19. 9. 12	60,000	60,000	2.03	なし	29. 9. 12
三菱重工業(株)	第23回無担保社債	21. 12. 9	—	50,000	0.688	なし	26. 12. 9
三菱重工業(株)	第24回無担保社債	21. 12. 9	—	50,000	1.482	なし	31. 12. 9
千代田リース(株)	第1回無担保社債	15. 9. 10	350	—	0.62	なし	16. 3. 10 ~22. 9. 10
Mitsubishi Caterpillar Forklift America, Inc. (注) 2	社債(私募債)	18. 8. 31	4,551 [50,000千\$]	4,605 [50,000千\$]	6.45	なし	23. 8. 31
合計			284,901	364,605 (20,000)			

(注) 1. 当期末残高の()内の金額は、1年以内に償還が予定されている金額である。

2. 在外子会社であるMitsubishi Caterpillar Forklift America, Inc. が米国で発行した私募債である。
なお、当該社債に係る債務保証を当社で行っている。

3. 連結決算日後の償還予定額は以下のとおりである。

1年以内 (百万円)	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
20,000	14,605	80,000	50,000	70,000	130,000

【借入金等明細表】

区分	前期末残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	248,734	117,679	1.2	—
1年以内に返済予定の長期借入金	108,267	109,539	1.2	—
1年以内に返済予定のリース債務	1,394	2,289	—	—
長期借入金 (1年以内に返済予定のものを除く。)	855,956	897,501	1.7	平成23年～35年
リース債務 (1年以内に返済予定のものを除く。)	5,350	7,691	—	平成23年～41年
その他有利子負債 コマーシャル・ペーパー(1年内返済)	115,000	6,000	0.1	—
合計	1,334,703	1,140,701		

- (注) 1. 「平均利率」については、借入金等の当期末残高に対する加重平均利率を記載している。
2. リース債務の平均利率については、主にリース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載していない。
3. 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後の返済予定額は以下のとおりである。

	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
長期借入金	212,371	129,145	149,238	181,940	224,805
リース債務	2,006	1,877	1,418	651	1,736

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報

	第1四半期 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)	第2四半期 (自平成21年7月1日 至平成21年9月30日)	第3四半期 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)	第4四半期 (自平成22年1月1日 至平成22年3月31日)
売上高(百万円)	603,331	718,307	677,672	941,574
税金等調整前四半期純利益金額又は 税金等調整前四半期純損失金額(△) (百万円)	△3,229	3,780	14,840	12,745
四半期純利益金額又は 四半期純損失金額(△)(百万円)	△8,267	5,163	7,397	9,870
1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり四半期純損失金額(△) (円)	△2.46	1.54	2.20	2.94

2 【財務諸表等】
 (1) 【財務諸表】
 ① 【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成21年3月31日)	当事業年度 (平成22年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	326,571	186,384
受取手形	注2 6,973	注2 5,120
売掛金	注2 910,634	注2 816,594
有価証券	7	7
商品及び製品	96,176	93,841
仕掛品	818,207	注4 783,246
原材料及び貯蔵品	102,710	103,630
前渡金	注2 103,306	注2 89,029
前払費用	1,077	注2 1,042
繰延税金資産	109,921	110,696
その他	注2 110,763	注2 94,686
貸倒引当金	△65	△107
流動資産合計	2,586,285	2,284,173

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成21年3月31日)	当事業年度 (平成22年3月31日)
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	230,605	238,588
構築物（純額）	25,771	25,427
ドック船台（純額）	2,781	3,516
機械及び装置（純額）	210,637	215,196
船舶（純額）	14	10
航空機（純額）	151	105
車両運搬具（純額）	4,061	3,334
工具、器具及び備品（純額）	47,563	37,989
土地	118,872	122,100
リース資産（純額）	2,626	3,265
建設仮勘定	44,654	47,218
有形固定資産合計	注1 687,740	注1 696,753
無形固定資産		
ソフトウェア	11,811	9,622
施設利用権	1,136	924
リース資産	16	27
その他	268	244
無形固定資産合計	13,233	10,819
投資その他の資産		
投資有価証券	144,542	171,656
関係会社株式	304,697	357,413
出資金	168	28
関係会社出資金	15,961	18,661
長期貸付金	777	538
従業員に対する長期貸付金	97	65
関係会社長期貸付金	4,549	7,251
破産更生債権等	注2 17,200	注2 13,736
長期前払費用	38,061	32,770
前払年金費用	96,316	92,502
長期未収入債権等	注2 3,770	注2 5,637
その他	注2 5,685	注2 17,634
貸倒引当金	△20,303	△14,036
投資その他の資産合計	611,526	703,861
固定資産合計	1,312,499	1,411,435
資産合計	3,898,785	3,695,608

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成21年3月31日)	当事業年度 (平成22年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	注2 594,520	注2 558,207
短期借入金	注2 244,080	注2 137,232
1年内返済予定の長期借入金	83,527	69,298
コマーシャル・ペーパー	115,000	6,000
1年内償還予定の社債	20,000	20,000
リース債務	283	532
未払金	52,146	37,280
未払費用	38,592	38,878
未払法人税等	3,795	—
前受金	390,807	334,011
預り金	15,465	11,761
前受収益	38	20
製品保証引当金	23,872	28,636
受注工事損失引当金	36,516	注4 21,752
係争関連損失引当金	23,300	13,941
その他	9,035	1,440
流動負債合計	1,650,983	1,278,994
固定負債		
社債	260,000	340,000
長期借入金	802,470	859,172
リース債務	2,425	2,730
繰延税金負債	17,491	27,452
PCB廃棄物処理費用引当金	4,043	6,993
その他	36,332	37,780
固定負債合計	1,122,763	1,274,129
負債合計	2,773,746	2,553,124

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成21年3月31日)	当事業年度 (平成22年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	265,608	265,608
資本剰余金		
資本準備金	203,536	203,536
その他資本剰余金	74	84
資本剰余金合計	203,610	203,621
利益剰余金		
利益準備金	66,363	66,363
その他利益剰余金		
固定資産圧縮積立金	32,932	34,614
特別償却準備金	1,697	541
別途積立金	460,000	460,000
繰越利益剰余金	82,504	83,608
利益剰余金合計	643,497	645,128
自己株式	△5,037	△5,019
株主資本合計	1,107,679	1,109,338
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	14,980	32,431
繰延ヘッジ損益	1,497	△469
評価・換算差額等合計	16,478	31,961
新株予約権	881	1,184
純資産合計	1,125,039	1,142,484
負債純資産合計	3,898,785	3,695,608

②【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
売上高	注4 2,647,266	2,327,783
売上原価	注2 2,422,060	注1, 注2 2,105,992
売上総利益	225,205	221,791
販売費及び一般管理費		
貸倒引当金繰入額	3,676	5,147
役員報酬及び給料手当	41,390	44,314
減価償却費	5,927	5,494
研究開発費	注3 46,835	注3 45,319
支払手数料	20,591	21,699
引合費用	17,235	21,056
その他	32,554	31,600
販売費及び一般管理費合計	168,211	174,633
営業利益	56,993	47,157
営業外収益		
受取利息	注4 3,159	注4 2,330
受取配当金	注4 15,000	注4 12,716
為替差益	2,477	—
その他	1,374	2,851
営業外収益合計	22,012	17,899
営業外費用		
支払利息	13,662	15,769
社債利息	4,079	4,014
為替差損	—	1,260
固定資産除却損	6,320	5,597
その他	8,115	18,367
営業外費用合計	32,177	45,009
経常利益	46,828	20,047
特別利益		
固定資産売却益	注6 2,414	注6 7,754
投資有価証券売却益	注5 44,477	注5 4,980
退職給付制度改定益	—	4,950
退職給付信託設定益	36,104	—
特別利益合計	82,997	17,686
特別損失		
事業構造改善費用	注8 8,626	注8, 注9 13,677
投資有価証券評価損	注10 3,815	注10 2,125
棚卸資産会計基準の適用に伴う影響額	注2 33,322	—
係争関連損失	注7 20,835	—
特別損失合計	66,599	15,803
税引前当期純利益	63,226	21,929
法人税、住民税及び事業税	30,725	4,878
法人税等調整額	△12,324	△1,360
法人税等合計	18,401	3,518
当期純利益	44,825	18,411

【売上原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)		当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	
		金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)
1. 直接材料費		1,127,174	46.5	878,440	41.7
2. 直接経費		740,484	30.6	693,609	32.9
3. 用役費		271,239	11.2	259,131	12.3
4. 加工費		265,366	11.0	265,235	12.6
5. 原価差額		17,795	0.7	9,574	0.5
合計		2,422,060	100.0	2,105,992	100.0

(注) 原価計算の方法

- (1) 原則として個別原価計算方式によっているが、一部の見込生産品については総合原価計算方式を採用している。
- 個別原価計算方式においては、原則として実際額について計算しているが、計算の便宜上賃金、間接費等は予定額をもって行い、この予定額と実際発生額との差額は、原価差額として損益計算書の売上原価に含めて表示している。
- また、標準原価により総合原価計算方式を採用している見込生産品の標準原価と実際原価との差額についても原価差額として処理している。
- (2) 加工費のうち、直接労務費の割合は前事業年度25.7%、当事業年度20.7%である。

③【株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
株主資本		
資本金		
前期末残高	265,608	265,608
当期末残高	265,608	265,608
資本剰余金		
資本準備金		
前期末残高	203,536	203,536
当期末残高	203,536	203,536
その他資本剰余金		
前期末残高	39	74
当期変動額		
自己株式の処分	34	10
当期変動額合計	34	10
当期末残高	74	84
資本剰余金合計		
前期末残高	203,576	203,610
当期変動額		
自己株式の処分	34	10
当期変動額合計	34	10
当期末残高	203,610	203,621
利益剰余金		
利益準備金		
前期末残高	66,363	66,363
当期末残高	66,363	66,363
その他利益剰余金		
固定資産圧縮積立金		
前期末残高	33,924	32,932
当期変動額		
固定資産圧縮積立金の積立	914	3,898
固定資産圧縮積立金の取崩	△1,906	△2,216
当期変動額合計	△992	1,682
当期末残高	32,932	34,614
特別償却準備金		
前期末残高	3,667	1,697
当期変動額		
特別償却準備金の取崩	△1,970	△1,155
当期変動額合計	△1,970	△1,155
当期末残高	1,697	541
別途積立金		
前期末残高	460,000	460,000
当期末残高	460,000	460,000

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
繰越利益剰余金		
前期末残高	54,853	82,504
当期変動額		
固定資産圧縮積立金の積立	△914	△3,898
固定資産圧縮積立金の取崩	1,906	2,216
特別償却準備金の取崩	1,970	1,155
剰余金の配当	△20,137	△16,781
当期純利益	44,825	18,411
当期変動額合計	27,651	1,103
当期末残高	82,504	83,608
利益剰余金合計		
前期末残高	618,809	643,497
当期変動額		
剰余金の配当	△20,137	△16,781
当期純利益	44,825	18,411
当期変動額合計	24,688	1,630
当期末残高	643,497	645,128
自己株式		
前期末残高	△5,040	△5,037
当期変動額		
自己株式の取得	△72	△21
自己株式の処分	76	38
当期変動額合計	3	17
当期末残高	△5,037	△5,019
株主資本合計		
前期末残高	1,082,953	1,107,679
当期変動額		
剰余金の配当	△20,137	△16,781
当期純利益	44,825	18,411
自己株式の取得	△72	△21
自己株式の処分	111	49
当期変動額合計	24,726	1,658
当期末残高	1,107,679	1,109,338

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
前期末残高	150,343	14,980
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△135,363	17,451
当期変動額合計	△135,363	17,451
当期末残高	14,980	32,431
繰延ヘッジ損益		
前期末残高	6,568	1,497
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△5,070	△1,967
当期変動額合計	△5,070	△1,967
当期末残高	1,497	△469
評価・換算差額等合計		
前期末残高	156,912	16,478
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△140,434	15,483
当期変動額合計	△140,434	15,483
当期末残高	16,478	31,961
新株予約権		
前期末残高	549	881
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	332	303
当期変動額合計	332	303
当期末残高	881	1,184
純資産合計		
前期末残高	1,240,415	1,125,039
当期変動額		
剰余金の配当	△20,137	△16,781
当期純利益	44,825	18,411
自己株式の取得	△72	△21
自己株式の処分	111	49
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△140,102	15,786
当期変動額合計	△115,375	17,445
当期末残高	1,125,039	1,142,484

【重要な会計方針】

<p>前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)</p>	<p>当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)</p>
<p>1. 有価証券の評価基準及び評価方法</p> <p>(1) 子会社株式及び関連会社株式 …移動平均法による原価法</p> <p>(2) その他有価証券</p> <p>① 時価のあるもの …決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）</p> <p>② 時価のないもの …移動平均法による原価法</p>	<p>1. 有価証券の評価基準及び評価方法</p> <p>(1) 子会社株式及び関連会社株式 同左</p> <p>(2) その他有価証券</p> <p>① 時価のあるもの 同左</p> <p>② 時価のないもの 同左</p>
<p>2. たな卸資産の評価基準及び評価方法</p> <p>(1) 商品及び製品 …移動平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）</p> <p>(2) 仕掛品 …個別法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）</p> <p>(3) 原材料及び貯蔵品 …移動平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）、ただし一部新造船建造用の規格鋼材については個別法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）、また一部の事業本部分については総平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）</p> <p>(会計方針の変更)</p> <p>当事業年度から、「棚卸資産の評価に関する会計基準」（企業会計基準第9号(平成18年7月5日公表分企業会計基準委員会))を適用している。</p> <p>これに伴う当事業年度末での簿価切下額は52,117百万円であり、期首時点での簿価切下額33,322百万円を「棚卸資産会計基準の適用に伴う影響額」として特別損失に計上している。</p> <p>この結果、営業利益及び経常利益は18,795百万円減少し、税引前当期純利益は52,117百万円減少している。</p>	<p>2. たな卸資産の評価基準及び評価方法</p> <p>(1) 商品及び製品 同左</p> <p>(2) 仕掛品 同左</p> <p>(3) 原材料及び貯蔵品 同左</p>
<p>3. 固定資産の減価償却の方法</p> <p>(1) 有形固定資産（リース資産を除く） 減価償却の方法は、建物（建物附属設備を除く）は定額法、建物以外は定率法によっており、耐用年数、残存価額及び償却限度額については、法人税法に定める基準と同一の基準を採用している。</p> <p>(追加情報)</p> <p>機械装置について、平成20年度税制改正を機に実態に即して資産区分及び耐用年数を見直している。</p> <p>これに伴い、営業利益、経常利益及び税引前当期純利益はそれぞれ5,151百万円減少している。</p>	<p>3. 固定資産の減価償却の方法</p> <p>(1) 有形固定資産（リース資産を除く） 同左</p>

<p style="text-align: center;">前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)</p>	<p style="text-align: center;">当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)</p>
<p>(2) 無形固定資産（リース資産を除く） 減価償却の方法は定額法によっており、耐用年数、残存価額及び償却限度額については、法人税法に定める基準と同一の基準を採用している。 なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっている。</p> <p>(3) リース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用している。 なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっている。</p> <p>(会計方針の変更) 所有権移転外ファイナンス・リース取引については、従来、賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっていたが、当事業年度から「リース取引に関する会計基準」（企業会計基準第13号(平成5年6月17日企業会計審議会第一部会)、平成19年3月30日改正)及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第16号(平成6年1月18日日本公認会計士協会 会計制度委員会)、平成19年3月30日改正)を適用し、通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理によっている。 なお、リース取引開始日が適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、引き続き通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を適用している。 これによる営業利益、経常利益及び税引前当期純利益に与える影響はない。</p>	<p>(2) 無形固定資産（リース資産を除く） 同左</p> <p>(3) リース資産 同左</p>
<p>4. 繰延資産の処理方法 繰延資産項目としては開発費があり、支出時に全額費用として処理している。</p>	<p>4. 繰延資産の処理方法 繰延資産項目としては社債発行費、開発費があり、支出時に全額費用として処理している。</p>

<p style="text-align: center;">前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)</p>	<p style="text-align: center;">当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)</p>
<p>5. 引当金の計上基準</p> <p>(1) 貸倒引当金 金銭債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により計上し、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し回収不能見込額を計上している。</p> <p>(2) 製品保証引当金 工事引渡後の製品保証費用の支出に備えるため、過去の実績を基礎に将来の製品保証費用を見積り、計上している。</p> <p>(3) 受注工事損失引当金 受注工事の損失に備えるため、未引渡工事のうち当事業年度末で損失が確実視され、かつ、その金額を合理的に見積ることができる工事について、翌事業年度以降に発生が見込まれる損失を引当計上している。 なお、受注工事損失引当金の計上対象案件のうち、当事業年度末の仕掛品残高が当事業年度末の未引渡工事の契約残高を既に上回っている工事については、その上回った金額は仕掛品の評価損として計上しており、受注工事損失引当金には含まれていない。</p> <p>(4) 係争関連損失引当金 係争案件の損害賠償等の支出に備えるため、損害賠償等の見積額を計上している。</p> <p>(5) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産（退職給付信託を含む）の見込額に基づき計上している。 過去勤務債務は一括費用処理することとしており、数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務年数による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌事業年度から費用処理することとしている。</p> <p>(追加情報) 当事業年度において、帳簿価額71,735百万円の投資有価証券を退職給付信託として107,840百万円抛出し、これに伴う退職給付信託設定益36,104百万円を特別利益に計上している。また、これにより退職給付引当金の残高は零となり、投資その他の資産に前払年金費用を計上している。</p> <p>(6) PCB廃棄物処理費用引当金 PCB（ポリ塩化ビフェニル）廃棄物の処理費用の支出に備えるため、処理費用及び収集運搬費用の見積額を計上している。</p>	<p>5. 引当金の計上基準</p> <p>(1) 貸倒引当金 同左</p> <p>(2) 製品保証引当金 同左</p> <p>(3) 受注工事損失引当金 同左</p> <p>(4) 係争関連損失引当金 同左</p> <p>(5) 退職給付引当金 同左</p> <p>(追加情報) 当事業年度において、退職年金制度の改定（退職給付付加利率の引下げ）を行った。 これに伴う退職給付債務の減少額4,950百万円は当事業年度に一括処理し、退職給付制度改定益として特別利益に計上している。</p> <p>(6) PCB廃棄物処理費用引当金 同左</p>

<p style="text-align: center;">前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)</p>	<p style="text-align: center;">当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)</p>
<p>6. 収益及び費用の計上基準</p> <p>売上高は、原則として引渡しを完了した事業年度に計上しているが、工期2年以上かつ請負金額50億円以上の長期請負工事については工事進行基準により計上している。</p>	<p>6. 収益及び費用の計上基準</p> <p>(1) 工事契約に係る収益及び費用の計上基準</p> <p>① 当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事 …工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）</p> <p>② その他の工事 …工事完成基準</p> <p>(会計方針の変更)</p> <p>請負工事に係る収益の計上基準については、従来、工期2年以上かつ請負金額50億円以上の長期請負工事については工事進行基準を、その他の工事については工事完成基準を適用していたが、当事業年度から、「工事契約に関する会計基準」（企業会計基準第15号(平成19年12月27日企業会計基準委員会)）及び「工事契約に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第18号(平成19年12月27日企業会計基準委員会)）を適用し、当事業年度に着手した工事契約から、当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）を、その他の工事については工事完成基準を適用している。これに伴い、売上高は9,994百万円増加し、営業利益、経常利益及び税引前当期純利益は、それぞれ2,360百万円増加している。</p>
<p>7. ヘッジ会計の方法</p> <p>(1) ヘッジ会計の方法</p> <p>主として繰延ヘッジ処理を採用している。なお、為替予約等が付されている外貨建金銭債権債務等（見込生産品に対し包括予約を締結している場合を除く）については、振当処理を採用しており、特例処理の要件を満たしている金利スワップについては特例処理を採用している。</p> <p>(2) ヘッジ手段とヘッジ対象</p> <p>外貨建金銭債権債務等（予定取引を含む）に対するヘッジ手段として、主として為替予約取引を、また主として借入金に対するヘッジ手段として金利スワップ取引を利用している。</p> <p>(3) ヘッジ方針</p> <p>主として当社の内部管理規程に基づき、通常行う取引に係る為替変動リスク及び金利変動リスクを回避することを目的に、実需の範囲内で行うこととしている。</p> <p>(4) ヘッジ有効性評価の方法</p> <p>原則としてヘッジ手段は、ヘッジ対象と元本、通貨、時期等の条件が同一の取引を締結することにより有効性は保証されている。</p>	<p>7. ヘッジ会計の方法</p> <p>(1) ヘッジ会計の方法 同左</p> <p>(2) ヘッジ手段とヘッジ対象 同左</p> <p>(3) ヘッジ方針 同左</p> <p>(4) ヘッジ有効性評価の方法 同左</p>

<p style="text-align: center;">前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)</p>	<p style="text-align: center;">当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)</p>
<p>8. その他</p> <p>(1) 消費税等の会計処理方法 消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によ っている。</p> <p>(2) 連結納税制度の適用 連結納税制度を適用している。</p>	<p>8. その他</p> <p>(1) 消費税等の会計処理方法 同左</p> <p>(2) 連結納税制度の適用 同左</p>

【注記事項】

(貸借対照表関係)

前事業年度 (平成21年3月31日)	当事業年度 (平成22年3月31日)
<p>1. 有形固定資産減価償却累計額</p> <p style="text-align: right;">1,384,860百万円</p>	<p>1. 有形固定資産減価償却累計額</p> <p style="text-align: right;">1,443,437百万円</p>
<p>2. 関係会社に対する主な資産・負債</p> <p>(1) 受取手形及び売掛金 249,114百万円</p> <p>(2) 買掛金 68,803</p> <p>(3) 短期借入金 78,380</p> <p>(4) 上記及び区分掲記した もの以外の資産 60,254</p>	<p>2. 関係会社に対する主な資産・負債</p> <p>(1) 受取手形及び売掛金 250,736百万円</p> <p>(2) 買掛金 56,881</p> <p>(3) 短期借入金 103,266</p> <p>(4) 上記及び区分掲記した もの以外の資産 49,939</p>
<p>3. 偶発債務</p> <p>金融機関借入金等に対する保証債務</p> <p>社員（住宅資金等借入） 48,490百万円</p> <p>Carboelectrica Diamante, S. A. de C. V. 26,551</p> <p>広東省珠海発電廠有限公司 18,954</p> <p>当社製印刷機械の購入者 15,219</p> <p>千代田リース株 12,497</p> <p>その他 32,922</p> <hr/> <p style="text-align: right;">計 154,636</p>	<p>3. 偶発債務</p> <p>金融機関借入金等に対する保証債務</p> <p>社員（住宅資金等借入） 42,967百万円</p> <p>Carboelectrica Diamante, S. A. de C. V. 34,156</p> <p>広東省珠海発電廠有限公司 12,740</p> <p>当社製印刷機械の購入者 11,496</p> <p>L&T-MHI Boilers Private Ltd. 5,410</p> <p>その他 34,852</p> <hr/> <p style="text-align: right;">計 141,623</p>
<p>4. _____</p>	<p>4. 損失が確実視される受注工事に係る仕掛品と受注工事 損失引当金は、相殺せずに両建てで表示している。 損失が確実視される受注工事に係る仕掛品のうち、受 注工事損失引当金に対応する額は10,124百万円であ る。</p>

(損益計算書関係)

前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
1. _____	1. 売上原価に含まれている受注工事損失引当金繰入額 24,321百万円
2. たな卸資産の収益性低下による簿価切下額 売上原価に含まれているたな卸資産の収益性低下による簿価切下額は18,795百万円である。 なお、当事業年度から「棚卸資産の評価に関する会計基準」を適用し、期首時点での簿価切下額33,322百万円を「棚卸資産会計基準の適用に伴う影響額」として特別損失に計上しており、当事業年度末での簿価切下額の総額は52,117百万円である。	2. たな卸資産の収益性低下による簿価切下額 売上原価に含まれているたな卸資産の収益性低下による簿価切下額は1,549百万円である。
3. 研究開発費の総額 46,835百万円 (当期製造費用に含まれている研究開発費はない。)	3. 研究開発費の総額 45,319百万円 (当期製造費用に含まれている研究開発費はない。)
4. 関係会社との主な取引高 売上高 542,192百万円 受取利息及び受取配当金 7,452	4. 関係会社との主な取引高 受取利息及び受取配当金 10,229百万円
5. 投資有価証券売却益 投資有価証券の内訳は次のとおりである。 関係会社株式 44,280百万円 (44,276) その他 197 計 44,477 (44,276) ()は関係会社に係るもので内数表示である。	5. 投資有価証券売却益 投資有価証券の内訳は次のとおりである。 関係会社株式 11百万円 その他 4,968 計 4,980
6. 固定資産売却益 固定資産売却益の内訳は次のとおりである。 土地 1,965百万円 (1,095) その他 448 (131) 計 2,414 (1,226) ()は関係会社に係るもので内数表示である。	6. 固定資産売却益 固定資産売却益の内訳は次のとおりである。 土地 7,959百万円 (-) その他 △205 (30) 計 7,754 (30) ()は関係会社に係るもので内数表示である。
7. 係争関連損失 係争関連損失は、ごみ焼却施設建設工事等の独占禁止法違反被疑事件について、同事件に関連して発生した損害賠償請求訴訟等に係る損失見積額及び同事件で違反行為があったと認められた場合における課徴金相当額等を計上したものである。	7. _____
8. 事業構造改善費用 事業構造改善費用は中量産品事業、原動機事業等に係る関係会社再編関連費用である。	8. 事業構造改善費用 事業構造改善費用は中量産品事業、原動機事業等に係るものであり、内訳は次のとおりである。 事業再編関連費用 6,443百万円 事業撤退関連費用 7,234 計 13,677

前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)																				
9.	<p>9. 減損損失</p> <p>(1) 減損損失を認識した資産グループの概要</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">用途</th> <th style="text-align: center;">種類</th> <th style="text-align: center;">場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">事業用資産</td> <td style="text-align: center;">機械及び装置等</td> <td style="text-align: center;">長崎県諫早市 広島県三原市</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 資産のグルーピングの方法 資産グルーピングは事業所単位とし、遊休資産及び事業の廃止・移管に伴う処分見込資産は原則として個々の資産グループとして取り扱っている。</p> <p>(3) 減損損失の認識に至った経緯 一部の資産について、事業の廃止・移管に伴って使用見込みがなくなったことにより、帳簿価額を回収可能価額まで減額している。</p> <p>(4) 回収可能価額の算定方法 回収可能価額は正味売却価額又は使用価値により測定している。正味売却価額は、処分見込価額から処分見込費用を控除した額を使用しており、使用価値は将来キャッシュ・フローに基づき算定(割引率3.8%)している。</p> <p>(5) 減損損失の金額 減損処理額4,303百万円は事業構造改善費用に含めて特別損失に計上しており、固定資産の種類ごとの内訳は次のとおりである。</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td style="width: 80%;">機械及び装置</td> <td style="text-align: right;">3,992百万円</td> </tr> <tr> <td>建物等</td> <td style="text-align: right;">311</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">4,303</td> </tr> </table>	用途	種類	場所	事業用資産	機械及び装置等	長崎県諫早市 広島県三原市	機械及び装置	3,992百万円	建物等	311	計	4,303								
用途	種類	場所																			
事業用資産	機械及び装置等	長崎県諫早市 広島県三原市																			
機械及び装置	3,992百万円																				
建物等	311																				
計	4,303																				
<p>10. 投資有価証券評価損</p> <p>投資有価証券評価損の内訳は次のとおりである。</p> <table style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 80%;">関係会社株式</td> <td style="text-align: right;">3,044百万円</td> </tr> <tr> <td>株式</td> <td style="text-align: right;">379</td> </tr> <tr> <td>関係会社出資金</td> <td style="text-align: right;">363</td> </tr> <tr> <td>ゴルフ会員権</td> <td style="text-align: right;">29</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">3,815</td> </tr> </table>	関係会社株式	3,044百万円	株式	379	関係会社出資金	363	ゴルフ会員権	29	計	3,815	<p>10. 投資有価証券評価損</p> <p>投資有価証券評価損の内訳は次のとおりである。</p> <table style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 80%;">株式</td> <td style="text-align: right;">1,362百万円</td> </tr> <tr> <td>関係会社株式</td> <td style="text-align: right;">451</td> </tr> <tr> <td>関係会社出資金</td> <td style="text-align: right;">173</td> </tr> <tr> <td>出資金</td> <td style="text-align: right;">139</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">2,125</td> </tr> </table>	株式	1,362百万円	関係会社株式	451	関係会社出資金	173	出資金	139	計	2,125
関係会社株式	3,044百万円																				
株式	379																				
関係会社出資金	363																				
ゴルフ会員権	29																				
計	3,815																				
株式	1,362百万円																				
関係会社株式	451																				
関係会社出資金	173																				
出資金	139																				
計	2,125																				

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前事業年度末 株式数(株)	当事業年度 増加株式数(株)	当事業年度 減少株式数(株)	当事業年度末 株式数(株)
普通株式(注)	17,489,780	165,115	263,943	17,390,952

(注) 増加株式数の内訳は、次のとおりである。

単元未満株式の買取り 165,115株

減少株式数の内訳は、次のとおりである。

ストック・オプションの付与を目的に発行した新株予約権の権利行使に伴う処分 167,000株

単元未満株式を保有する株主からの買増し請求への対応に伴う処分 96,943株

当事業年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前事業年度末 株式数(株)	当事業年度 増加株式数(株)	当事業年度 減少株式数(株)	当事業年度末 株式数(株)
普通株式(注)	17,390,952	61,401	134,588	17,317,765

(注) 増加株式数の内訳は、次のとおりである。

単元未満株式の買取り 61,401株

減少株式数の内訳は、次のとおりである。

ストック・オプションの付与を目的に発行した新株予約権の権利行使に伴う処分 122,000株

単元未満株式を保有する株主からの買増し請求への対応に伴う処分 12,588株

(有価証券関係)

前事業年度(平成21年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式で時価のあるもの

区分	貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
子会社株式	—	—	—
関連会社株式	80,794	109,998	29,203

当事業年度(平成22年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式

区分	貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
子会社株式	—	—	—
関連会社株式	81,031	111,886	30,854

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式

区分	貸借対照表計上額 (百万円)
子会社株式	227,814
関連会社株式	48,567

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「子会社株式及び関連会社株式」には含めていない。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成21年3月31日)	当事業年度 (平成22年3月31日)
繰延税金資産		
退職給付引当金	90,683百万円	88,629百万円
残工事見積計上額	21,009	23,185
保証・無償工事見積計上額	18,646	20,232
棚卸資産評価損	16,001	18,485
投資有価証券評価損	17,661	18,293
製品保証引当金	—	11,600
受注工事損失引当金	16,237	9,043
その他	83,726	65,250
繰延税金資産小計	263,963	254,717
評価性引当額	△41,700	△39,873
繰延税金資産合計	222,263	214,844
繰延税金負債		
退職給付信託設定損益	△84,421	△80,818
その他有価証券評価差額	△18,845	△25,440
固定資産圧縮積立金	△22,416	△23,571
繰延ヘッジ損益	△1,637	—
特別償却準備金	△1,155	—
その他	△1,359	△1,771
繰延税金負債合計	△129,833	△131,600
繰延税金資産(負債)の純額	92,430	83,244

- (注) 1. 前事業年度の繰延税金資産「その他」には、「製品保証引当金」9,668百万円を含む。
 2. 当事業年度の繰延税金負債「その他」には、「特別償却準備金」△369百万円を含む。
 3. 前事業年度及び当事業年度における繰延税金資産(負債)の純額は、貸借対照表の以下の項目に含まれている。

	前事業年度 (平成21年3月31日)	当事業年度 (平成22年3月31日)
流動資産－繰延税金資産	109,921百万円	110,696百万円
固定負債－繰延税金負債	17,491	27,452

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成21年3月31日)	当事業年度 (平成22年3月31日)
法定実効税率	40.5%	40.5%
(調整)		
交際費損金不算入	1.3	3.7
受取配当金益金不算入	△36.8	△21.4
評価性引当額	28.2	△8.3
試験研究費税額控除	△7.5	△7.1
外国税額	—	4.2
その他	3.4	4.4
税効果会計適用後の法人税等の負担率	29.1	16.0

- (注) 前事業年度の調整項目「その他」には、「外国税額」△0.3%を含む。

(1株当たり情報)

前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)		当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	
1株当たり純資産額	334円94銭	1株当たり純資産額	340円04銭
1株当たり当期純利益金額	13円36銭	1株当たり当期純利益金額	5円49銭
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額	13円35銭	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額	5円48銭

(注) 1. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりである。

	前事業年度末 (平成21年3月31日)	当事業年度末 (平成22年3月31日)
純資産の部の合計額 (百万円)	1,125,039	1,142,484
純資産の部の合計額から控除する金額 (百万円)	881	1,184
(うち新株予約権)	(881)	(1,184)
普通株式に係る期末の純資産額 (百万円)	1,124,158	1,141,300
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の 普通株式の数 (千株)	3,356,256	3,356,330

2. 1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりである。

	前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益 (百万円)	44,825	18,411
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	—	—
普通株式に係る当期純利益 (百万円)	44,825	18,411
期中平均株式数 (千株)	3,356,211	3,356,275
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額		
普通株式増加数 (千株)	619	787
(うち新株予約権)	(619)	(787)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式の概要	新株予約権6種類(新株予約権の総数1,388個)、概要は「第4 提出会社の状況 1 株式等の状況 (2) 新株予約権等の状況」に記載のとおり。	新株予約権5種類(新株予約権の総数2,166個)、概要は「第4 提出会社の状況 1 株式等の状況 (2) 新株予約権等の状況」に記載のとおり。

(重要な後発事象)

前事業年度(自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)

該当事項なし。

当事業年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

該当事項なし。

④【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

		銘柄	株式数 (千株)	貸借対照表計上額 (百万円)
投資有価証券	その他 有価証券	ジェイ エフ イー ホールディングス(株)	4,214	15,866
		関西電力(株)	5,995	12,841
		旭硝子(株)	10,227	10,769
		東海旅客鉄道(株)	15	10,554
		(株)ニコン	4,828	9,853
		九州電力(株)	3,975	8,089
		新日本製鐵(株)	15,576	5,716
		(株)日本製鋼所	5,031	5,388
		三菱マテリアル(株)	19,210	5,167
		東レ(株)	8,141	4,444
		スズキ(株)	2,038	4,203
		東日本旅客鉄道(株)	645	4,192
		中部電力(株)	1,724	4,029
		新日本石油(株)	6,688	3,150
		(株)商船三井	4,118	2,763
		日本原燃(株)	267	2,666
	その他 (315銘柄)	150,727	61,927	
		計	243,419	171,624

【その他】

		種類	出資総額等 (百万円)	貸借対照表計上額 (百万円)
有価証券	その他 有価証券	譲渡性預金 (1銘柄)	—	7
投資有価証券		出資証券 (7銘柄)	993	31
		計	993	39

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	前期末残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価償却累計額又は償却累計額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引 当期末残高 (百万円)
有形固定資産							
建物	514,040	23,620	6,911 (197)	530,749	292,161	13,757	238,588
構築物	94,280	3,065	1,262 (45)	96,083	70,655	3,137	25,427
ドック船台	20,723	987	222	21,487	17,971	226	3,516
機械及び装置	896,036	70,294	30,573 (3,992)	935,757	720,560	57,282	215,196
船舶	197	—	—	197	186	3	10
航空機	1,219	—	—	1,219	1,114	46	105
車両運搬具	18,002	855	414 (3)	18,442	15,108	1,545	3,334
工具、器具及び備品	361,854	21,096	19,876 (64)	363,073	325,083	29,088	37,989
土地	118,872	3,346	118	122,100	—	—	122,100
リース資産	2,720	1,145	4	3,860	595	501	3,265
建設仮勘定	44,654	124,080	121,516	47,218	—	—	47,218
有形固定資産計	2,072,601	248,491	180,901 (4,303)	2,140,191	1,443,437	105,590	696,753
無形固定資産							
ソフトウェア	—	—	—	29,647	20,024	5,291	9,622
施設利用権	—	—	—	4,595	3,670	283	924
リース資産	—	—	—	32	5	4	27
その他	—	—	—	290	45	19	244
無形固定資産計	—	—	—	34,565	23,746	5,598	10,819
長期前払費用	85,529	12,396	2,425	95,499	62,728	17,588	32,770

(注) 1. 当期増加額の主なものは次のとおりである。

機械及び装置

高砂製作所	13,798百万円
長崎造船所	11,314
神戸造船所	10,036
横浜製作所	7,593
名古屋航空宇宙システム製作所	6,497

建設仮勘定

高砂製作所	26,646百万円
長崎造船所	23,785
神戸造船所	18,694
名古屋航空宇宙システム製作所	12,195
横浜製作所	10,962

2. 無形固定資産の金額は資産総額の1%以下であるため、「前期末残高」、「当期増加額」及び「当期減少額」の記載を省略している。

3. 有形固定資産の「当期減少額」の()内は内数で、減損損失の計上額である。

【引当金明細表】

区分	前期末残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金	20,368	6,758	12,831	(注) 152	14,143
製品保証引当金	23,872	13,134	8,370	—	28,636
受注工事損失引当金	36,516	24,321	39,085	—	21,752
係争関連損失引当金	23,300	2,008	11,367	—	13,941
PCB廃棄物処理費用引当金	4,043	3,645	694	—	6,993

(注) 主に、貸倒懸念債権における債権回収等に伴う取崩発生による減少額である。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

当事業年度末（平成22年3月31日現在）における主な資産及び負債の内容は次のとおりである。

① 現金及び預金

区分	金額（百万円）	区分	金額（百万円）
現金	201	普通預金	177,925
当座預金	35	定期預金	8,212
通知預金	10	合計	186,384

② 受取手形

相手先	金額（百万円）	相手先	金額（百万円）
(株)カナックス	789	神戸発動機(株)	357
尾道造船(株)	525	幸陽船渠(株)	263
千代田化工建設(株)	441	その他	2,743
		合計	5,120

期日別内訳

期日別	1か月内	2か月内	3か月内	4か月内	5か月内	6か月内	6か月を超えるもの	計
金額（百万円）	1,003	1,291	1,377	1,082	285	23	55	5,120

③ 売掛金

相手先	金額（百万円）	相手先	金額（百万円）
防衛省	122,547	民間航空機(株)	23,783
Mitsubishi Power Systems Americas, Inc.	64,032	PT. Paiton Energy	21,295
川崎重工業(株)	23,907	その他	561,028
		合計	816,594

(注) 上記売掛金の滞留期間

(A) 当事業年度末残高 816,594百万円 滞留期間 = (A ÷ B ÷ 12) × 30日 = 118日
 (B) 当事業年度中請求高 2,486,083百万円

④ たな卸資産
商品及び製品

区分	金額 (百万円)	区分	金額 (百万円)
原動機	60,059	航空・宇宙 (航空機用エンジン部品ほか)	5,472
中量産品 (印刷機械・建設機械・小型エンジン・エアコンほか)	23,770	その他	4,539
		合計	93,841

仕掛品

区分	金額 (百万円)	区分	金額 (百万円)
船舶・海洋 (輸出船・国内船ほか)	131,078	航空・宇宙 (航空機・宇宙機器ほか)	334,845
原動機 (タービン・ボイラほか)	204,003	中量産品 (印刷機械・建設機械・小型エンジン・エアコンほか)	69,225
機械・鉄構 (製鉄機械・鉄構製品ほか)	42,329	その他	1,763
		合計	783,246

原材料及び貯蔵品

区分	金額 (百万円)	区分	金額 (百万円)
普通鋼鋼材	7,251	地金	680
特殊鋼鋼材	8,037	部分品	59,311
非鉄金属	10,308	その他	7,294
金属二次材料	12,542	簿価切下額	△1,796
		合計	103,630

⑤ 関係会社株式

銘柄	金額 (百万円)	銘柄	金額 (百万円)
三菱自動車工業株 (普通株式)	76,517	Mitsubishi Heavy Industries America, Inc.	31,054
(優先株式)	24,475	Mitsubishi Turbocharger Asia Co., Ltd.	14,169
三菱航空機株	64,000	その他	115,215
MHI International Investment B.V.	31,981	合計	357,413

⑥ 買掛金

相手先	金額 (百万円)	相手先	金額 (百万円)
三菱電機株	18,553	株メタルワン	6,954
住友商事株	16,534	川崎重工業株	6,351
株I H I エアロスペース	7,194	その他	502,619
		合計	558,207

⑦ 前受金

相手先	金額 (百万円)	相手先	金額 (百万円)
Nuon Power Projects I B.V.	24,174	独立行政法人宇宙航空研究開発機構	12,939
防衛省	21,459	CLIO MARINE INC.	12,864
関西電力㈱	18,862	その他	243,711
		合計	334,011

⑧ 社債

銘柄	発行年月日	発行総額 (百万円)	償還額 (百万円)	未償還残高 (百万円)	発行価格 (円)	利率 (%)	償還期限	摘要
	平成年月日						平成年月日	
三菱重工業㈱ 第14回 無担保社債	15. 1. 31	20,000	20,000	—	100.00	0.63	22. 1. 29	社債償還 資金等
三菱重工業㈱ 第15回 無担保社債	15. 1. 31	30,000	—	30,000	100.00	1.03	25. 1. 31	〃
三菱重工業㈱ 第16回 無担保社債	15. 6. 24	20,000	—	20,000 (20,000)	100.00	0.365	22. 6. 24	〃
三菱重工業㈱ 第17回 無担保社債	15. 6. 24	50,000	—	50,000	100.00	0.70	25. 6. 24	〃
三菱重工業㈱ 第18回 無担保社債	18. 9. 7	10,000	—	10,000	100.00	1.45	23. 9. 7	運転資金 及び設備 資金
三菱重工業㈱ 第19回 無担保社債	18. 9. 7	20,000	—	20,000	100.00	2.04	28. 9. 7	〃
三菱重工業㈱ 第20回 無担保社債	19. 9. 12	50,000	—	50,000	100.00	1.47	24. 9. 12	〃
三菱重工業㈱ 第21回 無担保社債	19. 9. 12	20,000	—	20,000	100.00	1.69	26. 9. 12	〃
三菱重工業㈱ 第22回 無担保社債	19. 9. 12	60,000	—	60,000	100.00	2.03	29. 9. 12	〃
三菱重工業㈱ 第23回 無担保社債	21. 12. 9	50,000	—	50,000	100.00	0.688	26. 12. 9	〃
三菱重工業㈱ 第24回 無担保社債	21. 12. 9	50,000	—	50,000	100.00	1.482	31. 12. 9	〃
合計		380,000	20,000	360,000 (20,000)				

(注) 未償還残高の () 内の金額は、1年内に償還が予定されている金額である。

⑨ 長期借入金

相手先	金額（百万円）	相手先	金額（百万円）
(株)三菱東京UFJ銀行	153,300	日本生命保険（相）	78,280
明治安田生命保険（相）	122,100	(株)みずほコーポレート銀行	72,000
三菱UFJ信託銀行(株)	105,500	その他（注）1	327,992
		合計	859,172

（注）1. 輸出引当借入金486百万円を含む。

2. 上記借入金の使途は運転資金及び設備資金である。

- (3) 【その他】
該当事項なし。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日、3月31日
1単元の株式数	1,000株
単元未満株式の買取り及び買増し 取扱場所 株主名簿管理人 取次所 買取・買増手数料	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社本店 証券代行部 (特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 — 無料
公告掲載方法	電子公告 http://www.mhi.co.jp ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合には、東京都内において発行する日本経済新聞に掲載して行う。
株主に対する特典	なし

(注) 当社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができない。

- (1) 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
- (2) 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
- (3) 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利
- (4) 当社に対して、単元株式数となる数の株式を売り渡すことを請求する権利

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社に親会社等はない。

2【その他の参考情報】

当社は、当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間において、次の金融商品取引法第25条第1項各号に掲げる書類を提出している。

(1) 発行登録追補書類（株券、社債券等）及びその添付書類

平成21年12月3日 関東財務局長に提出

(2) 訂正発行登録書

平成21年4月1日

平成21年5月19日

平成21年6月25日

平成21年7月31日

平成21年8月11日

平成21年8月24日

平成21年9月11日

平成21年11月12日

平成22年2月12日

平成22年4月1日

関東財務局長に提出

(3) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

（事業年度（平成20年度）自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日）

平成21年6月25日 関東財務局長に提出

(4) 内部統制報告書及びその添付書類

平成21年6月25日 関東財務局長に提出

(5) 四半期報告書及び確認書

（平成21年度第1四半期）（自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日）

平成21年8月11日 関東財務局長に提出

（平成21年度第2四半期）（自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日）

平成21年11月12日 関東財務局長に提出

（平成21年度第3四半期）（自 平成21年10月1日 至 平成21年12月31日）

平成22年2月12日 関東財務局長に提出

(6) 四半期報告書の訂正報告書及び確認書

平成21年8月24日 関東財務局長に提出

（平成21年度第1四半期）（自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日）の四半期報告書に係る訂正報告書及びその確認書である。

(7) 臨時報告書

平成21年7月31日 関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第2号の2（新株予約権の発行）に基づく臨時報告書である。

平成21年9月11日 関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第3号（特定子会社の異動）に基づく臨時報告書である。

平成22年4月1日 関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号（代表取締役の異動）に基づく臨時報告書である。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項なし。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成21年6月25日

三菱重工業株式会社

取締役社長 大宮英明殿

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	渋谷 道夫	Ⓔ
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	上田 雅之	Ⓔ
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	石井 一郎	Ⓔ
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	森田 祥且	Ⓔ

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている三菱重工業株式会社の平成20年4月1日から平成21年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書及び連結附属明細表について監査を行った。この連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、三菱重工業株式会社及び連結子会社の平成21年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

追記情報

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項4. (1)②に記載されているとおり、会社は当連結会計年度から、棚卸資産の評価に関する会計基準を適用している。

<内部統制監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、三菱重工業株式会社の平成21年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。財務報告に係る内部統制を整備及び運用並びに内部統制報告書を作成する責任は、経営者にあり、当監査法人の責任は、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。また、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。内部統制監査は、試査を基礎として行われ、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果についての、経営者が行った記載を含め全体としての内部統制報告書の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、内部統制監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、三菱重工業株式会社が平成21年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

※1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. 連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成22年6月24日

三菱重工業株式会社

取締役社長 大宮英明 殿

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	上田 雅之	Ⓜ
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	石井 一郎	Ⓜ
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	森田 祥且	Ⓜ

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている三菱重工業株式会社の平成21年4月1日から平成22年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書及び連結附属明細表について監査を行った。この連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、三菱重工業株式会社及び連結子会社の平成22年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

<内部統制監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、三菱重工業株式会社の平成22年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。財務報告に係る内部統制を整備及び運用並びに内部統制報告書を作成する責任は、経営者にあり、当監査法人の責任は、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。また、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。内部統制監査は、試査を基礎として行われ、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果についての、経営者が行った記載を含め全体としての内部統制報告書の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、内部統制監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、三菱重工業株式会社が平成22年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

※1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. 連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成21年6月25日

三菱重工業株式会社

取締役社長 大宮英明 殿

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	渋谷 道夫	㊞
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	上田 雅之	㊞
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	石井 一郎	㊞
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	森田 祥且	㊞

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている三菱重工業株式会社の平成20年4月1日から平成21年3月31日までの平成20年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、三菱重工業株式会社の平成21年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

追記情報

重要な会計方針2.に記載されているとおり、会社は当事業年度から、棚卸資産の評価に関する会計基準を適用している。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

※1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成22年6月24日

三菱重工業株式会社

取締役社長 大宮英明 殿

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 上田 雅之 ㊞

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 石井 一郎 ㊞

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 森田 祥且 ㊞

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている三菱重工業株式会社の平成21年4月1日から平成22年3月31日までの平成21年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、三菱重工業株式会社の平成22年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

※1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。